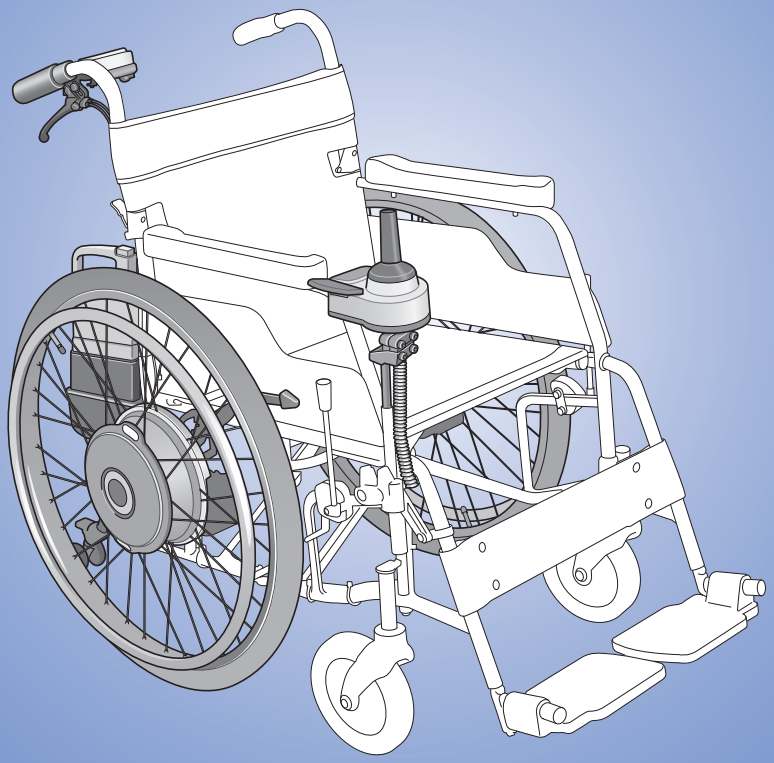
YAMAHA

軽量型電動車イス

JWアクティブ

車イス用電動ユニット

JWX-1



取扱説明書

⚠ご使用の前には必ず取扱説明書をよく読んでください。

安全で快適にご使用いただくために、必ずこの取扱説明書をお読みください。また、お読みになったあともいつでも読み返せるように、大切に保管してください。

X0C-28199-01

目　次

1.　最初にお読みください　1

1.1. はじめに　1
1.2. 本書の見方　1
1.3. 必ずお読みください　2
1.4. 走行診断チェック　5
1.5. 介助者のかたへ　6
1.6. 警告ラベル配置図　7

2.　各部の名称　9

2.1. JWX-1 ユニット取付け例　9
2.2. JW アクティブ P タイプ　11
2.3. JW アクティブ S タイプ　12

3.　さぁ乗ってみましょう　13

3.1. 車イスに乗る前に（乗車前点検）　13
3.2. 走行開始から終了まで　18
3.3. 走行時の機能紹介　22
3.4. 基本操作を練習しましょう　24
3.5. 走行時に守っていただくこと　26
3.6. 介助用操作部の使い方　31

4.　バッテリーについて　35

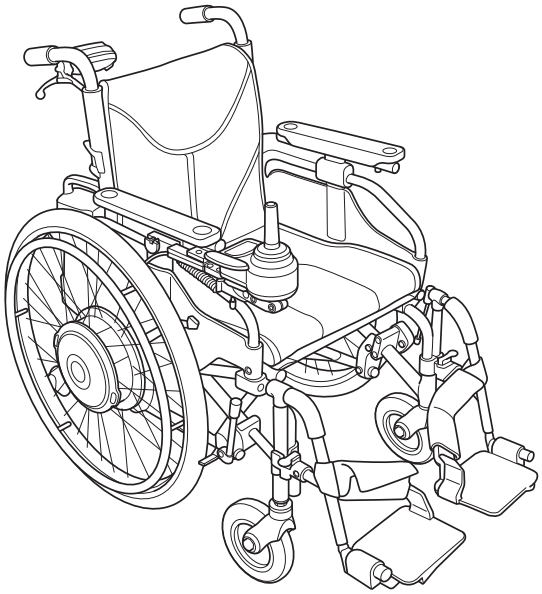
4.1. 使用するバッテリーの確認　35
4.2. ニッケル水素バッテリー（JWB2）　36
4.3. ニッケル水素バッテリー（JWB2）の充電について　40
4.4. リチウムイオンバッテリー (ESB1)　46
4.5. リチウムイオンバッテリー（ESB1）の充電について　52

5.　運搬および保管方法について　57
5.1. 車イスの積み込み方法　58
5.2. 車イスの降ろし方法　60
5.3. 車イスの保管方法　61
6.　海外渡航について　63
6.1. 航空機搭乗時　63
6.2. 海外滞在時　64
7.　より快適にご使用されるために　65
7.1. 乗降や収納等に便利な機能　65
7.2. 操作性や乗り心地を更に高める機能　74
8.　定期点検のおすすめ　79
9.　寸法・仕様諸元　81
9.1. 外観図　81
9.2. 仕様諸元　83
10. もしもこんな時は・・・　85
10.1.修理を依頼する前に　85
10.2.修理や点検のご用命は　88
10.3.製造番号 記載箇所　88
10.4.保証について　88

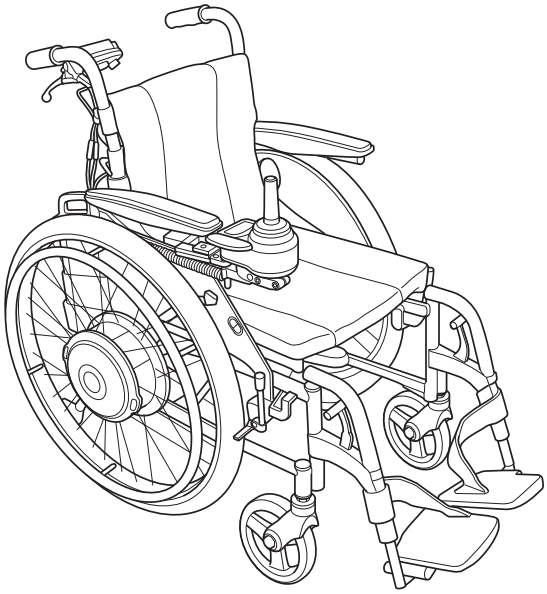
本書は、軽量型電動車イス JWアクティブ（Pタイプ・Sタイプ）および
車イス用電動ユニット JWX-1の取扱説明書です。
本書をお読みになる前にご使用になる商品を確認してください。

JWアクティブ（軽量型電動車イス）

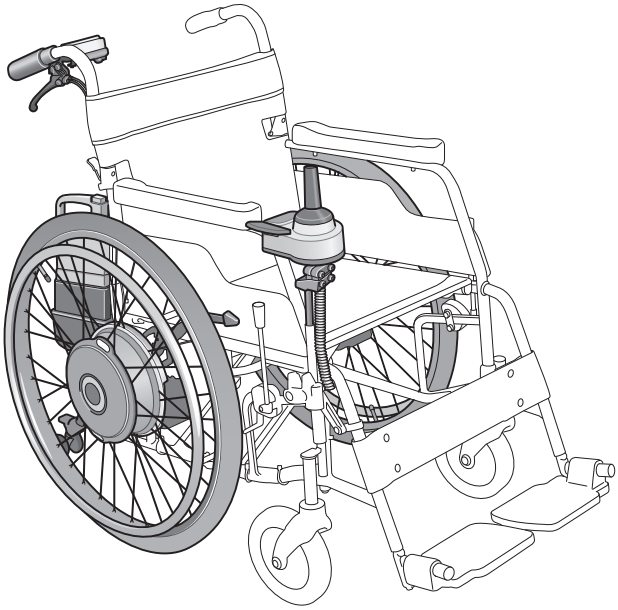
Pタイプ



Sタイプ



JWX-1（車イス用電動ユニット）



1. 最初にお読みください

1.1. はじめに

このたびは、JWアクティブ JWX-1をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。
一般的に車イスでの走行は、ご使用方法を誤りますと路面や交通状況によって、けがをされたり車イスが破損するおそれがあります。また障害の種類や程度によっては、単独での自走操作はたいへん危険です。
必ずお乗りいただく前に、お乗りになる方だけでなく、介助される方や管理される方も本書をよくお読みになり、安全で快適にご使用ください。
また、同封の車イス保証登録書および安全運転の手引きも合わせてお読みください。

1.2. 本書の見方

正しい取り扱いに関する必要事項を下記シンボルマークで表示しています。

⚠	安全にかかわる注意情報を示しています。
⚠ 警　告	取り扱いを誤った場合、死亡・重傷・障害に至る可能性が想定される場合を示します。
注　意	取り扱いを誤った場合、物的損害の発生が想定される場合を示します。
⊘	してはいけないことを示しています。
💡	正しい操作の仕方や操作上のポイントを示しています。

その他の特記事項

(1) 本製品は、電動車イス（簡易型）となります。それ以外の用途には使用しないでください。

(2) 本製品は、道路交通法上では身体障がい者用車イスであり歩行者として扱われます。従って、歩行者としての交通ルールやマナーを守ってください。

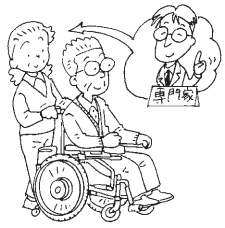
(3) 本製品には、安全に使用していただくため、「警告」、「注意」の安全表示ラベルを添付しています。必ず守ってください。

1.3. 必ずお読みください

JWアクティブ JWX-1は、簡易型電動車イス（手動兼用型）であり、機動性や軽量性を重視しているため、ハンドル型電動車イス・普通型電動車イスと比較し、坂道や悪路などの走行にはより注意が必要です。

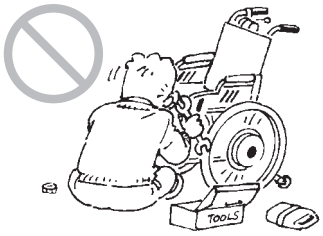
走行時に守っていただくことが28頁～ 30頁に記載されてきます。
必ずお読みください。

⚠ 警　告



● 車イスを使用する時は、必ず介助者が必要かどうか適性を判断してください。また介助者の必要・不必要の判断は専門家の意見を参考に行ってください。ご自身の意見のみで判断されますとご自身や周囲の人がけがをするおそれがあります。

● 本格的にご使用になる前に平坦で安全な場所で介助者同伴のもとで走行の練習をしてください。
不慣れな状態で一般公道に出ますとご自身や周囲の人がけがをするおそれがあります。

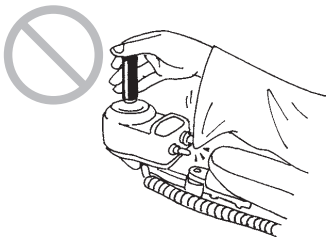


● JWX-1 のユニットや取付け部に改造を加えると性能低下や安全性を損なうことがあります。絶対にしないでください。

● 下記事項のような車イスに適さない服装では走行しないでください。
適さない服装で運転しますとご自身や周囲の人がけがをするおそれがあります。

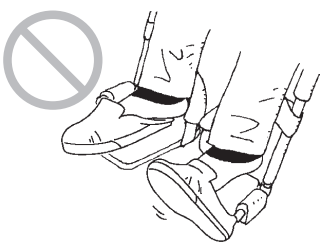
丈の長いマフラー

袖口の広い服



裾の広いズボン・スカート

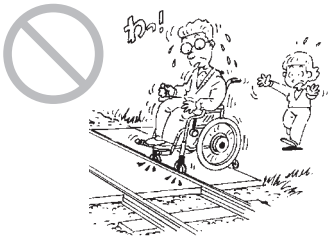
フットサポートにしっかりのらない履き物



⚠ 警　告

● 環境や場所によっては、介助者の同行や操作が必要な場合があります。下記事例においては、介助者が同行してください。単独運転では、けがをするおそれがあります。

踏切や路面電車の線路を渡るとき

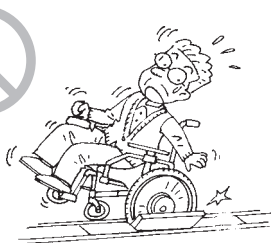


- 線路内にキャスターを落とすおそれがあります。

柵がない歩道

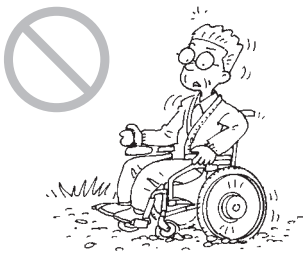
- 車道に転落するおそれがあります。

側溝や下水溝の格子状フタ



- キャスターを落とすおそれがあります。

砂利道や泥濘地

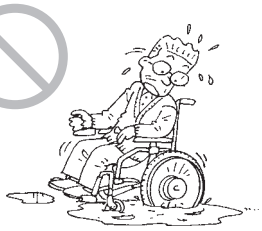


- タイヤが埋まり、身動きがとれなくなるおそれがあります。

車体が左右に大きく傾斜する場所

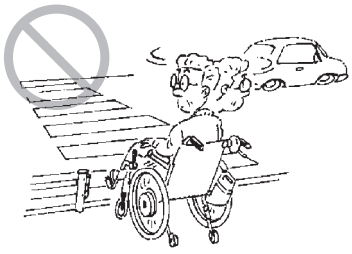
- 横転するおそれがあります。

雪上・水溜りのある道路



- スリップしてコントロールができなかったり、ブレーキが効かないおそれがあります。

不慣れな道路の横断



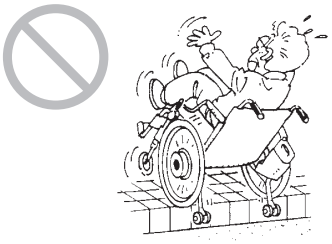
- 特に信号機のない横断歩道では、左右の交通に十分注意して渡ってください。
- また、信号機のある横断歩道でも、広い道路では横断中に信号が変わるおそれがあります。
  そうした場所では、次の青になるまで待って余裕を持って渡るようにしてください。
- 狭い車道の脇を走るのは大変危険です。できるだけ安全な道筋を選んでください。
- バッテリーが切れかかっている場合は、横断中にバッテリー切れになり動かなくなるおそれがあります。

⚠ 警　告

夜間走行

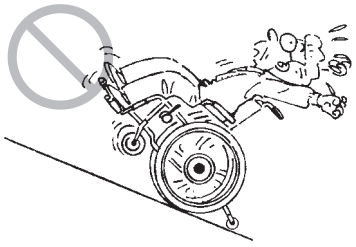
- 路面状態が確認できずに転倒したり、第三者が認識できないために衝突するおそれがあります。

大きな段差を越えるとき



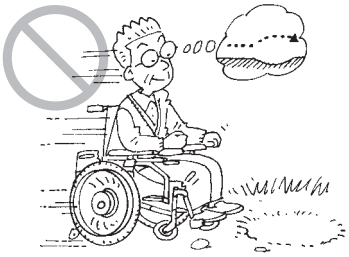
- 周りの状況を常にチェックし、安全確認を遂行してください。
- 必要がある場合は、必ず介助者が同行し安全確認を行ってください。

不慣れな坂道の登り降り



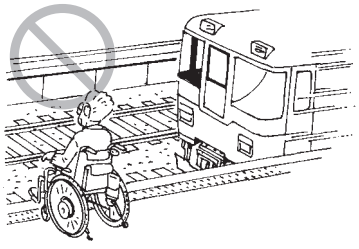
- 初めて上り下りする坂では、介助者が同行し安全確認を行ってください。

大きなくぼみを越えるとき



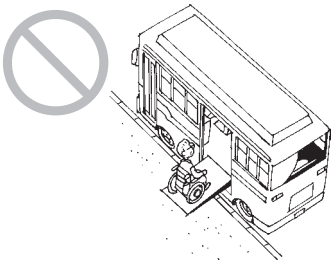
- 道路にくぼみがあったり歩道に車出入り用スロープが設けてある場合、できる限り回避してください。そのまま走行しますと横転するおそれがあります。やむを得ず走行しなくてはならない場合は、介助者が同行し安全確認を行ってください。

プラットフォーム



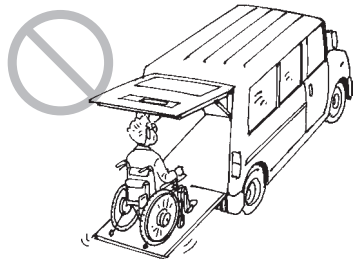
- 線路に転落するおそれがあります。

バス・電車の乗降



- 必ず介助者が同行し安全確認を行ってください。

リフト付車両への乗降



- 必ず介助者が同行し安全確認を行ってください。

1.4. 走行診断チェック

単独で走行ができる方とできない方がいます。
また、介助することができる方とできない方がいます。
この診断チェックをご利用していただき適性判断の目安にしてください。
車イスを使用する時は、必ず介助者が必要かどうか適性を判断してください。
また介助者の必要・不必要の判断は専門家の意見を参考に行ってください。
ご自身の意見のみで判断されますとご自身や周囲の人がけがをするおそれがあります。

チェック 1

(1) 自走用操作部のノブやスイッチを自分の意志どおりに動かすことができますか？

(2) 周囲の状況を正しく理解し走行すべきか気にかけることができますか？

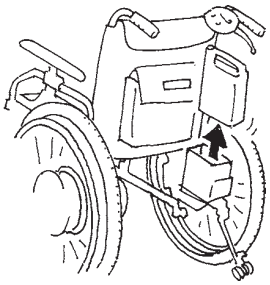
両方ともできる

いずれかに不安がある。

介助者に介助操作をしてもらってください。

チェック 2

(1) 駐車ブレーキやクラッチレバーの操作ができますか？



(2) 車イスの乗り降りやバッテリー交換ができますか？

両方ともできる

いずれかに不安がある。

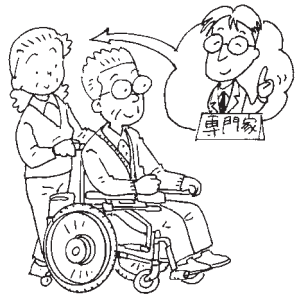
介助者に同行してもらってください。

単独走行は可能ですが、安全のために慎重な走行に心掛けてください。
不慣れな場所では必ず介助者が同行し、十分安全に配慮して走行してください。

1.5. 介助者のかたへ

下記３項目を目安に適性を判断してください。

⚠ 警　告



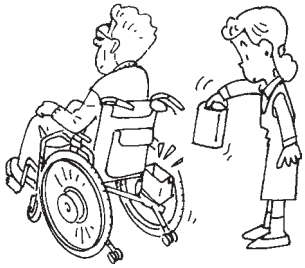
● 介助者が同行・操作する場合は、必ず介助者の適性を判断してください。また、介助者の適性判断は専門家の意見を参考にして行ってください。ご自身の意見のみで判断されますとご自身や周囲の人がけがをするおそれがあります。

● 介助操作の適性がない人は介助操作をしないでください。

チェック

下記3項目が全てできる方は、介助者として適性があります。

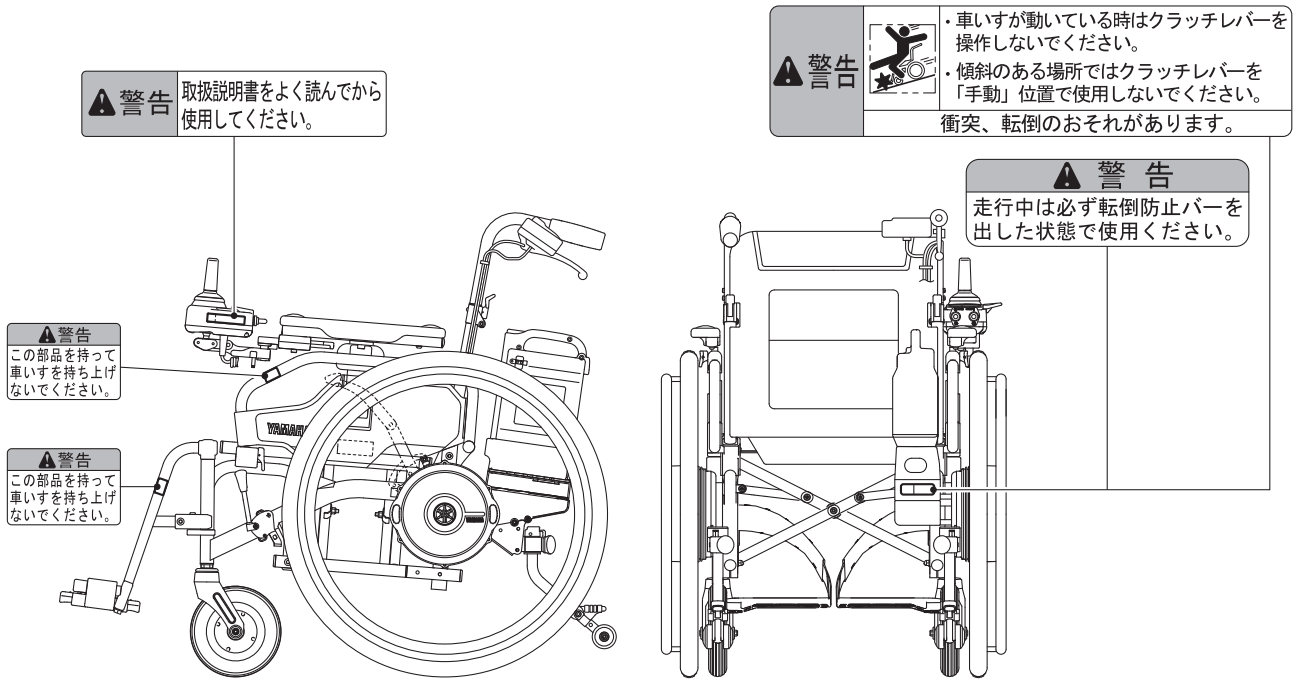
(1) 周囲の状況を正しく理解し走行すべきか気にかけることができますか？



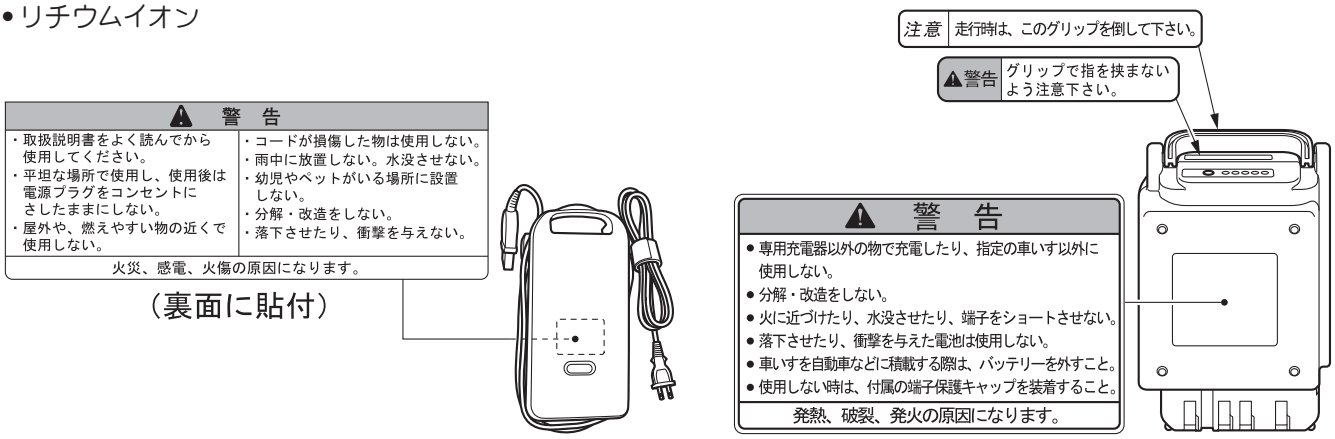
(2) 車イス乗降の補助やバッテリー交換ができますか？

(3) 手動車イスで介助操作ができますか？

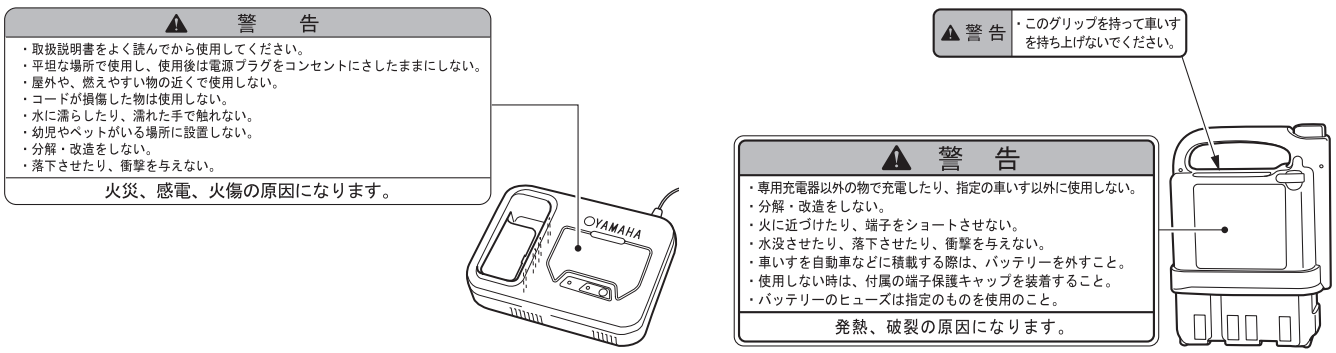
1.6. 警告ラベル配置図



• リチウムイオン

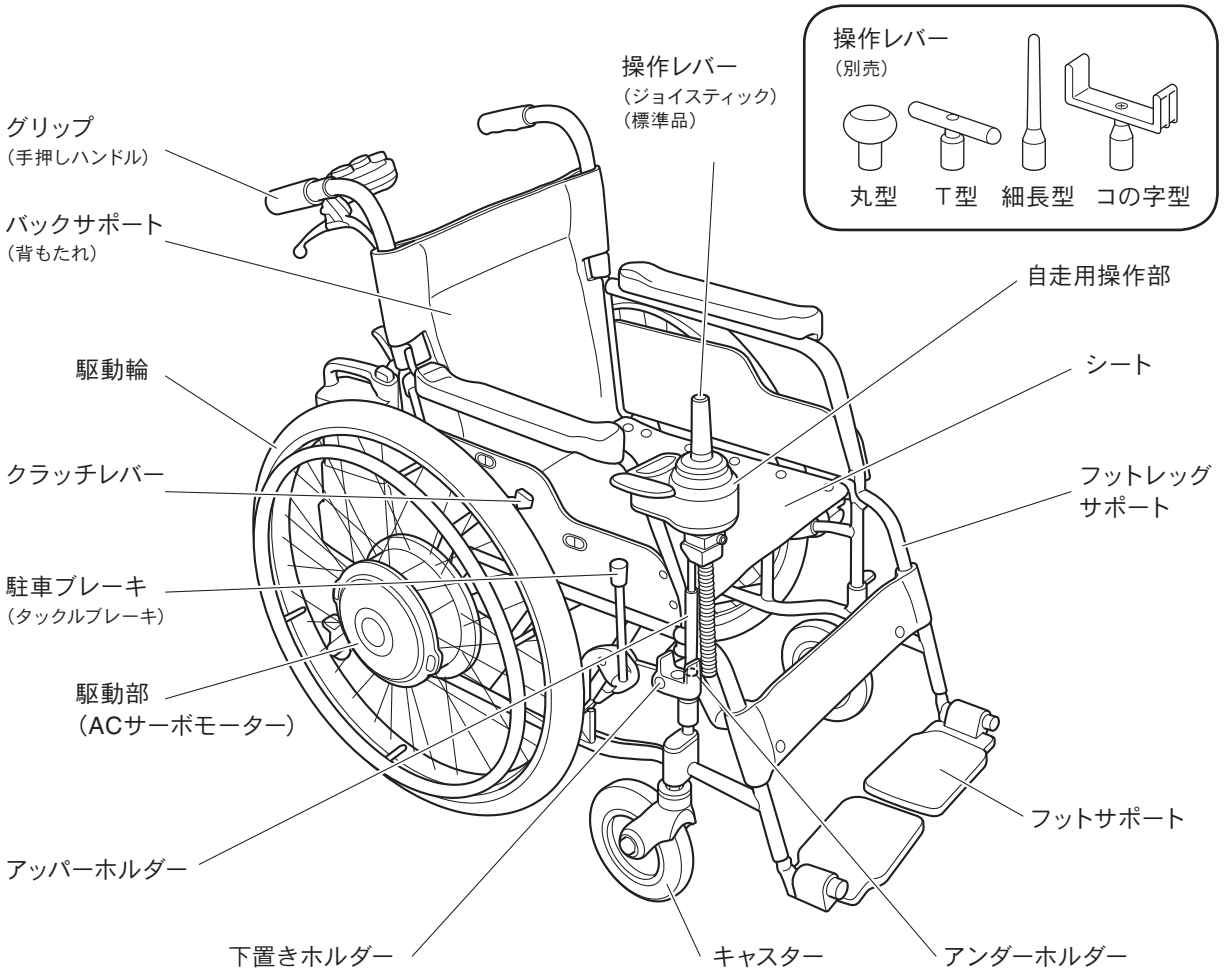


• ニッケル水素

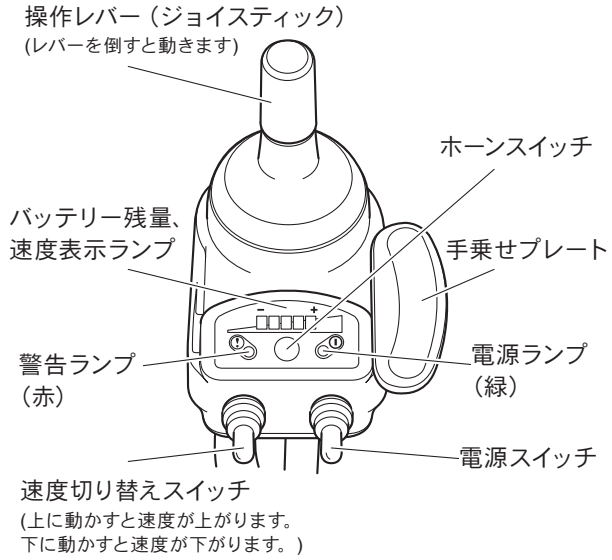


2. 各部の名称

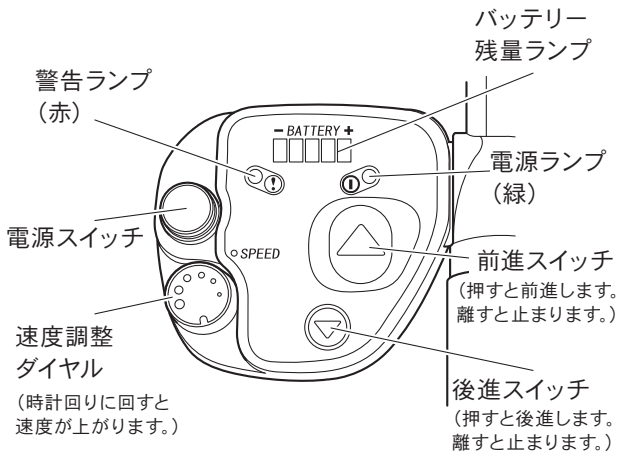
2.1. JWX-1ユニット取付け例

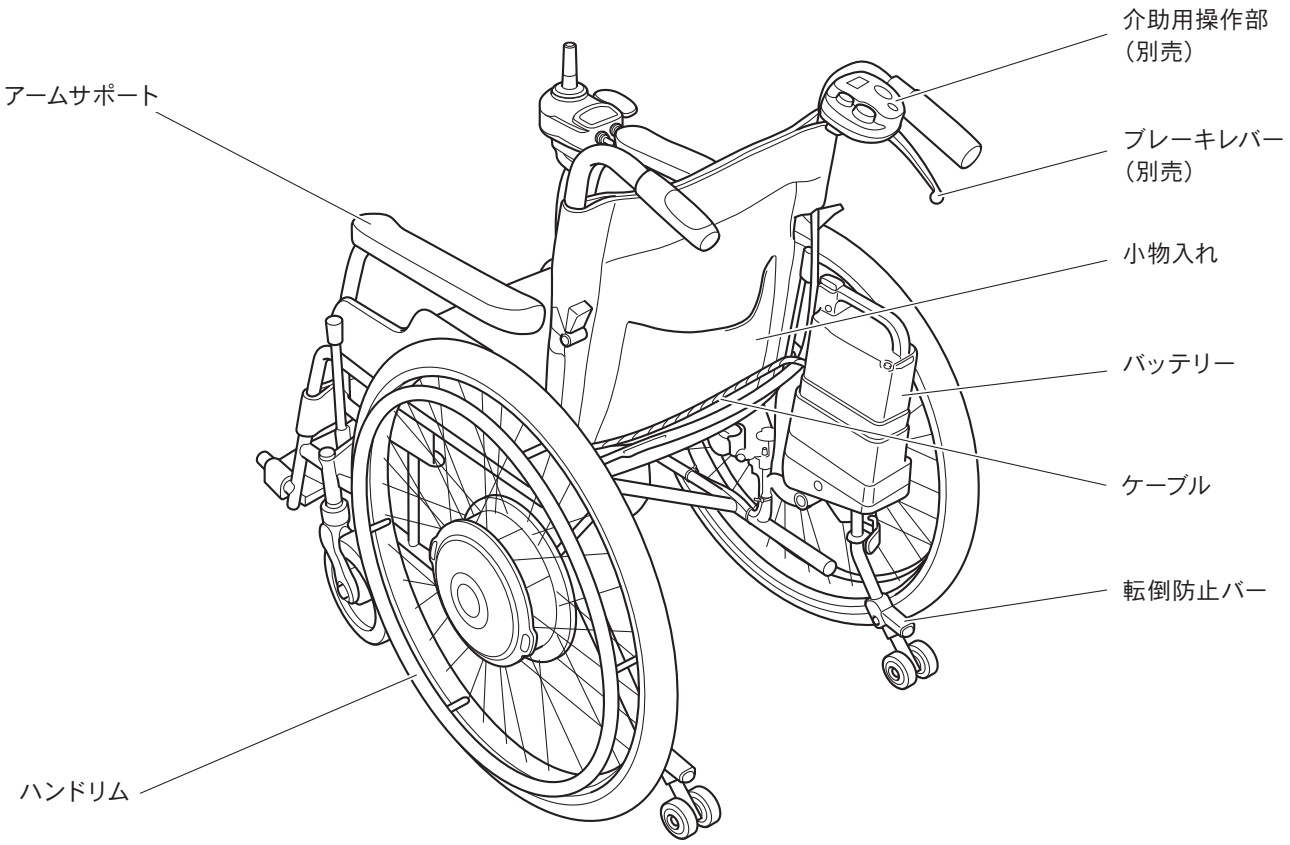


■ 自走用操作部（右操作用を示す）



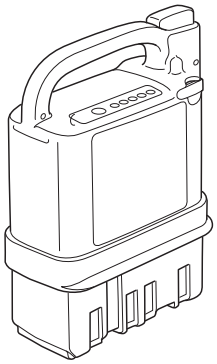
■ 介助用操作部
（介助用操作部に関しては、オプション（別売）設定となっています）

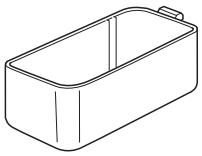




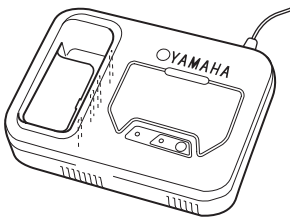
■ ニッケル水素バッテリー
（マイコン内蔵型）

バッテリー（JWB-1）



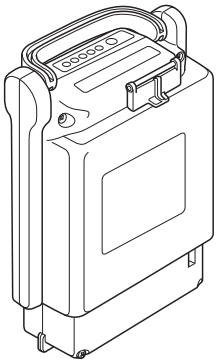


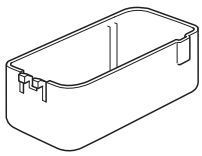
充電器（JWC-2）



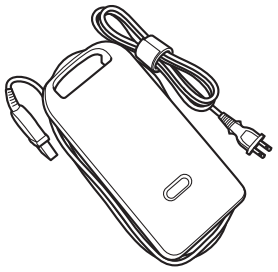
■ リチウムイオンバッテリー
（マイコン内蔵型）

バッテリー（ESB1）



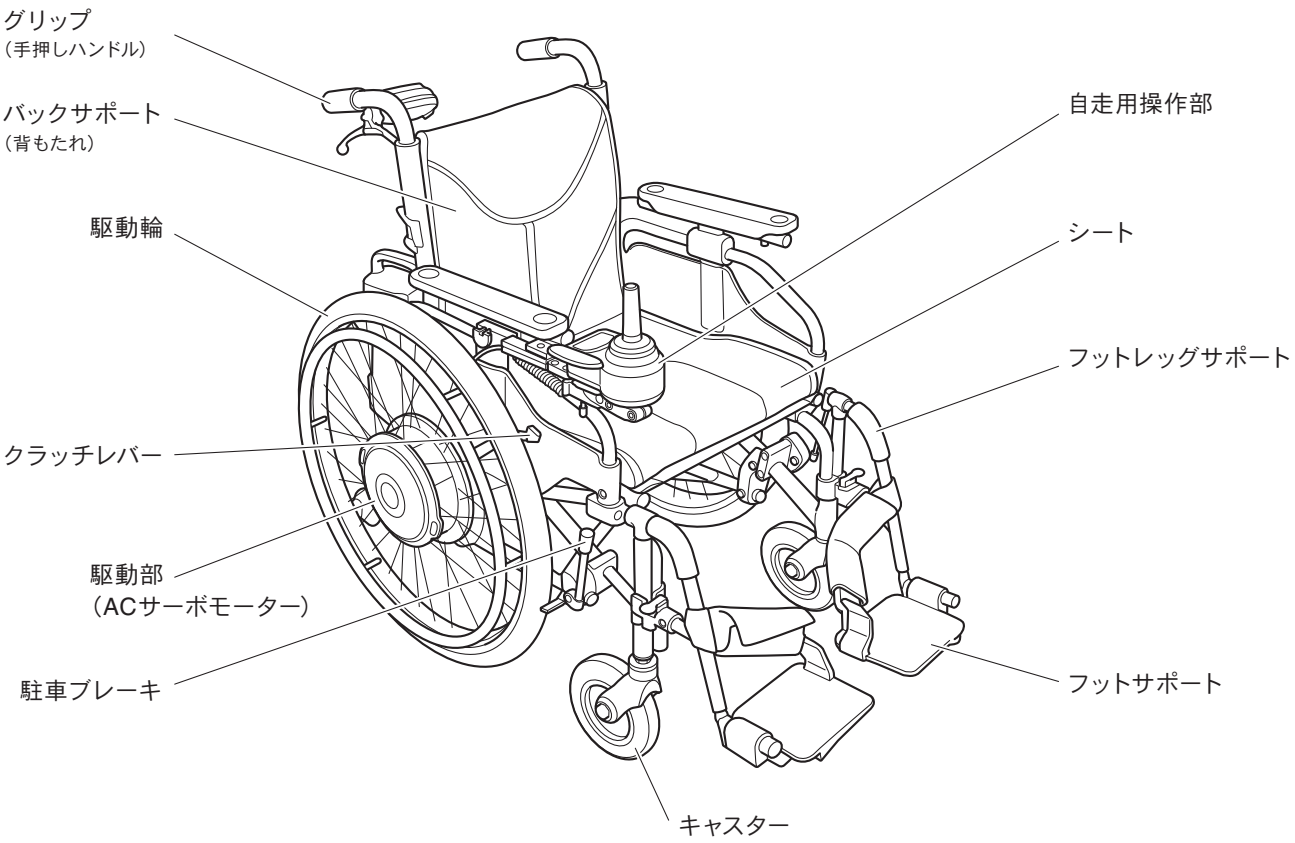


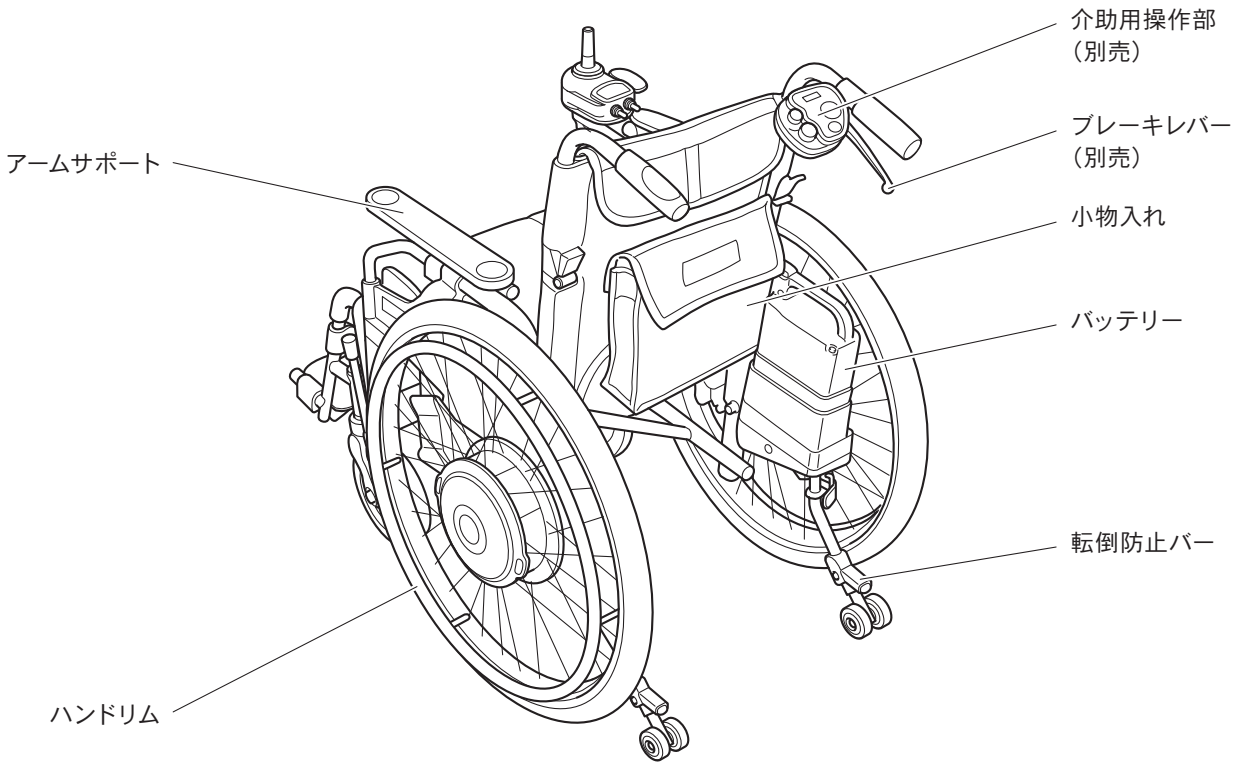
充電器（ESC1
もしくは ESC2）



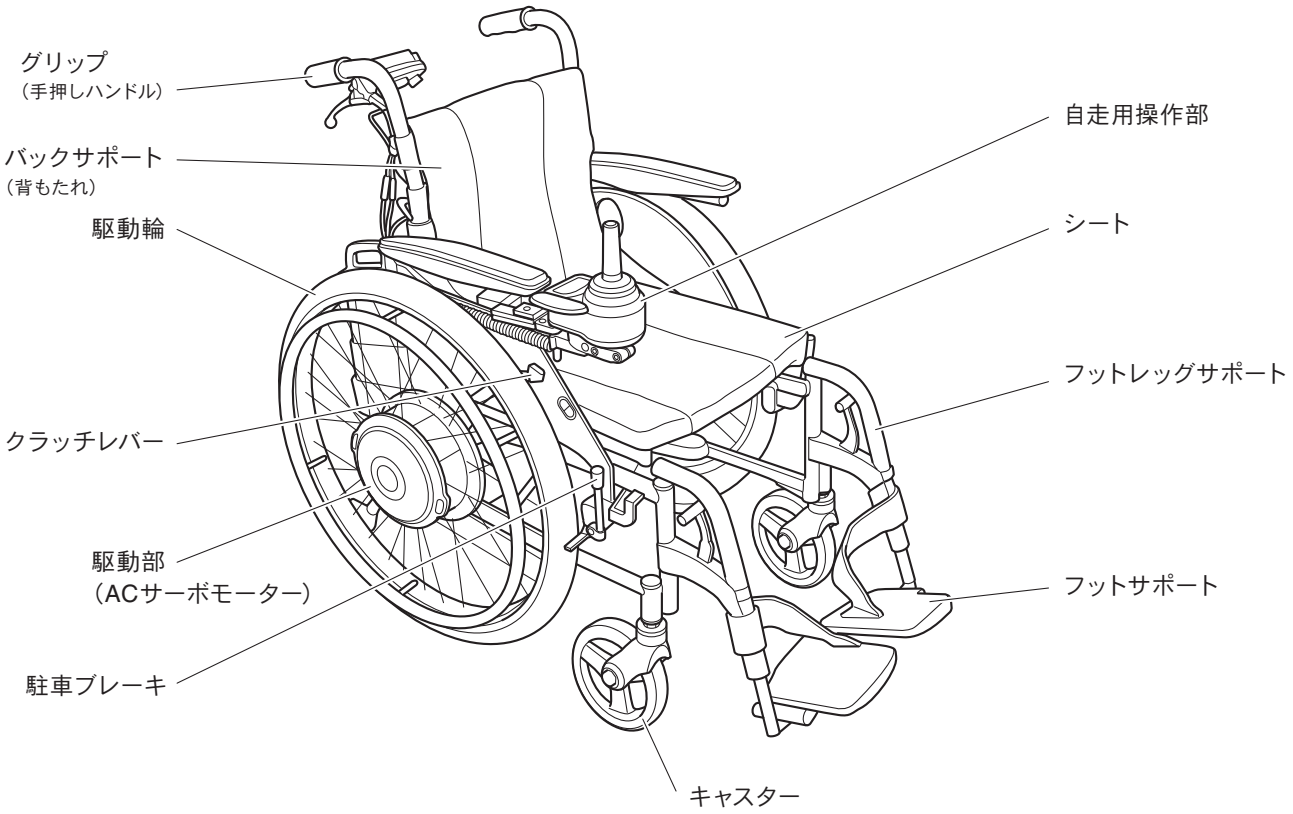
ニッケル水素バッテリーもしくはリチウムイオンバッテリーのうち、どちらかが1セット付属されてきます。

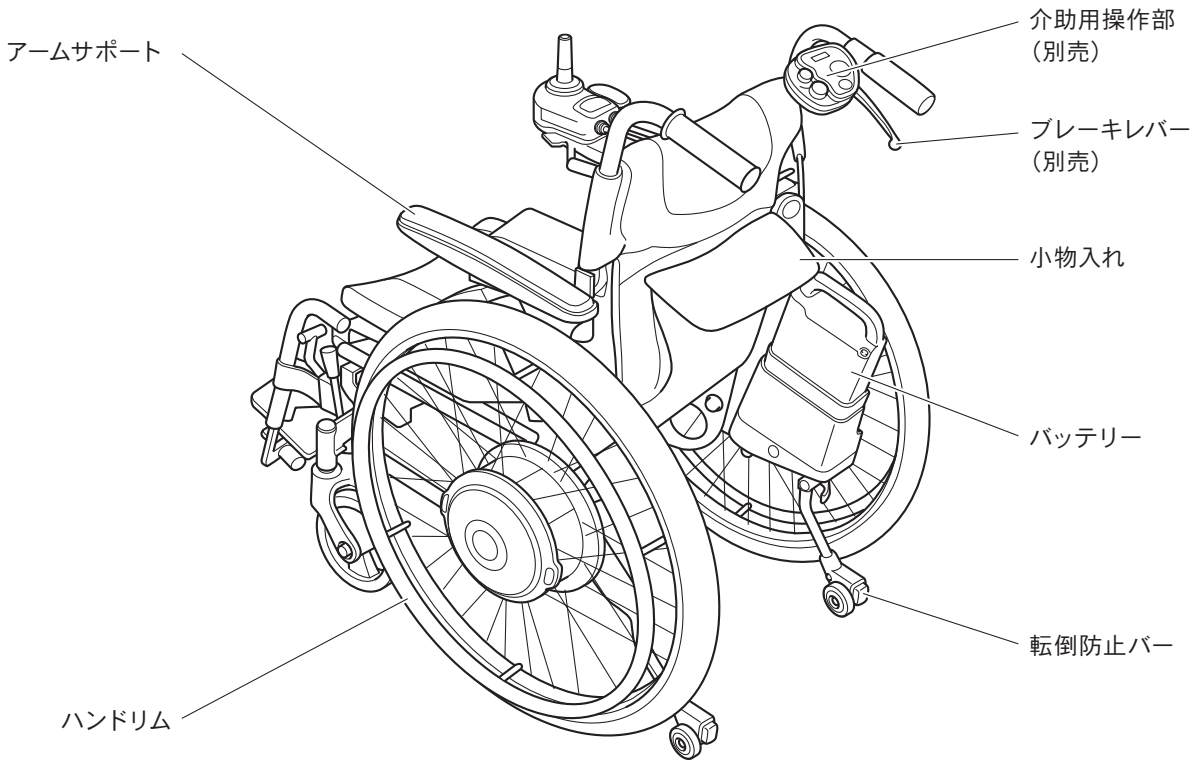
2.2. JWアクティブ Pタイプ





2.3. JWアクティブ Sタイプ





3. さぁ乗ってみましょう

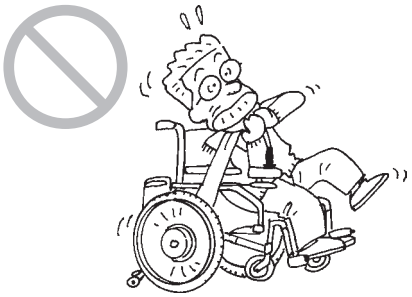
3.1. 車イスに乗る前に（乗車前点検）

Step 1 車イスに適した服装かを確認します

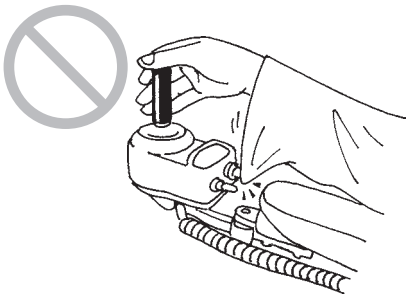
⚠ 警　告

● 下記事項のような車イスに適さない服装では走行しないでください。
適さない服装で運転しますとご自身や周囲の人がけがをするおそれがあります。

丈の長いマフラー

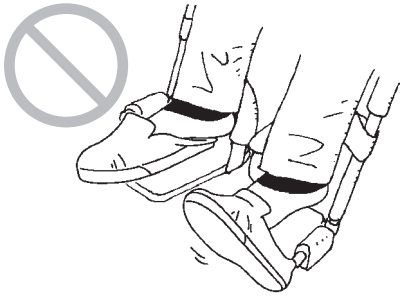


袖口の広い服



裾の広いズボン・スカート

フットサポートにしっかりのらない履き物

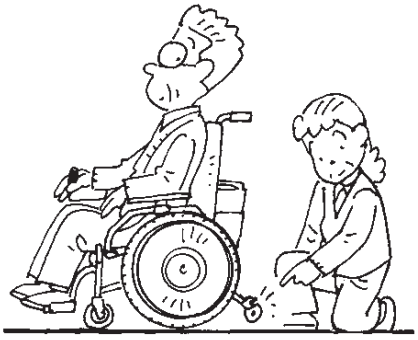


Step 2　乗る前に車イスを点検しましょう

異常が発見されたら取扱店に連絡してください。

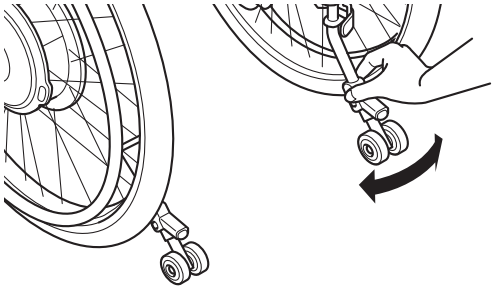
⚠ 警　告

- **転倒防止バーを外したり格納したままであったり短かく調整したままで走行すると転倒するおそれがあります。転倒防止バーを正しく設定していない状態で絶対に走行しないでください。**
- **車イス本体や車輪に異常がある状態で使用し続けると、走行中に突然車イスが破損し、転倒・転落のおそれがあります。**

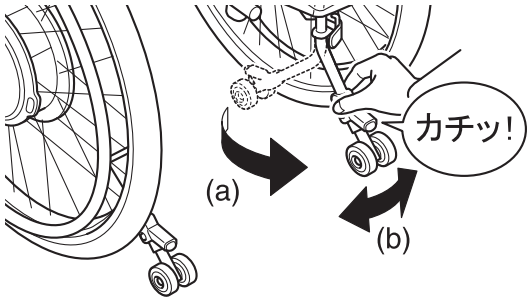


(1) 転倒防止バーの確認

- 転倒防止バーが出ているかを確認してください。

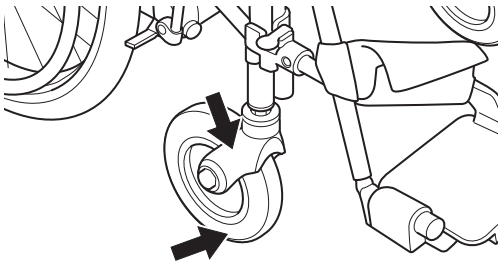


- 出ている場合は図のように左右にふって動かないかどうかを確認してください。



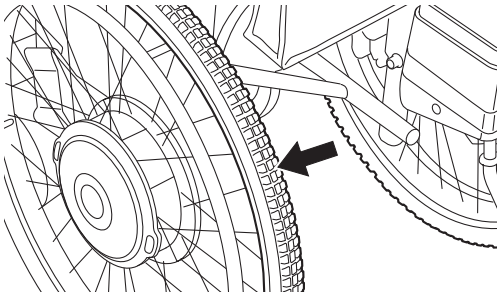
- 出てない場合は図のように“カチッ”とロックが効いた音がするまで
  (a) 転倒防止バーを出してください。
  (b) さらに左右にふって動かないかを確認します。

3



(2) キャスターの確認

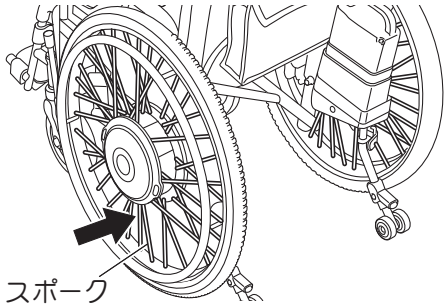
- フォークに亀裂が入ってないかを確認します。
- タイヤにきずが入ってないかを確認します。



(3) タイヤの確認

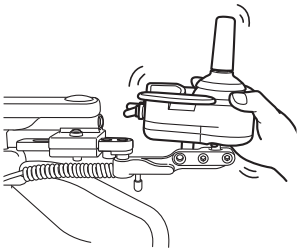
- タイヤの溝があるかを確認してください。
- タイヤの表面に亀裂が入ってないかを確認してください。
- タイヤを押さえ空気が入っているかを確認してください。

3



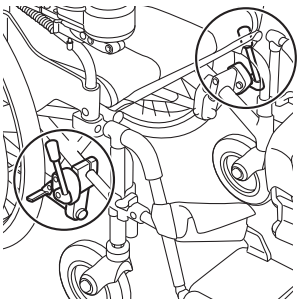
(4) スポークの確認

- スポークに折損がないかを確認します。



(5) 自走用操作部の確認

- 自走用操作部全体を握って揺らしてみてしっかり固定されているかを確認します。操作レバーがご自身の扱い易い位置にあるかを確認します。



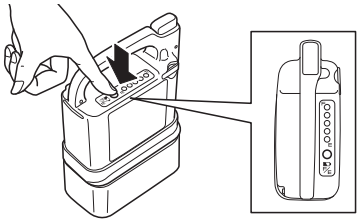
(6) 駐車ブレーキの確認

- 両輪とも駐車ブレーキをかけた状態で車イスを押してみて、タイヤが動かないことを確認します。

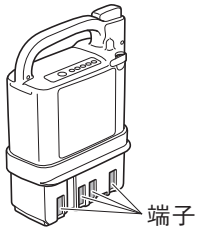
Step 3 バッテリー残量を確認し、バッテリーを装着します

⚠ 警　告

- バッテリーに衝撃を与えたり落下させないでください。
  バッテリー破裂の原因となります。
- 差込口に異物がある状態や濡れている状態でバッテリーを装着しないでください。
  ショートするおそれがあり、火災やバッテリー破裂の原因となります。



(1) バッテリーの表示スイッチを押すと容量表示ランプにバッテリー残量が表示されます。



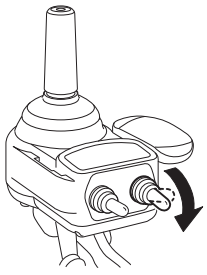
(2) 端子に腐食がないかを確認します。端子に腐食がある場合、車イスが動作しない場合があります。

(3) バッテリーを装着してください。

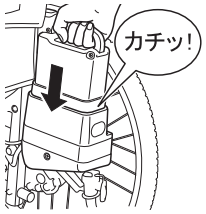
- ニッケル水素 (Ni-MH) の場合

【バッテリーの装着の仕方】

(1) 電源スイッチがオフになっていることを確認します。

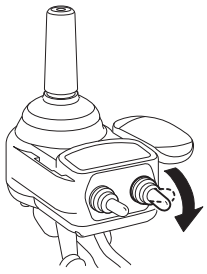


(2) バッテリーを「カチッ」と止まるまで差し込みます。

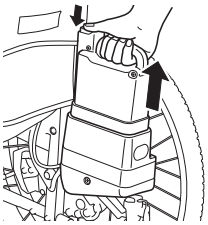


【バッテリーの外し方】

(1) 電源スイッチをオフにします。



(2) リリースボタンを押しながら上にまっすぐ引き抜きます。



(3) 保護キャップを装着して保管してください。

⚠ 警　告

● リチウムイオンバッテリーの着脱時にグリップで指を挟まないでください。指をけがをするおそれがあります。

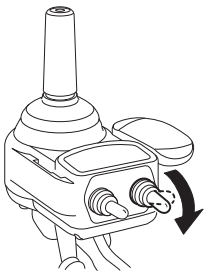
注　意

● 電源を入れた状態で、リチウムイオンバッテリーを交換するのはおやめください。バッテリーの端子が破損し、故障の原因となります。

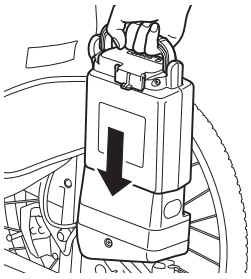
- リチウムイオン（Li-ion 00）の場合

【バッテリーの装着の仕方】

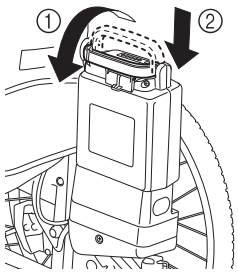
（1）電源スイッチがオフになっていることを確認します。



（2）バッテリーを差し込みます。

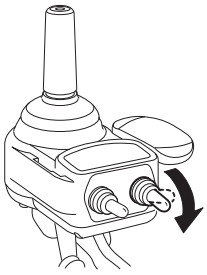


（3）①グリップを横に倒してください。
②バッテリーを“カチッ”と音がするまで押します。

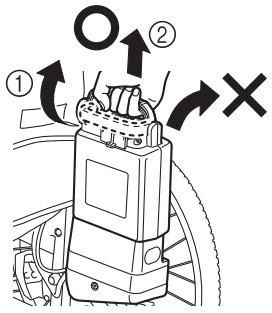


【バッテリーの外し方】

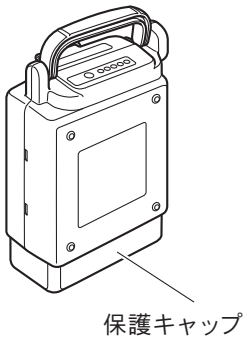
（1）電源スイッチをオフにします。



（2）①グリップをまっすぐに立てます。
②バッテリーを上にまっすぐ引き抜きます。
（斜めに引き抜かないでください。）



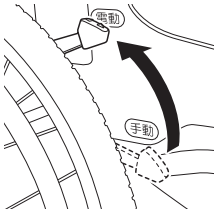
（3）保護キャップを装着して保管してください。



Step 4　クラッチレバーを引き上げて電動側（クラッチ入り側）にします

⚠ 警　告

● クラッチレバーを手動側にする場合は、平坦な場所で駐車ブレーキをかけ、電源を切った状態で行ってください。上記を守らないとモータによるブレーキ効果がなくなるので不意に動き出し、ご自身や周囲の人がけがをするおそれがあります。



電動…… 電動走行ができます。走行していない時はブレーキがかかります。
手動…… ブレーキが解除され手動車イスと同じような移動ができます。

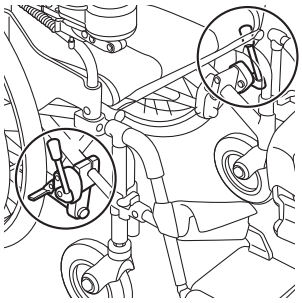
3.2. 走行開始から終了まで

Step 1　車イスに乗り移りましょう

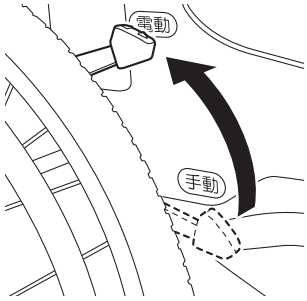
⚠ 警　告

- 平坦な場所で車イスに乗り移ってください。傾斜のある場所に駐車して車イスに乗り移りますと、たとえクラッチが電動側もしくは駐車ブレーキがかかった状態になっていてもバランスを崩し易く落車してけがをするおそれがあります。
- クラッチレバーが手動側で、更に駐車ブレーキを解除したままの状態で車イスに乗り移りますと車イスが不意に動き、落車してけがをするおそれがあります。乗車の際は、必ずクラッチが電動側になり、かつ駐車ブレーキがかかっていることを確認してください。

(1) 車イスを平坦な場所に置きます。



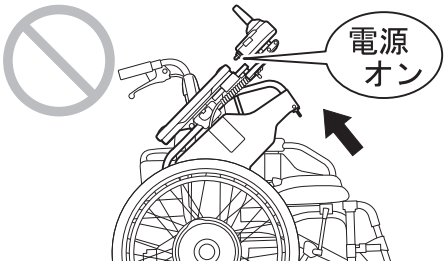
(2) 駐車ブレーキをかけます。



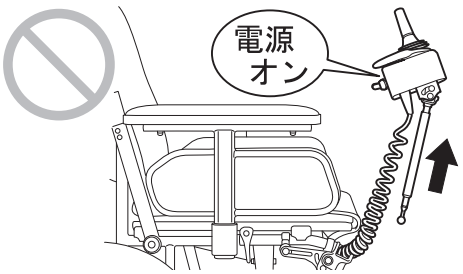
(3) クラッチレバーが電動側になっているかを確認します。

(4) 車イスから転落しないようにしっかり座ります。

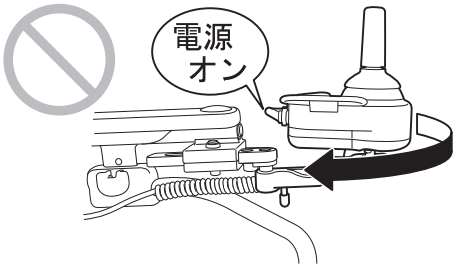
⚠ 警　告



● JWアクティブ等跳ね上げ式のアームサポートに自走用操作部を取付けている場合、電源スイッチを入れた後アームサポートを上げたり、上げた状態でスイッチを入れないでください。操作レバーが倒れ不意に車イスが動きご本人や周囲の人がけがをするおそれがあります。

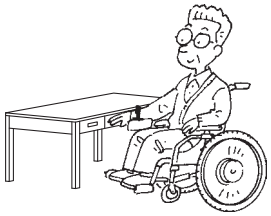


● JWX-1ユニットご使用の場合電源スイッチを入れた後、自走用操作部をアンダーホルダーを外したり、外した後に電源を入れないでください。操作レバーが倒れ不意に車イスが動きご本人や周囲の人がけがをするおそれがあります。



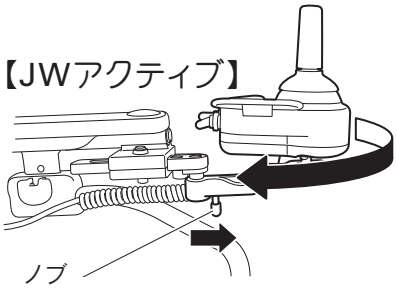
● JWアクティブご使用の場合電源スイッチを入れた後、自走用操作部を回転させたり回転させた後に電源を入れないでください。操作レバーが倒れ不意に車イスが動きご本人や周囲の人がけがをするおそれがあります。

3



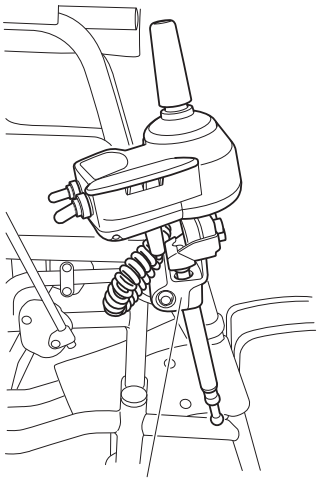
車イスに乗り移るときやテーブルをお使いのときなど
自走用操作部が邪魔になる場合には

【JWアクティブ】

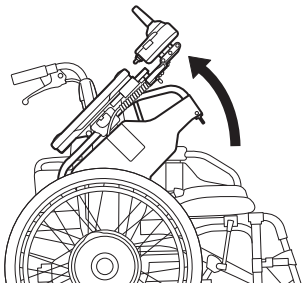


ノブを前に押すと自走用操作部を回転させることができます。

【JWX-1】

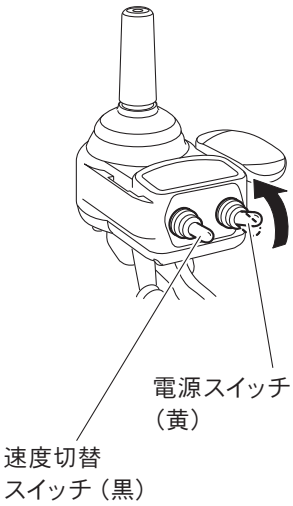


自走用操作部を外して下置きホルダーに格納できます。



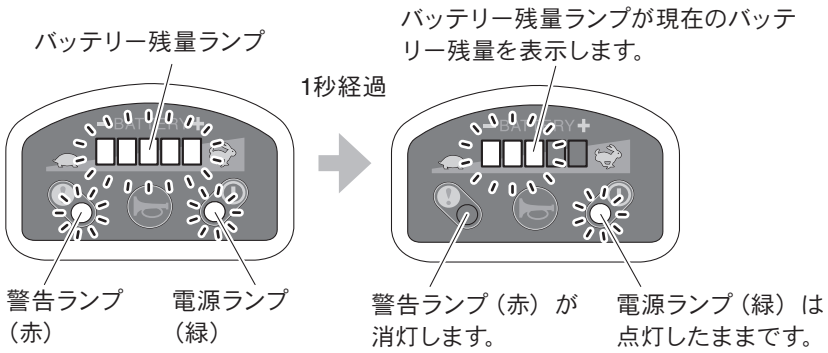
アームサポートを跳ね上げることができます。
詳細は68、69頁を参照してください。

Step 2 走行を開始しましょう

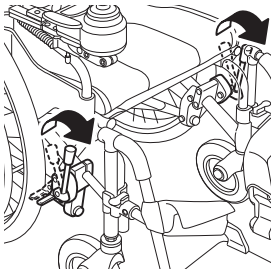


(1) 電源スイッチ（黄）を入れます。

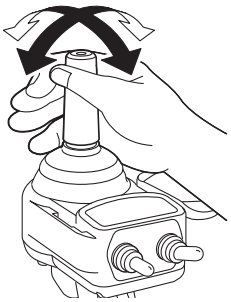
- 電源を入れると、下記の順に表示が変化します。



- 必要に応じて最高速度の調整をしてください。
  調整方法は、22頁を参照してください。



(2) 駐車ブレーキを解除します。



(3) 操作レバーを移動したい方向に倒すと走り出します。
はじめて走行される方は、24頁、25頁を参照して基本操作を練習してください。

電源が入らない

介助用操作部（別売）の電源が入ってませんか？
介助用操作部の電源が入っていると自走用操作部の電源が入りません。
いったん両方の電源を切った後に自走用操作部の電源を入れてください。

ブザーが鳴って動かない

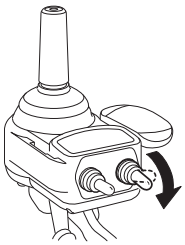
(a) 操作レバーを倒したままスイッチを入れてませんか？
安全装置が働いて走行できません。
ブザー音（長音「ピー」）が鳴り電源ランプ（緑）が点滅します。
操作レバーから手を放し、電源を切って再度電源を入れてください。

(b) クラッチレバーが手動側のままで操作レバーを倒してませんか？
クラッチ抜け警告音です。（「ピピッピピッ」が鳴る）
電源を切りクラッチレバーを電動側に入れて再度電源を入れてください。

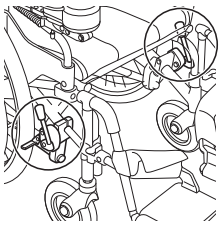
Step 3 走行を終了します

⚠ 警　告

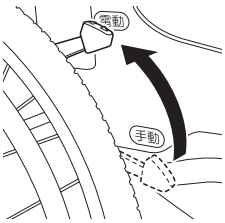
- 電動走行を終了する際は、必ず電源を切ってください。
  電源が入った状態で車イスからベット等に乗り移りますと手が操作ノブにあたり不意に車イスが動き出し、ご自身や周囲の人がけがをするおそれがあります。
- 平坦な場所で車イスから乗り移ってください。傾斜のある場所に駐車して車イスから椅子やベット等に乗り移りますと、たとえクラッチが電動側もしくは駐車ブレーキがかかった状態になっていても、バランスを崩し易く落車してけがをするおそれがあります。
- クラッチが手動側で更に駐車ブレーキを解除したままの状態ですと、車イスから椅子やベッド等に乗り移る際、車イスが不意に動き出し、落車してけがをするおそれがあります。降車の際は、必ずクラッチが電動側になり、かつ駐車ブレーキがかかっていることを確認してください。



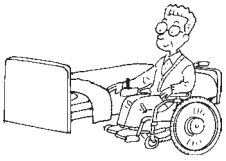
(1) 車イスを平坦な場所に止めます。
(2) 電源スイッチを切ります。



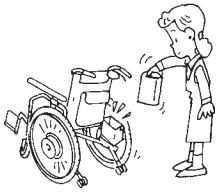
(3) 駐車ブレーキをかけます。



(4) クラッチが電動側にあるかを確認します。



(5) 車イスに乗り移る要領に準じて、車イスからベッドなどに乗り移ります。



(6) バッテリーを必ず抜いてください。

⚠ 警　告

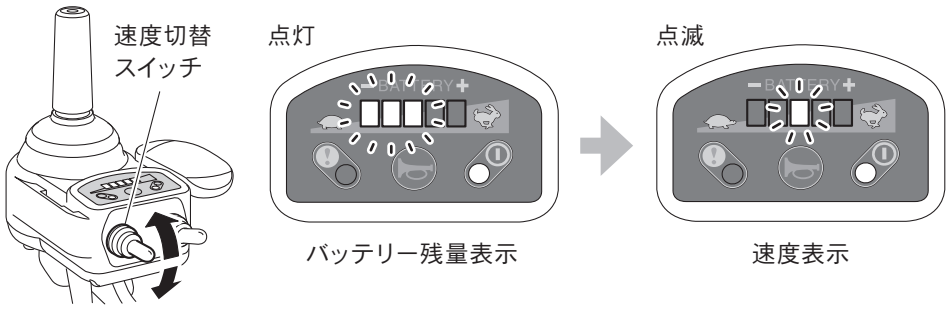
- 取外したバッテリーには必ず保護キャップを装着して保管してください。接点部が露出しているとショートすることがあります。

3.3. 走行時の機能紹介

■最高速度の調整や確認ができます

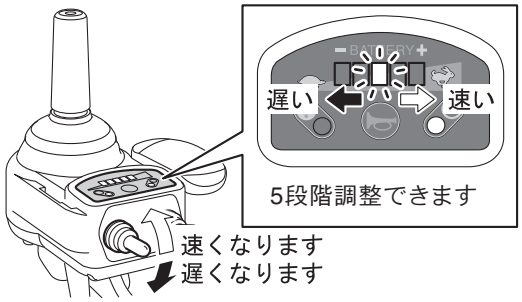
速度切替スイッチを動かし最高速度調整を行います。
上に上げると速く下に下げると遅くすることができます。

(1) 速度切替スイッチを上か下に一度だけ動かします。



表示ランプが点滅した状態になり、現在の最高速度を示し調整ができる状態になります。調整が不要の場合は、そのまま5秒たつとバッテリー残量表示に戻ります。

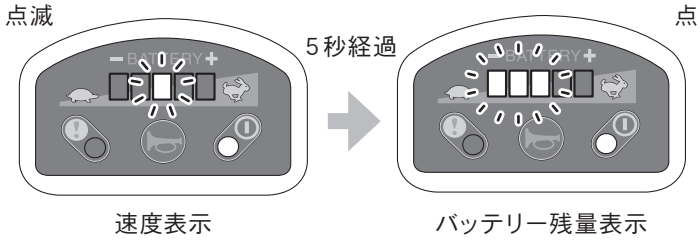
(2) 速度切替スイッチを動かし速度を変更します。



- **最高速度を変える場合**

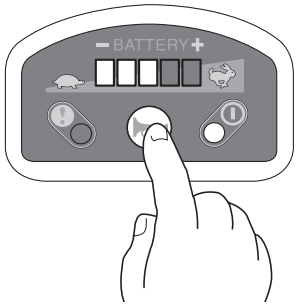
  表示ランプが点滅した状態で速度切替スイッチを1回上げると、ランプが高速側へ1段階上がります。上げ続けると連続してランプが、高速側へ上がります。
  最高速度を下げる場合は逆方向に同様の手順で行います。

(3) 速度表示からバッテリー残量表示に変わるのを確認します。



速度変更後5秒たつと、速度表示からバッテリー残量表示に変わり、設定が完了します。

■警笛（ホーン）を鳴らすには



自走用操作部のホーンスイッチを押しますと、
押した間のみ警笛（ホーン）が鳴ります。

■オートパワーオフ機能について

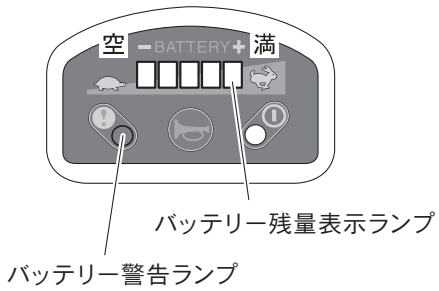
電源を入れた状態で操作レバーを10分間操作しない場合はバッテリー節約のために自動的に電源が切れます。走行したい場合は一度電源スイッチを切ってから再度電源を入れなおしてください。

■走行中にバッテリー残量を確認するには

⚠ 警　告

● バッテリー残量不足のブザーがなったら速やかに安全な場所に移動し、電源を切り充電するか、予備バッテリー（別売）に交換、もしくは手動に切替えてください。道路横断中に身動きが取れなくなると危険です。

走行中は、自走用操作部のバッテリー残量表示ランプやバッテリー警告ランプを随時確認してください。



（a）バッテリーがなくなる前に『ピピピピッ』とバッテリー残量不足のブザーが4回鳴ります。

バッテリー残量が約10%になるとバッテリー警告ランプが点滅します。

（b）バッテリーがなくなると警告ランプが点灯しブザーが『ピー』と鳴り停止します。

3.4. 基本操作を練習しましょう

⚠ 警　告

● 基本操作の練習は、介助者同行のもとで行ってください。
単独で練習されますとご自身や周囲の人がけがをするおそれがあります。

基本練習の前に
3.1. 車イスに乗る前に（13頁～ 17頁）
3.2. 走行開始から終了まで（18頁～ 21頁）
を必ず確認してください。
最高速度の切替え要領は22頁を参照してください。

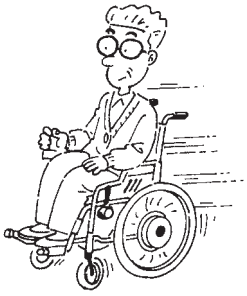
■平坦な場所で基本操作を練習します

基本操作 1

(1) 2速にて操作レバー使用の要領を覚えましょう。

- 進みたい方向に操作ノブを倒しますとそちらに動き出します。
- 操作レバーは、ゆっくりと動かしましょう。

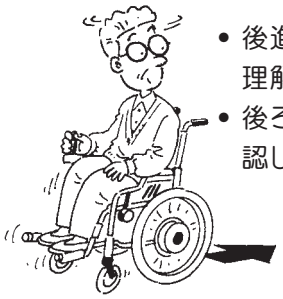
(2) 2速にてスピード調整の要領を覚えましょう。



- ゆっくり走るときは浅めに操作レバーを倒します。
- 速く走るときは深めに操作レバーを倒します。
- 停止するには、操作レバーを戻してください。

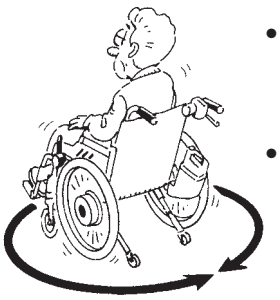
■ 前進・停止

■ 後進



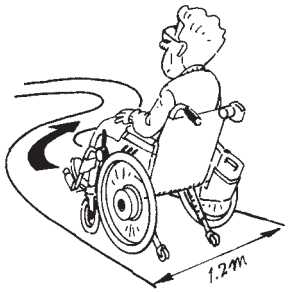
- 後進時の特性を理解しましょう。
- 後ろの安全を確認しましょう。

■ 旋回



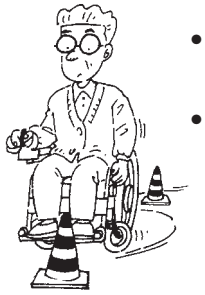
- せまい場所で旋回できるようになりましょう。
- 左右方向に回ってみましょう。

■ S字クランク走行



- 思いどおりのコースを通れるようになりましょう。
- 速度と方向変換のタイミングを覚えましょう。

■ 障害物回避



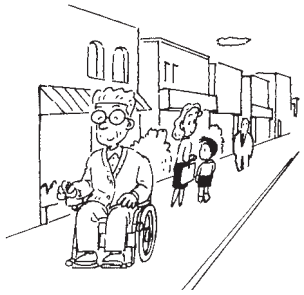
- 回避動作ができるようになりましょう。
- 障害物にぶつからないように停止してみましょう。

(3) 今までの練習を高速で復習しましょう。

■日常で使用する場所で練習します

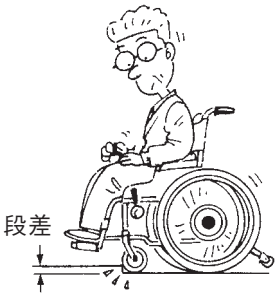
基本操作 2

■ 歩道



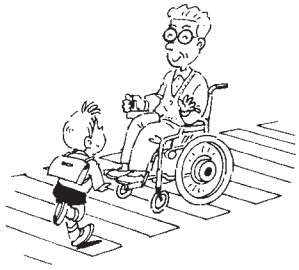
- 歩行者や障害物にぶつからないようにしましょう。
- 路面に応じた走行を覚えましょう。

■ 段差の登り降り



- 乗り降りの要領と限界を覚えましょう。
- 手前でいったん停止し慎重に進みましょう。

■ 横断歩道

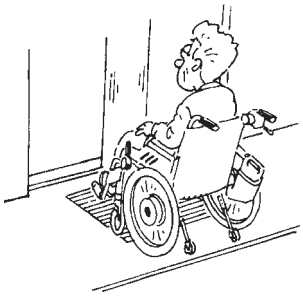


- 余裕をもって横断歩道を渡りましょう。
- 車道／歩道の段差に注意しましょう。

■ 坂道

- 上り下りの感触を覚えましょう。
- 上り坂での再発進は慎重にしましょう。

■ 自動ドア



- 定位置でいったん停止する練習をしましょう。

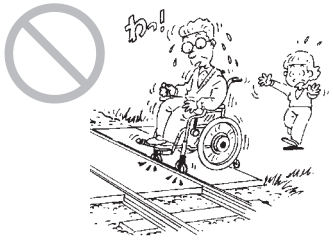
3.5. 走行時に守っていただくこと

JWアクティブ　JWX-1は、簡易型電動車イス（手動兼用型）であり機動性や軽量性を重視しているためハンドル型電動車イス　普通型電動車イスと比較し坂道や悪路などの走行にはより注意が必要です。

⚠ 警　告

● 環境や場所によっては、介助者の同行や操作が必要な場合があります。下記事例においては、介助者が同行してください。単独運転では、けがをするおそれがあります。

踏切や路面電車の線路を渡るとき



- 線路内にキャスターを落とすおそれがあります。

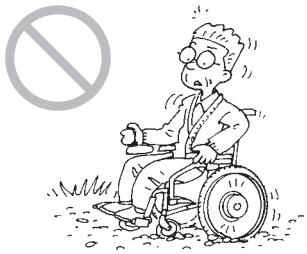
柵がない歩道

- 車道に転落するおそれがあります。

側溝や下水溝の格子状フタ

- キャスターを落とすおそれがあります。

砂利道や泥濘地

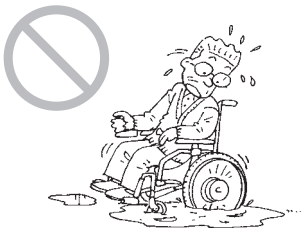


- タイヤが埋まり、身動きがとれなくなるおそれがあります。

車体が左右に大きく傾斜する場所

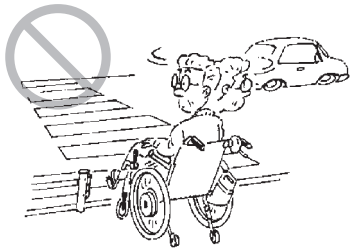
- 横転するおそれがあります。

雪上・水溜りのある道路



- スリップしてコントロールができなかったり、ブレーキが効かないおそれがあります。

不慣れな道路の横断



- 特に信号機のない横断歩道では、左右の交通に十分注意して渡ってください。
- また、信号機のある横断歩道でも、広い道路では横断中に信号が変わるおそれがあります。
  そうした場所では、次の青になるまで待って余裕を持って渡るようにしてください。
- 狭い車道の脇を走るのは大変危険です。できるだけ安全な道筋を選んでください。
- バッテリーが切れかかっている場合は、横断中にバッテリー切れになり動かなくなるおそれがあります。

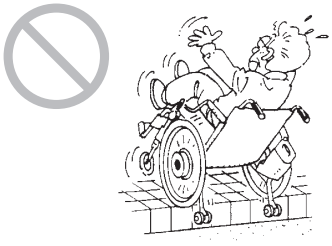
JWアクティブ JWX-1は、簡易型電動車イス（手動兼用型）であり機動性や軽量性を重視しているためハンドル型電動車イス　普通型電動車イスと比較し坂道や悪路などの走行にはより注意が必要です。

⚠ 警　告

夜間走行

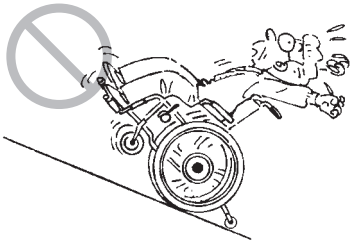
- 路面状態が確認できずに転落したり、第三者が認識できないために衝突するおそれがあります。

大きな段差を越えるとき



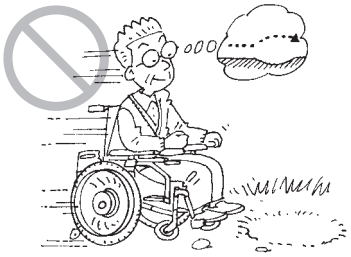
- 周りの状況を常にチェックし、安全確認を遂行してください。
- 必要がある場合は、必ず介助者が同行し安全確認を行ってください。

不慣れな坂道の登り降り



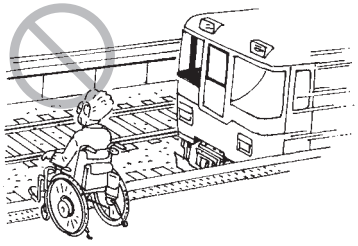
- 初めて上り下りする坂では、介助者が同行し安全確認を行ってください。

大きなくぼみを越えるとき



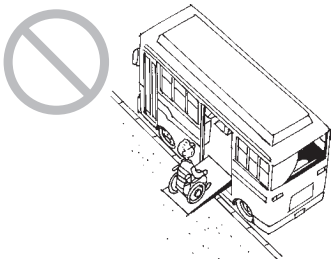
- 道路にくぼみがあったり歩道に車出入り用スロープが設けてある場合、できる限り回避してください。そのまま走行しますと横転するおそれがあります。やむを得ず走行しなくてはならない場合は、介助者が同行し安全確認を行ってください。

プラットフォーム



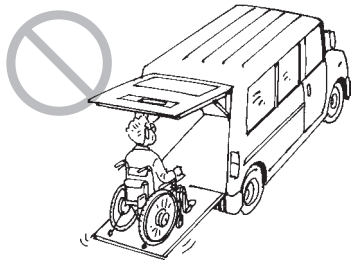
- 線路に転落するおそれがあります。

バス・電車の乗降



- 必ず介助者が同行し安全確認を行ってください。

リフト付車両への乗降

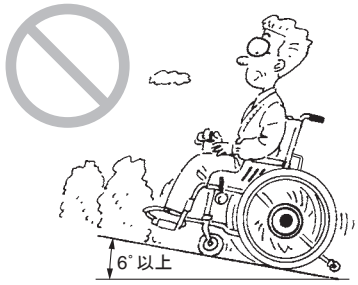


- 必ず介助者が同行し安全確認を行ってください。

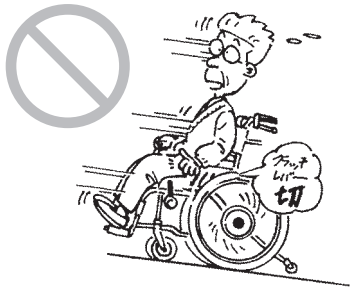
JWアクティブ JWX-1は、簡易型電動車イス（手動兼用型）であり機動性や軽量性を重視しているためハンドル型電動車イス　普通型電動車イスと比較し坂道や悪路などの走行にはより注意が必要です。

⚠ 警　告

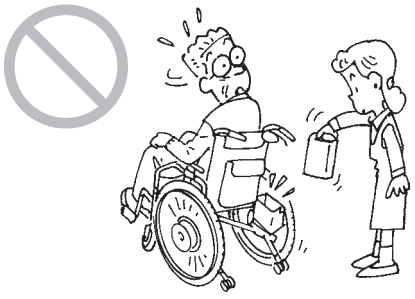
● 転倒防止バーを外したり格納したままであったり短く調整したままで走行すると転倒するおそれがあります。走行する時は転倒防止バーを必ず正しく設定してください。



● 6°（勾配10%）以上の坂で車イスを使用しないでください。制動がきかなくなるおそれがあります。



● 傾斜のある場所ではクラッチレバーを手動側に切替えないでください。不意に動き出す場合があり衝突・転倒のおそれがあります。
● 車イスが動いている時は、クラッチレバーを操作しないでください。衝突・転倒のおそれがあります。
● 電動走行中にクラッチレバーを切替えると、下り坂ではモーターによるブレーキの効果がなくなって暴走するおそれがあります。
● 手動走行中にクラッチレバーを切替えると、その際のショックで体が前方に投げ出されたり機器が破損するおそれがあります。



● 走行中にバッテリーを抜くと急制動を起こし、ご自身や周囲の人がけがをするおそれがあります。

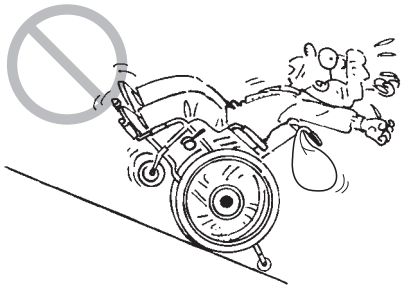
JWアクティブ JWX-1は、簡易型電動車イス（手動兼用型）であり機動性や軽量性を重視しているためハンドル型電動車イス　普通型電動車イスと比較し坂道や悪路などの走行にはより注意が必要です。

⚠ 警　告

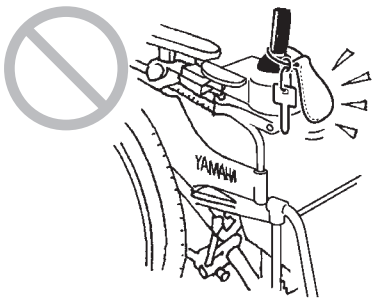
● 走行中に電源スイッチを切ると急制動を起こし、ご自身や周囲の人がけがをするおそれがあります。

● 凍結したところを運転しないでください。制動がきかなくなるおそれがあります。

● 下り坂で急に曲がらないでください。また急な坂道での横断や斜め走行は、バランスを崩し易く転倒するおそれがあります。



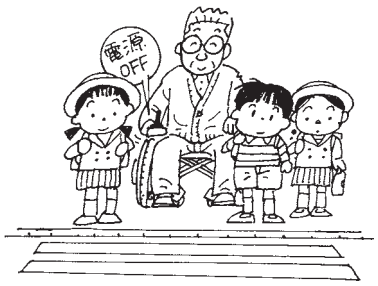
● 背もたれに重たい荷物をかけたり小物入れに重たいものを入れて坂道を運転しないでください。
坂道でキャスターが浮きやすくなり、ご自身や周囲の人がけがをするおそれがあります。



● 自走用操作部の操作レバーに物をかけないでください。操作の妨げになるばかりか、操作レバーから手を離しても意図せぬ動きをする場合があります。

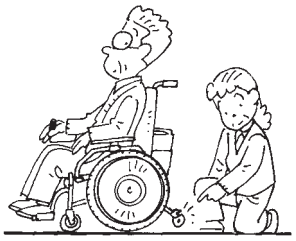
JWアクティブ JWX-1は、簡易型電動車イス（手動兼用型）であり機動性や軽量性を重視しているためハンドル型電動車イス　普通型電動車イスと比較し坂道や悪路などの走行にはより注意が必要です。

⚠ 警　告



- 混雑した場所での走行では細心の注意を払ってください。人の手や物がスポークなどに接触する可能性があり、不意の停止によるショックで体が前方に投げ出されたり周囲の人がけがをするおそれがあります。
- 混雑した場所で停止する場合は停止後必ず電源を切ってください。人の手や腕が操作レバーに接触すると不意に発進し、周囲の人がけがをするおそれがあります。

- 二人乗りやけん引をしないでください。車イスの故障およびけがをするおそれがあります。

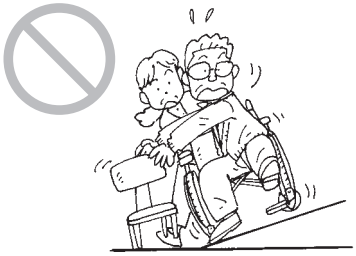


- バス・タクシー・電車などから降りた後は必ず転倒防止バーが出ているかを確認した後に、走行を始めてください。

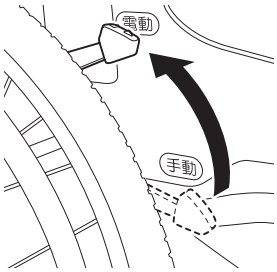
- 携帯電話などを使用する場合は、安全な場所に停止して車イスの電源を切ってください。また電動走行中は携帯電話などの電源を切ってください。事故の原因となるおそれがあります。

3.6. 介助用操作部の使い方（介助用操作部は、別売です）

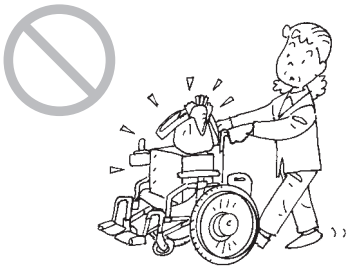
⚠ 警　告



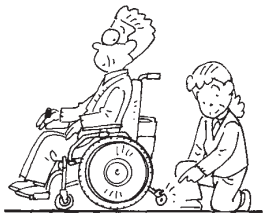
● 平坦な場所で車イスに移乗させてください。傾斜のある場所に駐車して車イスに移乗しますと、たとえクラッチが電動側もしくは駐車ブレーキがかかった状態になっていても、バランスを崩し易く落車してけがをするおそれがあります。



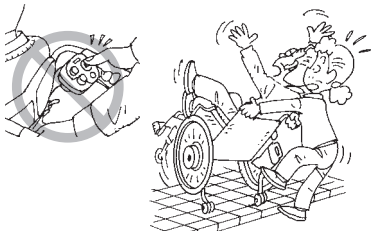
● クラッチレバーを手動側にする場合は、平坦な場所で駐車ブレーキをかけ、電源を切った状態で行ってください。上記を守らないとモータによるブレーキ効果がなくなるので不意に動き出し、ご自身や周囲の人がけがをするおそれがあります。



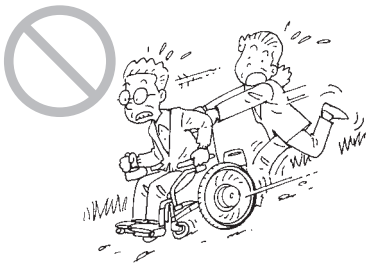
● 台車やシルバーカーなど介助目的以外の使用をしないでください。



● 転倒防止バーを外したり格納したままであったり短く調整したままで走行すると転倒するおそれがあります。
転倒防止バーを正しく設定していない状態で絶対に走行しないでください。



● 段差や障害物を乗り越える場合は、介助操作部の電源を切って手動で乗り越えてください。電動操作で乗り越えるとバランスを崩し易く、転倒してけがをするおそれがあります。
また段差の高さによっては、転倒防止バーを、一時的に格納して乗り越えてください。乗り越えた後は、必ず正しく設定しなおしてください。

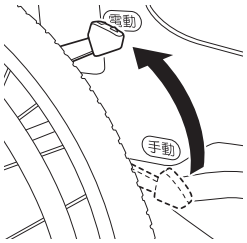


● 坂道を下る場合は、後進で下ってください。前進で下りますと搭乗者が前のめりになり落車するおそれがあります。

Step 1 車イスに移乗させます

『3.2. 走行開始から終了まで』の
Step1 車イスに乗り移りましょう（18頁）をお読みください。

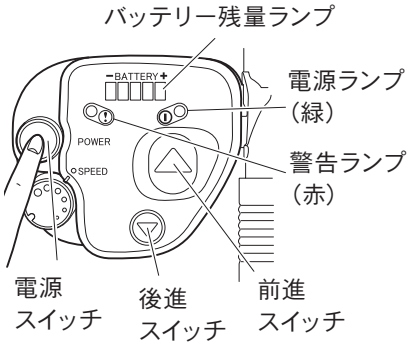
Step 2 介助走行を開始しましょう



（1）クラッチレバーが電動側になっているかを確認します。

（2）電源スイッチを入れます。

■ 電源を入れると下記の順に点灯します。



バッテリー残量ランプが現在のバッテリー残量を表示します。

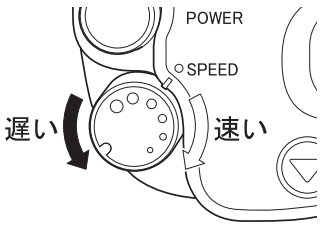
バッテリー残量ランプ警告ランプ（赤）電源ランプ（緑）が点灯します。

警告ランプ（赤）が消灯します。

電源ランプ（緑）は点灯したままです。

- バッテリー残量が約１０％以下になると、自走用操作部と同様にバッテリー警告ランプが点滅しバッテリー残量不足のブザーが『ピピピピッ』と4回鳴ります。

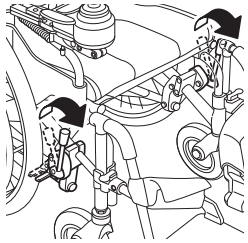
■ 必要に応じて速度の調整を行います。



速度調整ダイアルを時計回りに動かすと速度は速くなります。
反時計回りに動かすと速度は遅くなります。

最初は、遅くなるように速度を調整し走行に慣れてから徐々に切替えてください。

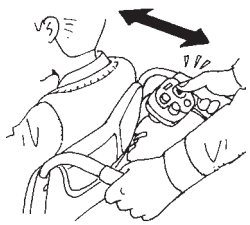
速度は前進時1.4 ～ 5.0km/h後進時0.5 ～ 2.0km/h の範囲に無段階で調整できます。
介助用操作時での最高速度は4.5km/h仕様、6km/h仕様共に同じです。



（3）駐車ブレーキを解除します。

（4）前進スイッチ（後進）を押すと走り出します。

- 前進スイッチ（後進）を放すと停止します。
- 手押しハンドルをしっかりに握ってください。
- 進行方向を変えたり、旋回したりするときは操作スイッチを押しながら「手押しハンドル」で操作ください。

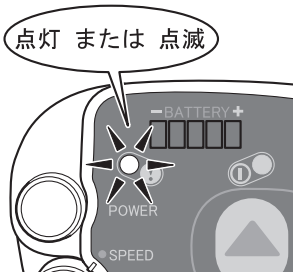


介助操作部の位置や角度を調整したい場合は（78頁）を参照してください。

電源が入らない

自走用操作部の電源が入ってませんか？
自走用操作部の電源が入っていると介助用操作部の電源が入りません。
いったん両方の電源を切ったあとで介助用操作部の電源を入れてください。

バッテリー残量ランプが表示しない



バッテリー警告ランプが点滅したまま、または点灯している場合はバッテリー切れです。
充電済みのバッテリーに交換しても、すぐにバッテリー警告ランプが点灯して動かない場合は、システムが故障している可能性があります。
最寄の取扱店に連絡してください。

ブザーが鳴って動かない

クラッチレバーが手動側のままで操作ボタンを押してませんか？
クラッチ抜け警告音です。(「ピピッピピッ」が鳴る)
電源を切りクラッチレバーを電動側に入れて再度電源を入れてください。

基本操作

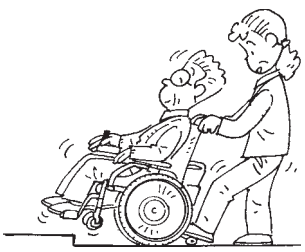
■ 進行方向を変えたり旋回する場合

- 前進もしくは後進スイッチを押しながら「手押しハンドル」で操作してください。

■ 坂道を下る場合

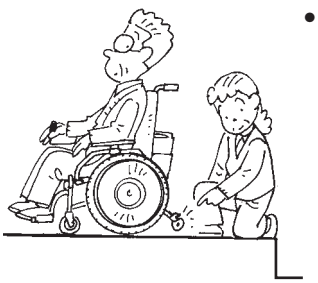
- 前のめりになるおそれがありますので必ず後進で下ってください。

■ 段差を乗り越す場合



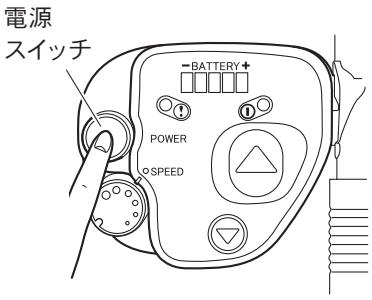
- 転倒防止バーを静かに足で踏みながら「手押しハンドル」を下に押してキャスターを上げてください。

■ 大きな段差を乗り越す場合



- 転倒防止バーをいったん格納する必要があります。段差を乗り越えた後は必ず転倒防止バーを出してください。

Step 3 走行を終了します



電源スイッチを切ります。

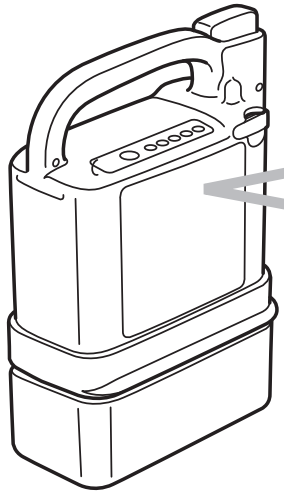
ベッド等に移乗させる手順に関しては
『3.2. 走行開始から終了まで』の
Step3 走行を終了します（21頁）を
お読みください。

4. バッテリーについて

バッテリーは消耗品です。正しく使用されても経時劣化します。

4.1. 使用するバッテリーの確認

JWアクティブ JWX-1では２種類のバッテリーをお使いになれます。
バッテリーの特性や使用する充電器が違いますので、最初にお使いになるバッテリーの種類を確認してください。



バッテリーのラベルを確認してください。

ニッケル水素バッテリーのラベル

Ni-MH

リチウムイオンバッテリーのラベル

Li-ion 00

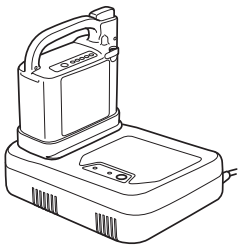
貴重な再生資源を含むリサイクル可能なバッテリーです。
バッテリーのリサイクルにご協力ください。
ご使用済みのバッテリーはJW取扱店で回収リサイクルしてください。

4.2. ニッケル水素バッテリー（JWB2）

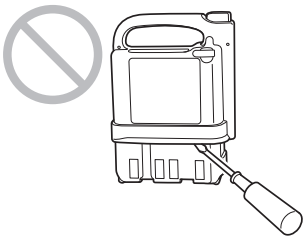
ヤマハ電動車イス用ニッケル水素バッテリーは、材料にカドミウムを含まず環境への影響が少ないことなどの優れた点を持っています。
大きな電気容量を持っていますので、取扱いについては下記事項をお守りください。

⚠ 警　告

● バッテリーの取り扱いを誤りますと、発熱・破裂の原因になります。必ず下記事項をお守りください。

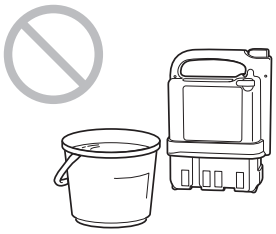


- 専用充電器（JWC-2）以外のもので充電したり指定の車イス以外に使用しないでください。

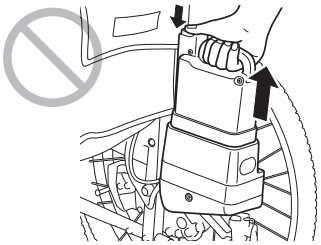


- 分解や改造をしないでください。

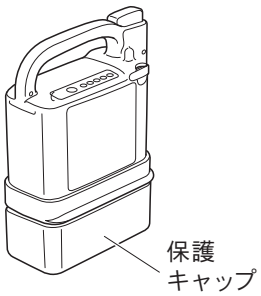
- 火に近づけたり投げ入れないでください。



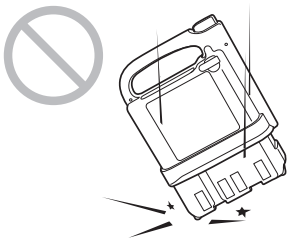
- 水没させたり水をかけないでください。



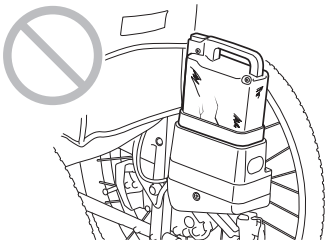
- 車イスを自動車などに積載する際はバッテリーを外してください。



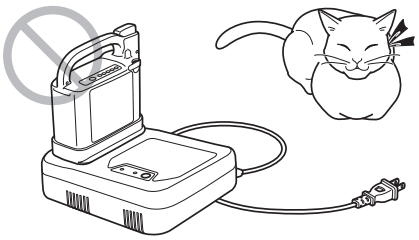
- 端子をショートさせないでください。使用しない時は、保護キャップを装着してください。



- 落下させたり衝撃を与えないでください。



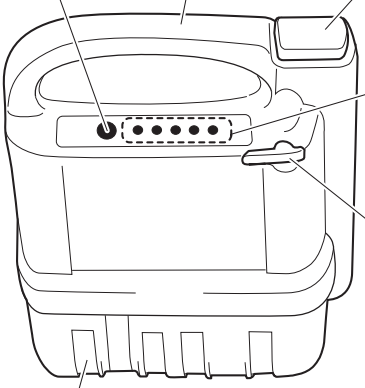
- バッテリーケースが破損した場合は使用しないでください。



- バッテリーは幼児やペットが近づくところで充電および保管をしないでください。

- 異臭や変形など今までと異なることに気がついた時は使用しないでください。
- バッテリーのヒューズは指定のものを使用してください。

■各部の名称



表示スイッチ
バッテリー残量を表示させるためのスイッチです。

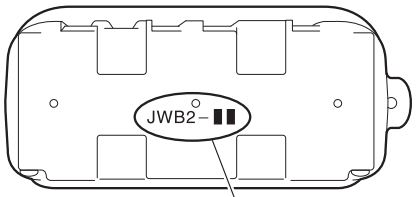
グリップ（取手）

リリースボタン（黄）
バッテリーを車イスから外すときのボタンです。

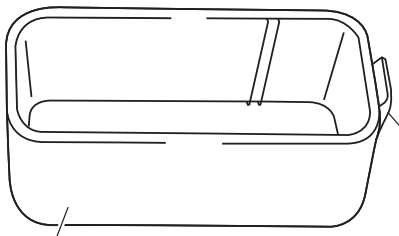
容量表示ランプ
充電・放電状態や異常内容を表示します。

電池ヒューズ（黄色 20A）
バッテリーを保護するためのヒューズです。正常なときには外さないでください。

接点部
電流やバッテリー情報を伝えます。



型式（JWB2）が標記されています。
確認してください。



予備電池ヒューズ（黄色 20A）
本体のヒューズが切れたときの交換用です。

保護キャップ
短絡防止や接点部保護のためのキャップです。

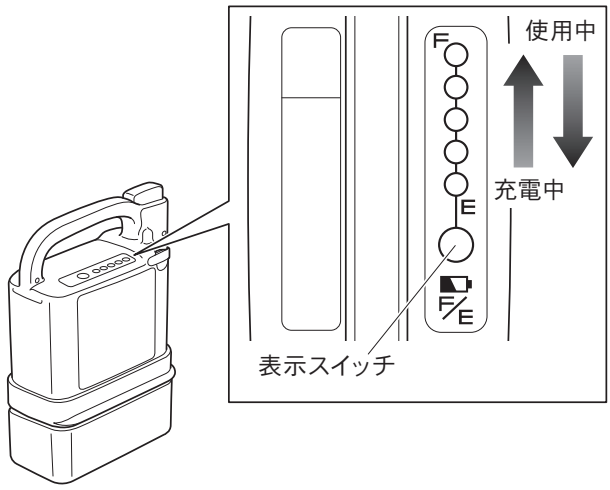
注　意

● バッテリーのヒューズが切れた場合、ご自身で交換して使用せず販売店に相談してください。ヒューズをご自身で交換してそのままご使用になりますと、本体ユニットが故障するおそれがあります。

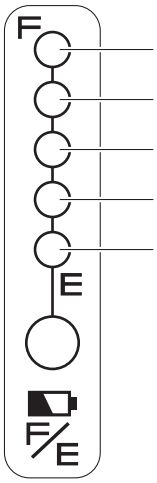
■ニッケル水素バッテリー（JWB2）の特長

- バッテリーマネジメントコントロールシステム（BMC）を内蔵しています。
  充放電状況、使用状況、温度状況などをコンピューター管理するシステムを採用しています。
- 水銀・カドニウムを含まない自然環境にやさしいバッテリーです。
- バッテリー容量　24V×6.7Ah

■容量表示ランプについて



表示スイッチを押すと残量を表示します。



８０~１００%
６０~８０%
４０~６０%
２０~４０%
０~２０%（約１０%で点滅）

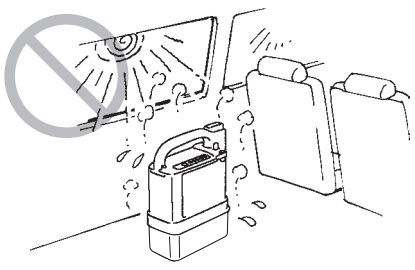
※ 新品時満充電での容量と現状バッテリー残量を示します。

■気温による特性について

気温の変化(バッテリー表面温度の変化) により走行できる距離が短くなる場合があります。

推奨使用温度範囲：気温が０℃から３５℃
推奨保管温度範囲：気温が１０℃から２５℃
推奨充電温度範囲：気温が１０℃から２５℃

- 推奨保管温度範囲外での保管は、劣化が促進されます。



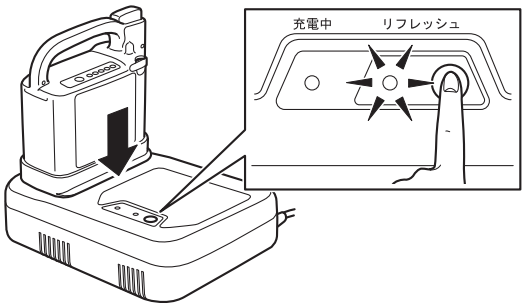
高温下での保管では劣化が加速促進されますので十分注意してください。

- 推奨使用温度以下で使用されるとバッテリー性能が低下します。

■リフレッシュ充電について

充電器のリフレッシュランプが点滅したらリフレッシュボタンを押してリフレッシュ充電を実施してください。

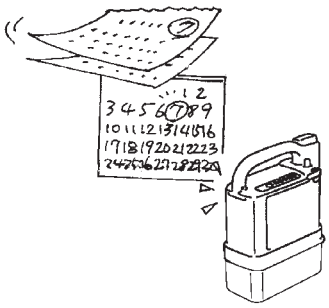
リフレッシュランプが点滅したら
リフレッシュ充電をしてください。



ニッケル水素バッテリーは浅い充放電を繰り返すと、実際に使える容量が減少する現象（メモリー効果）が発生します。
メモリー効果は、残りの電気を放電し充電すること(リフレッシュ充電)で予防および解消ができます。

詳細は、『充電の仕方』（43頁）を参照してください。

■未使用での長期保存について



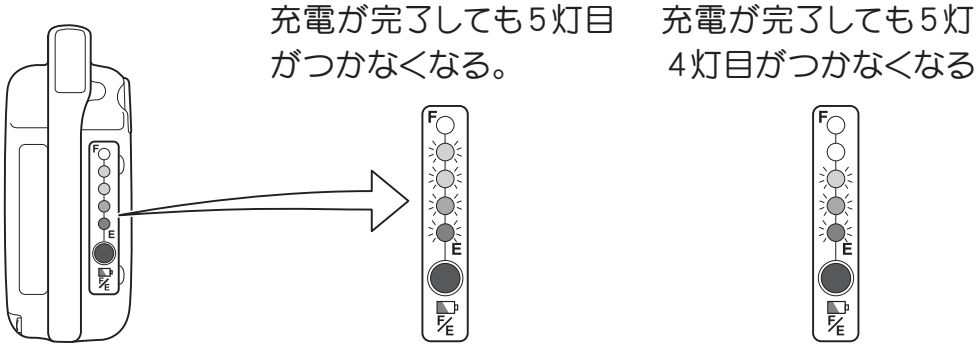
- バッテリーを保管する際は涼しくて乾燥した場所を選んで保管してください。（推奨保管温度10℃～25℃）
  長期間使用しないときはバッテリーを満充電して保管してください。
- 使用せず3ヶ月以上保存をされる場合は3ヶ月おきに充電をしてください。

4

■バッテリーの劣化について

- バッテリーは消耗品です。未使用であっても長期間保存した場合はバッテリーは劣化し容量は減少します。
- 容量劣化の度合いは使用条件によって異なりますが、充放電回数300回で新品時容量の約60% に減少する場合があります。
- 複数のバッテリーを使用の際は交互にお使いください。

■バッテリー劣化の確認の仕方

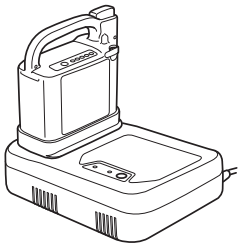


4.3. ニッケル水素バッテリー（JWB2）の充電について

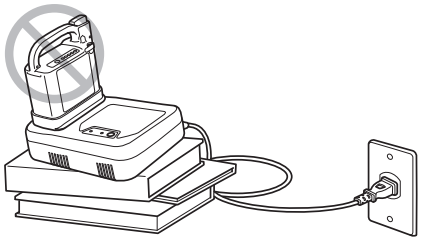
ニッケル水素バッテリー（JWB2）の充電には専用の充電器（JWC-2）をご使用ください。
また充電器の取扱いに際しては下記事項をお守りください。

⚠ 警　告

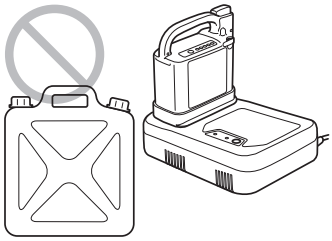
● 充電器の取り扱いを誤りますと、火災・感電・火傷の原因となります。



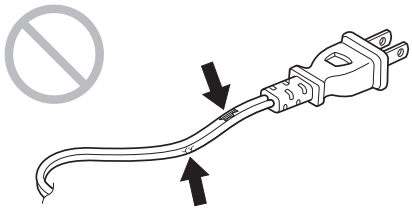
• 充電器（JWC-2）は、ニッケル水素バッテリー（JWB2）専用の充電器です。JWB2以外のバッテリーの充電やそれ以外に使用しないでください。



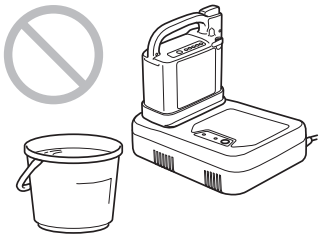
• 平坦な場所で使用し、使用後は電源プラグをコンセントに差したままにしないでください。



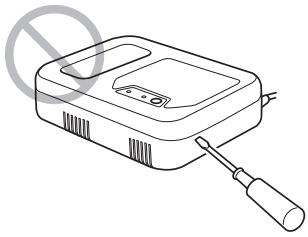
• 屋外や燃え易いものの近くで使用しないでください。



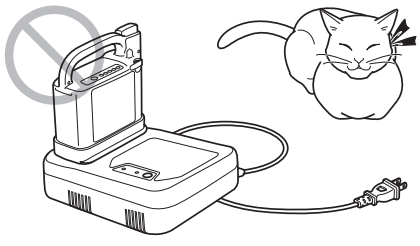
• コードが損傷したものは使用しないでください。



• 水に濡らしたり、濡れた手に触れないでください。



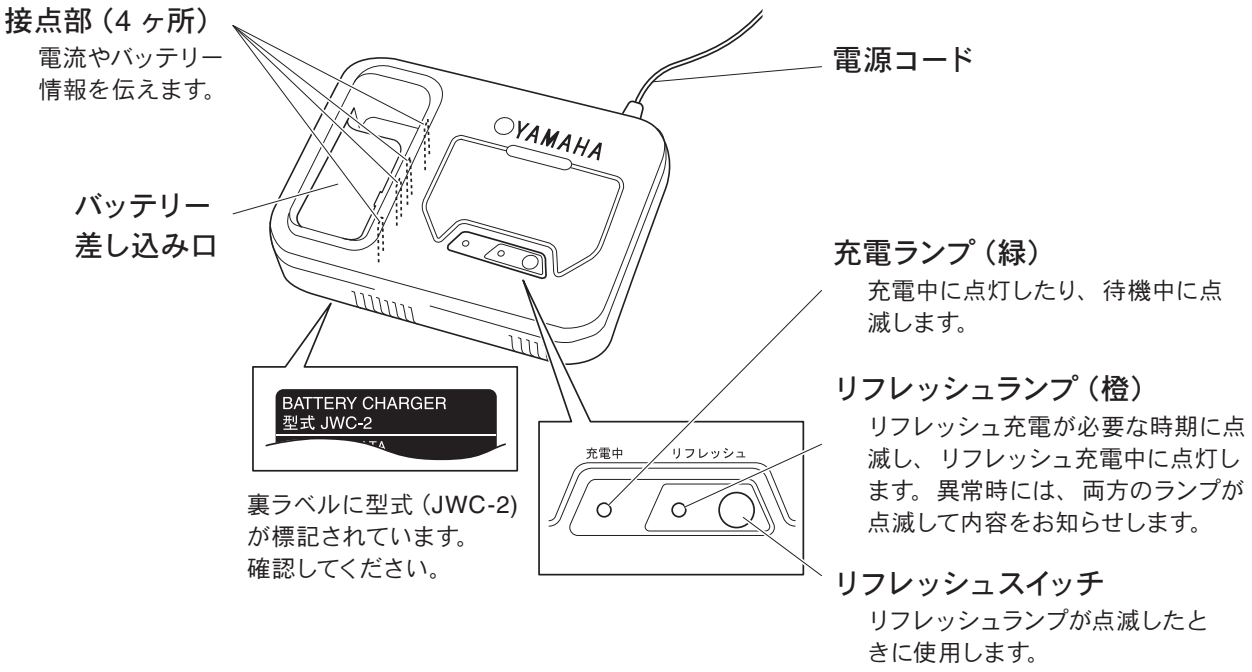
• 分解･改造をしないでください。



• 幼児やペットがいる場所に設置しないでください。

• 落下したり、衝撃を与えないでください。

■充電器（JWC-2）の各部名称



■使用範囲温度

4

- バッテリー保護のため、バッテリーの内部温度が0℃～40℃の範囲外では充電を開始しません。適温になるまで充電ランプ（緑）が点滅します。

  バッテリー温度が適温になると同ランプが点灯して自動的に充電が始まります。（待機時間は条件により異なります。）

  ※ リフレッシュ終了後充電に移行する時に起こる場合があります。

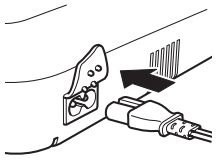
- 充電中にバッテリー温度が上昇し50℃を超えると充電が強制終了します。

  その場合充電は正常に終了していませんのでバッテリー温度が下がってから再度充電してください。

  ※ 新品のバッテリーや走行直後のバッテリーを充電するとバッテリー温度が上昇し易いため充電が強制終了される場合があります。

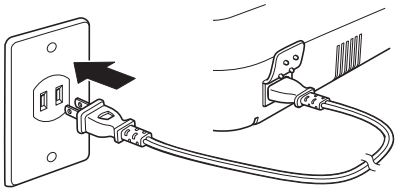
■充電の仕方

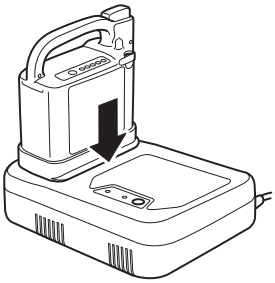
⚠ 充電する前に必ず38頁をお読みください。



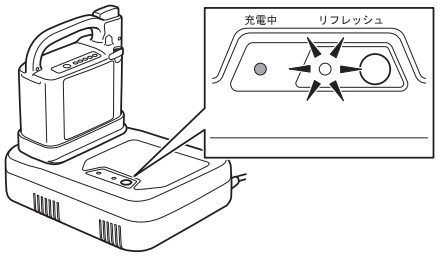
(1) 電源コードを差込みます。

充電器本体に電源コードを差し込んだ後
電源プラグをコンセントに差し込みます。





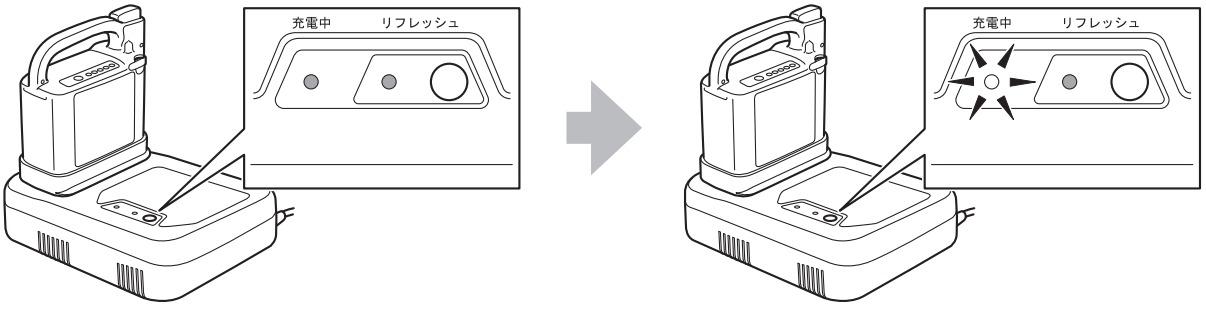
(2) バッテリーを充電器に装着します。



(3) リフレッシュランプ（橙）が点滅しているかを確認します。

リフレッシュランプ（橙）が点滅しない場合

リフレッシュランプ（橙）が点滅しなかった場合は、充電中ランプ（緑）が点灯し充電がはじまります。（通常充電）



空の状態からフル充電までにかかる時間

	所要時間
通常充電時	2．5～3時間

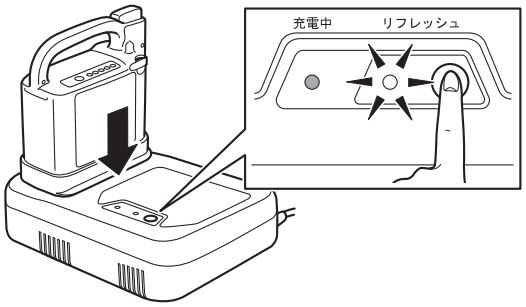
バッテリー充電時での所要時間です。
高い温度の場所での充電時や新品のバッテリーの充電時ではさらに時間がかかる場合があります。

4

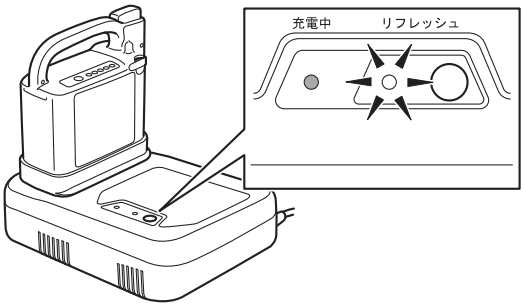
リフレッシュランプ（橙）が点滅した場合

リフレッシュスイッチを押してください。

リフレッシュランプ（橙）が点滅中にリフレッシュスイッチを押します。



リフレッシュランプ（橙）が点灯してリフレッシュ充電がはじまります。



上手な充電の仕方

- バッテリーの充電は、就寝中に実施されることをおすすめします。
- リフレッシュ充電は、バッテリーに残った電気を放電した後に充電するため、電気残量が多い場合に実施すると時間がかかります。バッテリーを使い切った状態でリフレッシュ充電をされることをおすすめします。

4

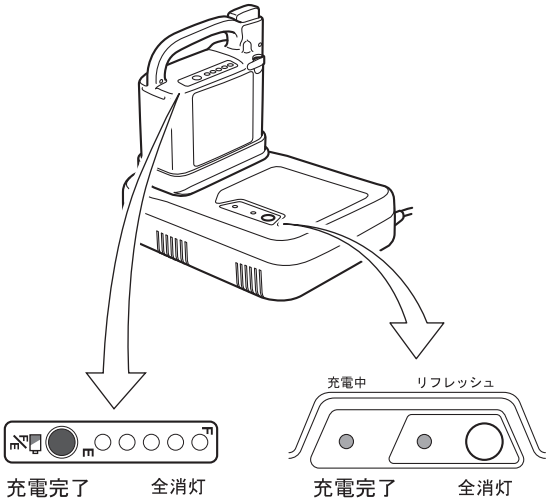
空の状態からフル充電までにかかる時間

	所要時間
リフレッシュ充電時	3～13時間

- リフレッシュ充電中バッテリー温度が適温になるまで充電ランプ（緑）が点滅し充電が待機になる場合があります。
  バッテリー温度が適温になると、同ランプが点灯して自動的に充電がはじまります。
- リフレッシュスイッチを押し損ねた場合でも、バッテリーを抜いてもう一度差し込むとリフレッシュ充電の合図が出ます。
- リフレッシュランプ（橙）が点滅した状態でリフレッシュスイッチを押さずそのまま放置し充電した場合、次回充電時にもリフレッシュランプ（橙）が点滅します。（リフレッシュ充電をするまで出続けます。）

リフレッシュスイッチを押さなかった場合

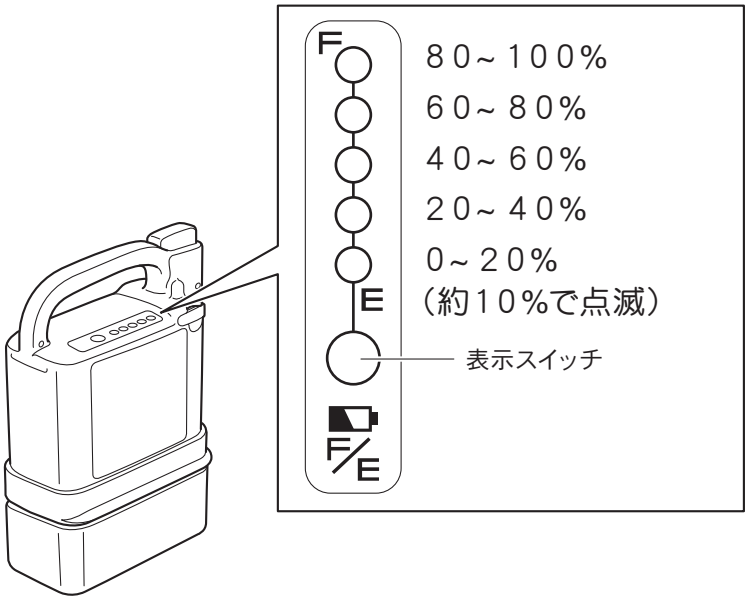
しばらくするとリフレッシュランプ（橙）が消灯し、充電中ランプ（緑）が点灯して通常充電がはじまります。



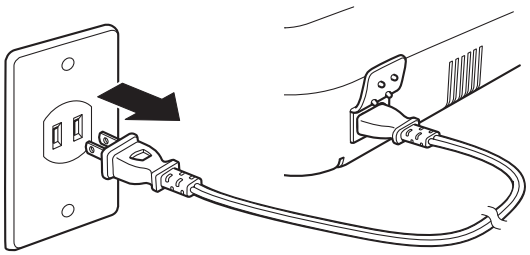
(4) 充電が完了したかを確認します。

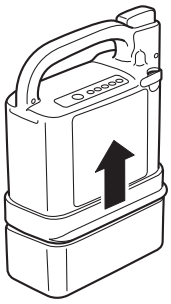
充電が完了するとバッテリーの容量表示ランプや充電器の充電ランプ（緑）が消灯します。

表示スイッチを押すと
充電量を表示します。



(5) 電源プラグをコンセントから抜きます。





保管する場合は充電器から取り外しバッテリーに保護キャップを装着してください。

⚠ 警　告

● 取り外したバッテリーには、必ず保護キャップを装着して保管してください。
接点部が、露出していると、ショートすることがあります。

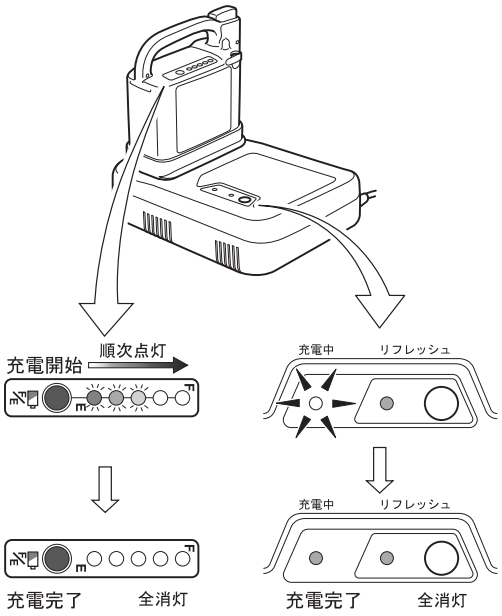
注　意

● 電源コードを引っ張って抜かないでください。断線の原因になります。

充電できない時は
『10. もしもこんな時は』85頁を参照してください。

充電中のランプ表示について

通常充電

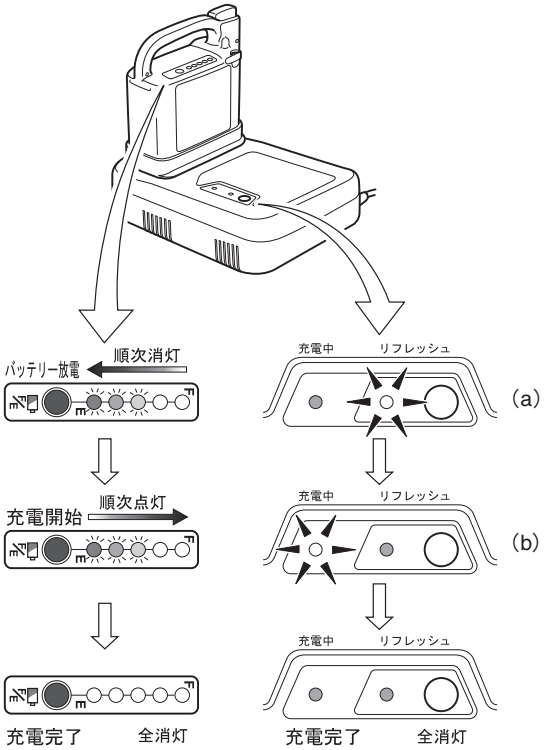


※ 高い温度の場所での充電時や新品のバッテリーの充電時ではさらに時間がかかる場合があります。

推奨充電温度範囲：10～25℃

所要時間：2．5～3時間

リフレッシュ充電



(a) 放電

バッテリーに残った電気を放電させます。

※ バッテリーに残った電気量によって放電にかかる時間がかわります。

(b) 充電

放電完了直後は、内部温度が高くなるため充電待機になる場合があります。
しばらくすると充電が始まります。

※ 高い温度の場所での充電時ではさらに時間がかかる場合があります。

推奨充電温度範囲：0～25℃

所要時間：3～13時間

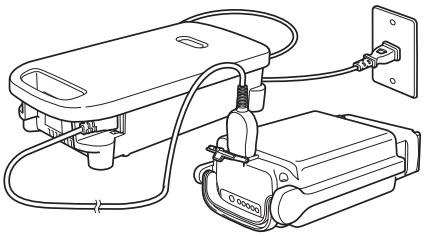
バッテリーが少ない状態でリフレッシュ充電を行うと時間を短縮することができます。

4.4. リチウムイオンバッテリー (ESB1)

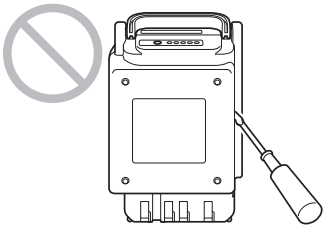
リチウムイオンバッテリー（ESB1）は、ニッケル水素バッテリーに比べ大きな電気容量を持ち劣化が穏やかで、ニッケル水素バッテリーと同様に環境への影響が少ないことなど優れた点を持っています。

⚠ 警　告

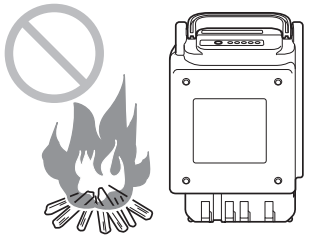
● バッテリーの取り扱いを誤りますと、発熱・破裂・発火の原因になります。必ず下記事項をお守りください。



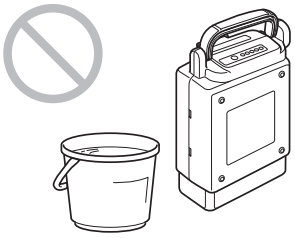
- 専用充電器（ESC1 または ESC2）以外のもので充電したり指定の車イス以外に使用しないでください。



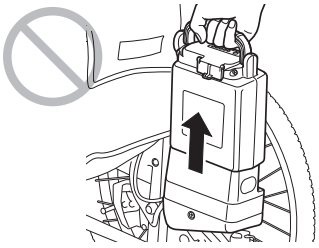
- 分解や改造をしないでください。



- 火に近づけたり投げ入れたりしないでください。

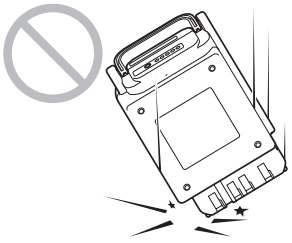


- 水没させたり、水をかけないでください。

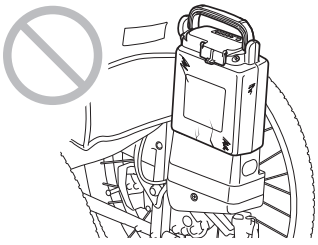


- 車イスを自動車などに積載する際はバッテリーを外してください。

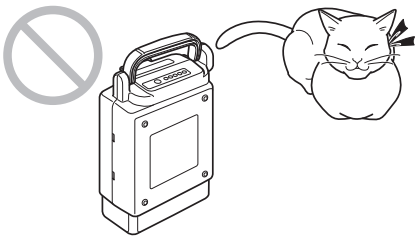
- 端子をショートさせないでください。使用しない時は保護キャップを装着してください。



- 落下させたり、強い衝撃を与えないでください。



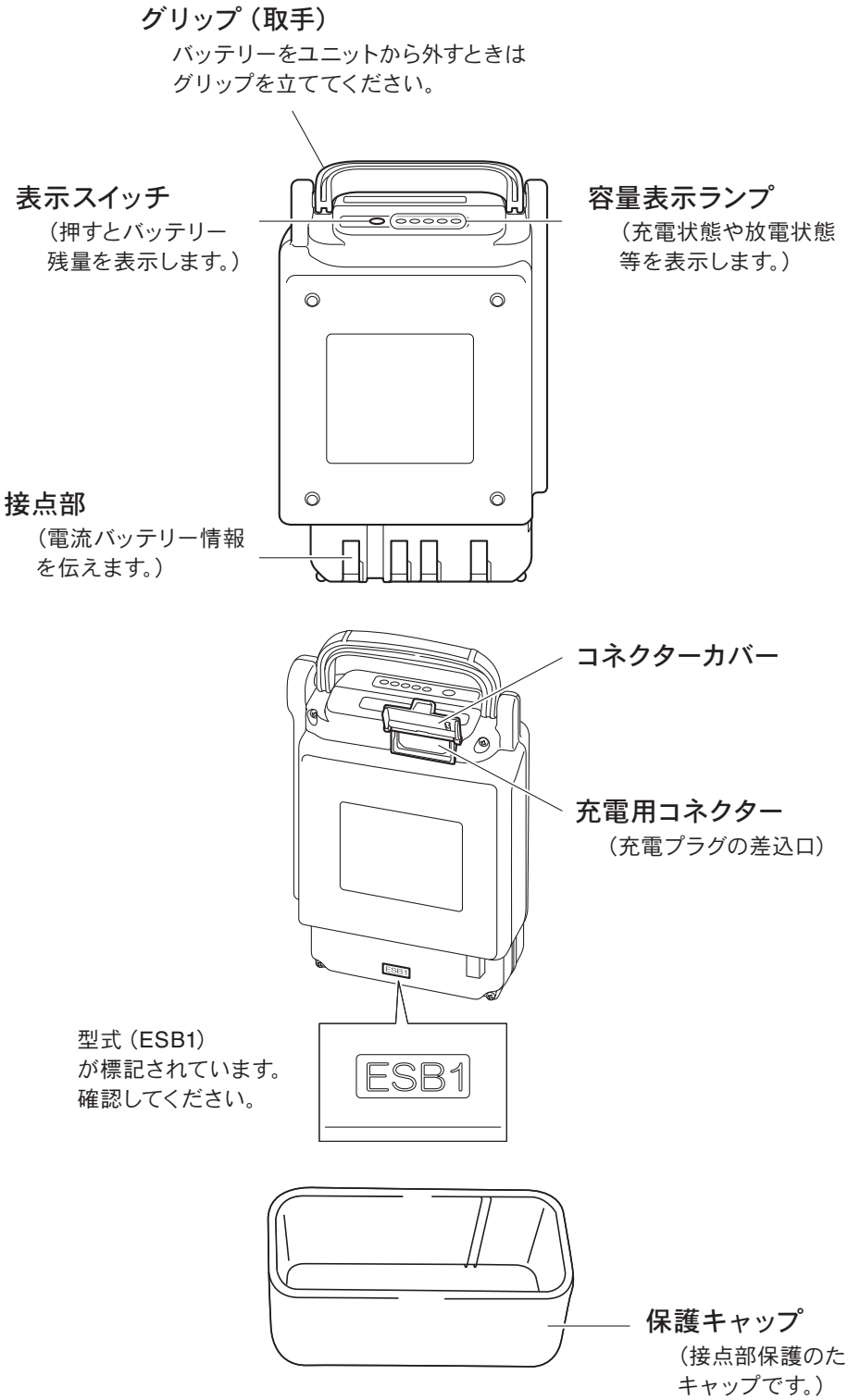
- バッテリーケースが破損した場合は使用しないでください。



- バッテリーは幼児やペットが近づくところで充電および保管をしないでください。

- 異臭や変形など今までと異なることに気がついた時は使用しないでください。
- リチウムイオンバッテリーの着脱時にグリップで指を挟まないでください。指をけがするおそれがあります。

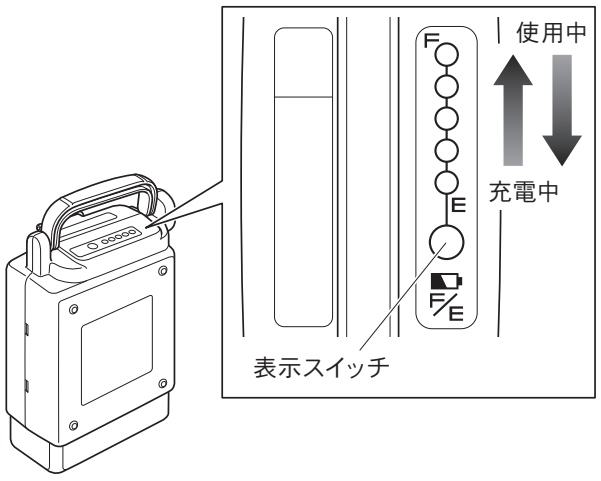
■各部の名称


グリップ（取手）
バッテリーをユニットから外すときは
グリップを立ててください。
表示スイッチ
（押すとバッテリー
残量を表示します。）
容量表示ランプ
（充電状態や放電状態
等を表示します。）
接点部
（電流バッテリー情報
を伝えます。）
コネクターカバー
充電用コネクター
（充電プラグの差込口）
型式（ESB1）
が標記されています。
確認してください。
ESB1
保護キャップ
（接点部保護のための
キャップです。）

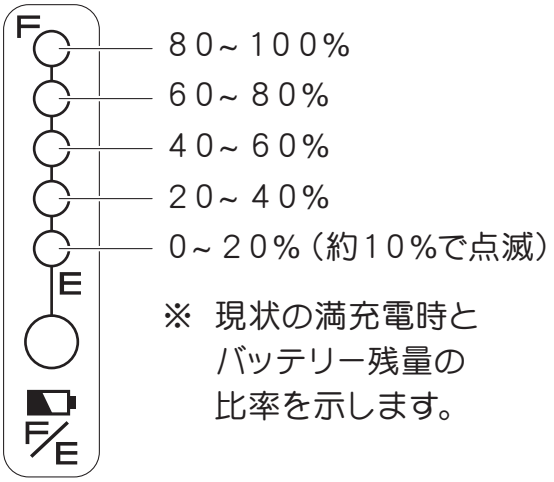
■リチウムイオンバッテリーの特長

- ヤマハ電動車イス用ニッケル水素バッテリーと比べて大きな電気容量をもっています。
- バッテリーマネジメントコントロールシステム（BMC）を内蔵しています。
  充放電状況、使用状況、温度状況などをコンピューター管理するシステムを採用しています。
- 浅い充放電を繰り返してもメモリー効果がありません。
  リフレッシュ充電は不要で継ぎ足し充電することが可能です。
- 水銀・カドニウムを含まない自然環境にやさしいバッテリーです。
- バッテリー容量：25V × 11.2Ah

■容量表示ランプについて



表示スイッチを押すと残量を表示します。



※ 現状の満充電時とバッテリー残量の比率を示します。

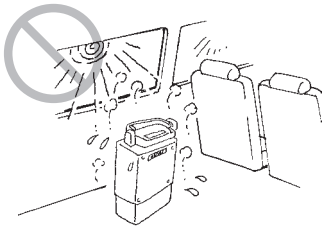
バッテリーの充電が完了するとバッテリー容量を残量ランプで表示しますが、劣化した場合でも充電が完了すれば全灯表示となる相対表示を採用しています。従って、新品時の容量ランプの減り方に較べ劣化している場合は容量ランプの減り方は早くなります。

■気温による特性について

- 気温の変化（バッテリー内部温度の変化）により走行できる距離が短くなる場合があります。

推奨使用温度範囲：気温が0℃から35℃
推奨保管温度範囲：気温が10℃から25℃
推奨充電温度範囲：気温が10℃から25℃

- 推奨保管温度範囲外での保管は、劣化が促進されます。



満充電での高温下での保管では劣化が加速促進されますので十分注意してください。

- 推奨使用温度以下で使用されるとバッテリー性能が低下します。

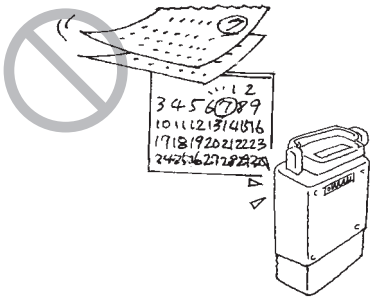
走行中リチウムイオンバッテリーの内部温度が推奨使用温度範囲外になるとブザー音でお知らせします。

- リチウムイオンバッテリー使用時に表面温度が0℃以下もしくは45℃以上の状態が5秒続くとブザー音（ピッピッピッピッピッの連続音）でお知らせします。
- ブザーが鳴りましたら、すみやかに推奨使用温度範囲内の環境に戻ってご使用ください。
- 0℃以下もしくは45℃以上の状態下で走行されますと回生電流制限のため坂道で停止する場合があります。

  停止する前にピーピーピーピーピー（長音5回）とブザー音が鳴り
  10秒後ピー（長音）とブザー音が鳴って止まります。

■未使用での長期保存について

- バッテリーを保管する際は、涼しくて乾燥した場所を選んで保管してください。長期間使用しないときは容量表示ランプの3灯になるよう充電して保管してください。
- 使用せず3ヶ月以上保存をされる場合は3ヶ月おきに容量表示ランプの3灯になってるかを確認し、必要に応じて充電してください。



■バッテリーの劣化について

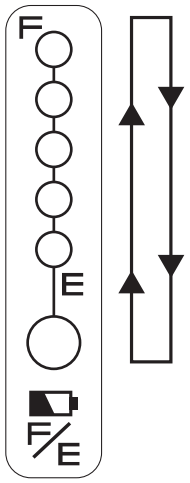
- 容量減少の度合いは使用条件によって異なりますが充放電回数700回で新品時容量の約60% に減少する場合があります。
- 未使用であっても長期間保存した場合は、バッテリーは劣化し容量は減少します。
- 複数のバッテリーを使用の際は交互にお使いください。

■バッテリーの寿命について

最初の充電開始より8年または積算充電容量8000Ahです。

- 寿命のお知らせ
  寿命で充電できなくなる約3ヶ月前に容量表示ランプでお知らせします。

  充電完了時、充電プラグを抜いた後に下図のように容量表示ランプが点灯・消灯します。



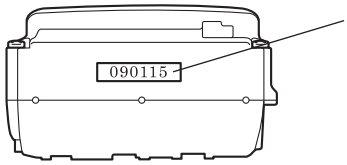
矢印の順に容量表示
ランプが点灯・消灯を
5秒間繰り返します。

- 寿命に達した場合の判別方法

  完全に寿命に達した場合は、充電時充電器のランプが点灯せず、バッテリーの容量表示ランプが点灯しなくなり充電できません。

リチウムイオンバッテリーの使い始めた年月日を忘れてしまったら。

- バッテリー底面に製造年月日が記載されています。参考にしてください。



バッテリーの使用開始は、工場出荷後の最初の充電日から起算されます。上記製造年月日と差異がある場合があります。

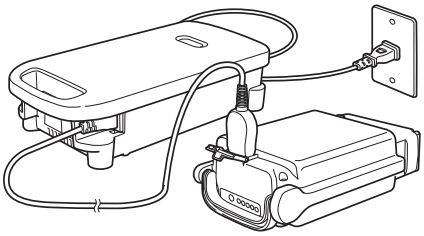
総放電量の制限に達した場合には、８年内以内でも寿命となり使用できなくなります。

4.5. リチウムイオンバッテリー（ESB1）の充電について

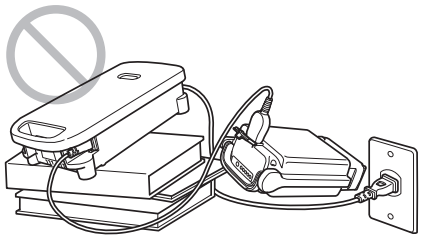
リチウムイオンバッテリー（ESB1）の充電には専用の充電器（ESC1もしくはESC2）をご使用ください。また充電器の取扱いに際しては下記事項をお守りください。

⚠ 警　告

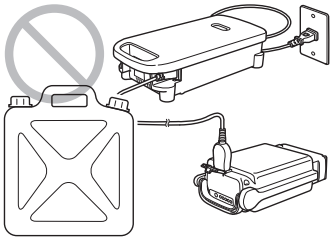
● 充電器の取り扱いを誤りますと、火災・感電・火傷の原因となります。



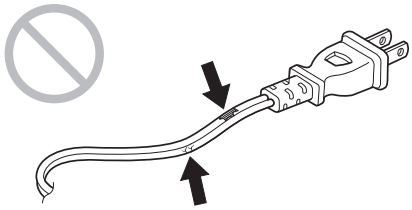
- 充電器（ESC1およびESC2）はリチウムバッテリー（ESB1）の専用の充電器です。ESB1以外のバッテリーの充電や充電以外の行為に使用しないでください。



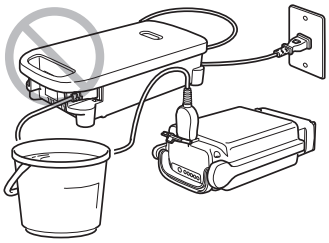
- 平坦な場所で使用し、使用後は電源プラグをコンセントに差したままにしないでください。



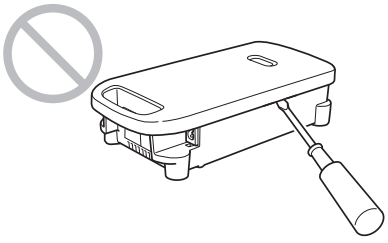
- 屋外や燃え易いものの近くで使用しないでください。



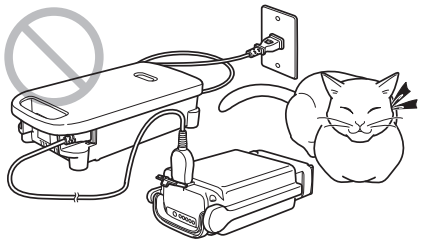
- コードが損傷したものは使用しないでください。



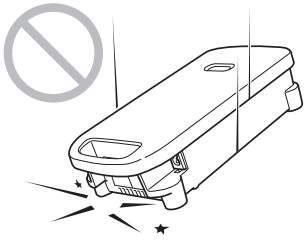
- 水に濡らしたり、濡れた手に触れないでください。



- 分解･改造をしないでください。

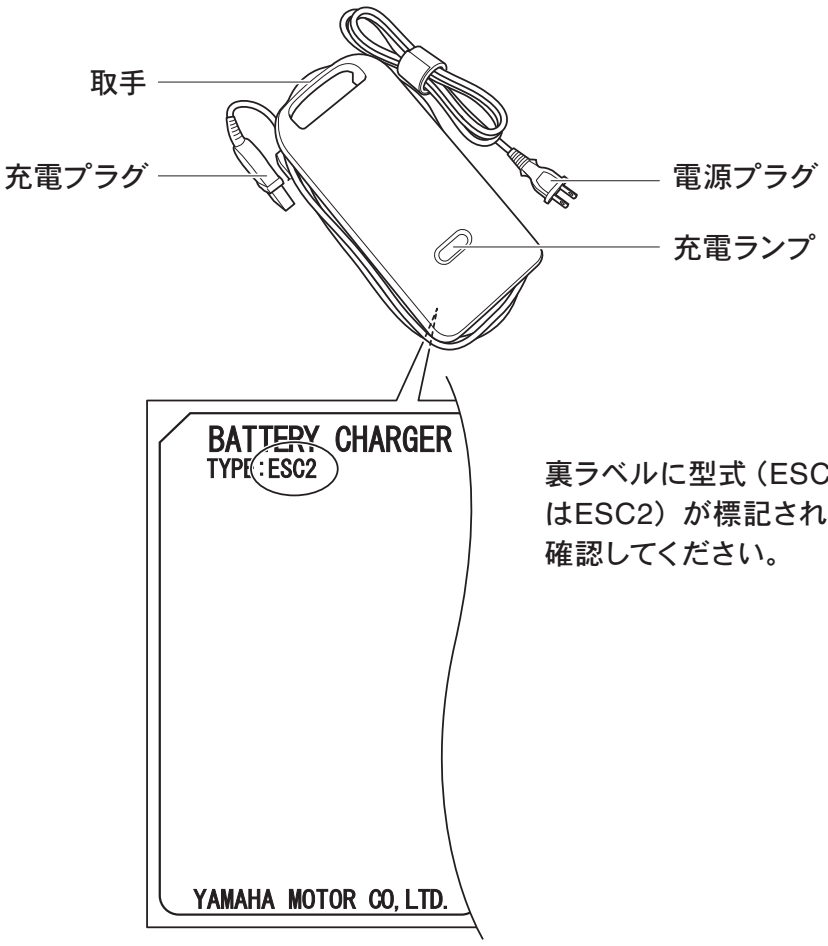


- 幼児やペットがいる場所に設置しないでください。



- 落下したり、衝撃を与えないでください。

■充電器（ESC1 および ESC2）の各部名称



裏ラベルに型式（ESC1もしくはESC2）が標記されています。確認してください。

4

■使用範囲温度

- バッテリー保護のため、バッテリー温度が0℃ ～４０℃の範囲外では充電を開始しません。適温になるまで充電ランプ（緑）が点滅します。

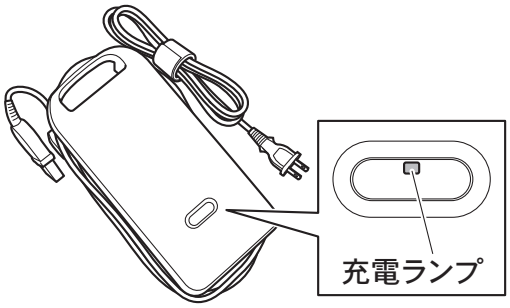
  バッテリー温度が適温になると同ランプが点灯して自動的に充電が始まります。（待機時間は条件により異なります。）

- 充電中にバッテリー温度が上昇し４５℃を超えると充電が強制終了します。

  その場合充電は正常に終了していませんのでバッテリー温度が下がってから再度充電してください。

  ※ 新品のバッテリーや走行直後のバッテリーを充電するとバッテリー温度が上昇し易いため充電が強制終了される場合があります。

■充電ランプ表示と内容



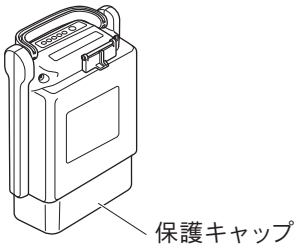
- 緑点灯
  通常充電中です。
  充電が完了すると充電ランプが消灯します。
- 緑点滅
  充電待機中です。
  バッテリ温度が充電可能範囲（0℃～40℃）でないときまたはバッテリー電圧が低いときに点滅します。
  適正な環境になると緑色の点灯に変わり自動的に充電を開始します。又、充電待機が長時間続くと早い点滅に変わって充電待機を中止します。
  適切な温度の場所へ移動し、しばらく待ってからやり直してください。
- 赤点灯または赤点滅
  充電器またはバッテリーの異常を検出した為充電できません。一旦充電プラグと電源プラグを抜いて充電を中止し充電環境を整えてから再度充電してください。
  再び赤ランプが点灯または点滅する場合は機器の故障が考えられます。充電プラグと電源プラグを抜いて充電を中止し、JW取扱い店で点検整備を受けてください。

■充電の仕方

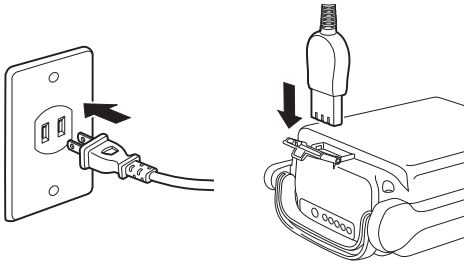
バッテリーを取り外して充電する方法（卓上充電）とバッテリーを車イスに装着したまま充電する方法（車載充電）の二つの方法があります。

■ バッテリーを取り外して充電する場合（卓上充電）

⚠ 充電作業をする前に、必ず52頁をお読みください。

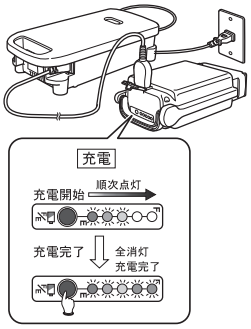


(1) バッテリーに保護キャップが装着されているかを確認します。
装着されていなかった場合は、必ず保護キャップを装着してください。

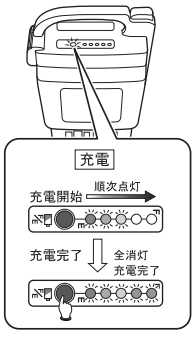


(2) 充電器の電源プラグをコンセントに差し込みます。

(3) バッテリーを寝かせた状態にしコネクターカバーをあけ、充電プラグをバッテリーの充電用コネクターに差し込みます。



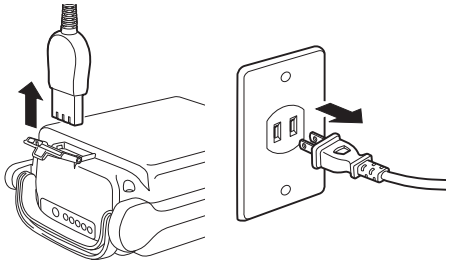
(4) 充電器の充電ランプが緑点灯するかを確認します。
- 充電ランプが緑点灯しない場合は充電ランプ表示と内容54頁を参照してください。



(5) バッテリーの充電状況を確認します。
充電が完了すると充電ランプが消灯します。

空の状態からフル充電までにかかる時間

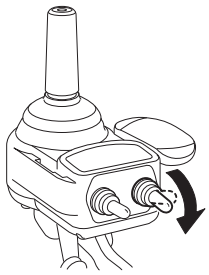
所要時間
3．5時間前後



(6) 充電完了後、充電プラグおよび電源プラグを抜きバッテリーのコネクターカバーをしっかりしめます。

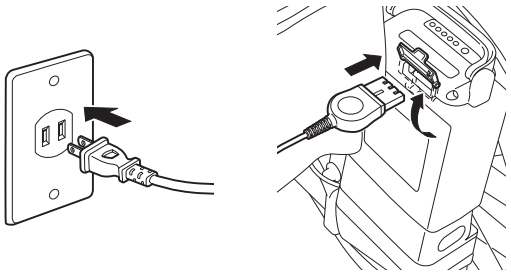
■ バッテリーを車イスに装着したまま充電する場合（車載充電）

⚠ 充電作業をする前に、必ず５２頁をお読みください。



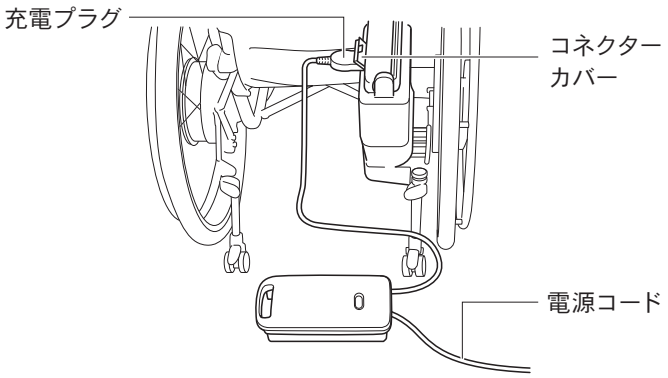
(1) 背もたれの荷物やバックなど充電ケーブルがひっかかるおそれがあるものをあらかじめ取り除きます。
室内で平坦な場所で充電します。
駐車ブレーキをかけさらに
クラッチレバーを電動側に入れてください。

(2) 車イスの電源スイッチが切れているかを確認します。

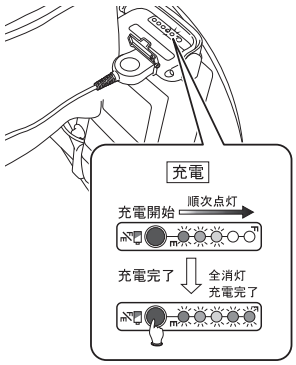


(3) 充電器の電源プラグをコンセントに差し込みます。

(4) 充電器の充電プラグをバッテリーの充電コネクターに差し込みます。



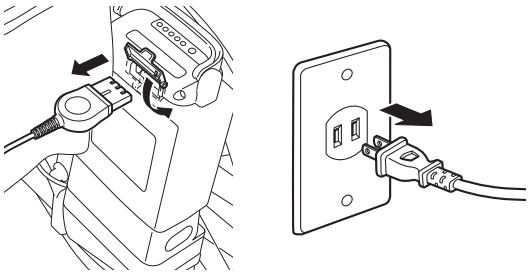
(5) バッテリーの充電ランプが緑点灯するかを確認します。
- 充電ランプが緑点灯しない場合は充電ランプ表示と内容５４頁を参照してください。



(6) 充電表示ランプを確認します。
- 充電が完了すると充電ランプが消灯します。

空の状態からフル充電までにかかる時間

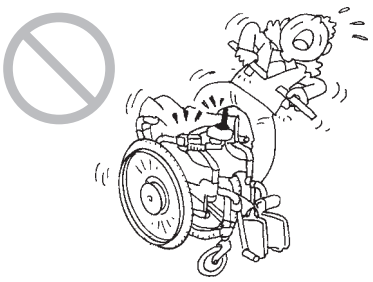
所要時間
３．５時間前後



(7) 充電完了後、充電プラグおよび電源プラグを抜きバッテリーのコネクターカバーをしっかりしめます。

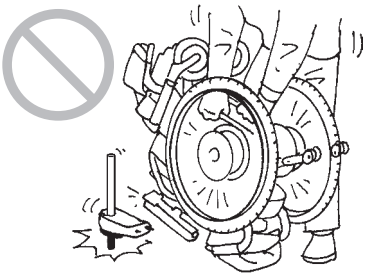
5. 運搬および保管方法について

⚠ 警　告

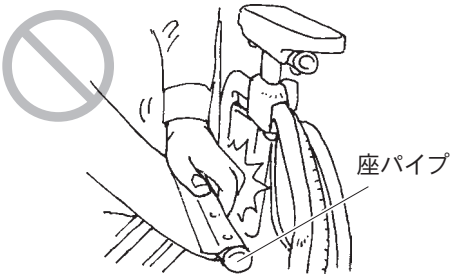


● 跳ね上げ式のアームサポートがついた車イス（JWアクティブ等）では持ち上げるときに絶対にアームサポートを持たないでください。不意にアームサポートが外れ、けがや機器の損傷の原因となります。

● 車イス持ち上げるときに絶対にバッテリー、ケーブル、自走用操作部を持たないでください。不意に機器が外れ、けがや機器の損傷の原因となります。

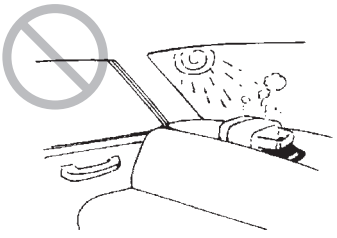


● 車イスをさかさまにしないでください。
さかさまにした場合、自走用操作部が抜け落ちるなどしてけがや機器の損傷の原因となります。



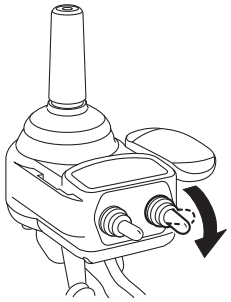
● 座パイプの横や下へ手や指を入れないでください。指をはさむおそれがあります。

注　意

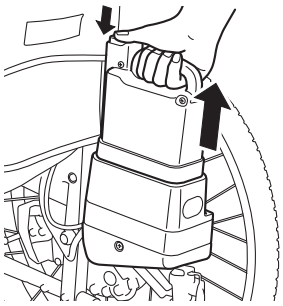


● 搬送中は、バッテリーや車イスを高温になったり直射日光があたる場所に置かないでください。
バッテリーの劣化が促進したり機器の故障の原因となります。

5.1. 車イスの積み込み方法



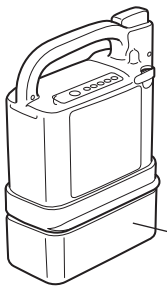
(1) 電源を切ります。



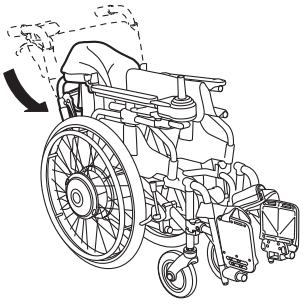
(2) バッテリーを外します。

- 運搬中に不用意に電源が入らないようにバッテリーを外してください。

⚠ 警　告



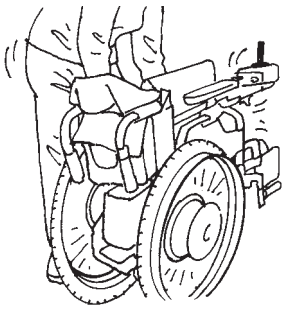
●取り外したバッテリーには必ず保護キャップを装着して保管してください。
接点部が露出しているとショートすることがあります。

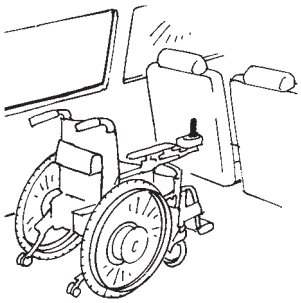


(3) 車輪をロックします。

- 車輪が回らないようにクラッチレバーを電動側に入れて駐車ブレーキをかけてください。

(4) 運び易くするため車イスを折りたたんだり外せる部位を外したりします。
折りたたんだり外せる箇所の確認と方法の確認は
『7. より快適にご使用されるために』（６５頁～７８頁）を参照してください。





(5) 車イスを積み込みます。

- 車イスのフレーム部分を両手で持って静かに積み込んでください。

積み込む時に守っていただくこと

- 精密電子部品が使用されてますので強いショックを与えないでください。
- できるかぎり立てて載せてください。
- 横にして載せる場合は、自走用操作部が上になるようにし周囲のものと干渉しないかを確認し固定してください。

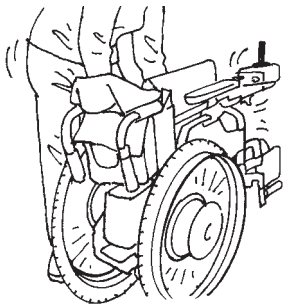
(6) 車イスを固定します。

- 搬送中にガタガタ揺れないようにしてください。

車イスの固定方法

- ベルトなどで固定するか車イスの下やまわりにクッションなどの緩衝材を置いてください。

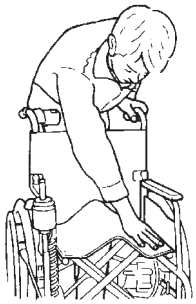
5.2. 車イスの降ろし方法



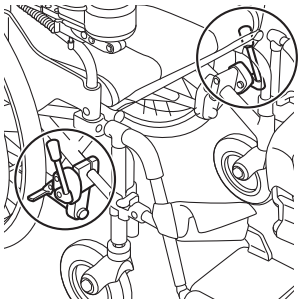
(1) 車イスを自動車等から降ろします。

降ろす時に守っていただくこと

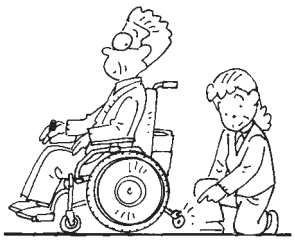
- 精密電子部品が使用されてますので強いショックを与えないでください。



(2) 外した部位を元の場所に装着し折りたたみを元に戻します。
装着と元に戻し方は『7. より快適にご使用されるために』（６５頁～７８頁）を参照してください。



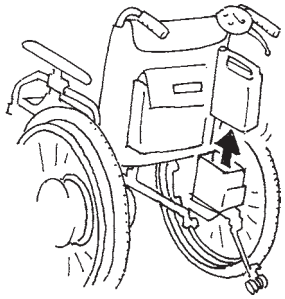
(3) 駐車ブレーキがかかっているかを確認します。



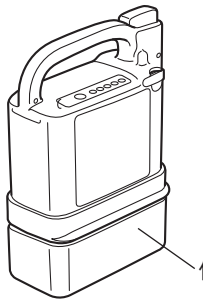
(4) 転倒防止バーが出ているかを確認します。
そのまま走行される場合は『3. さぁ乗ってみましょう』（１３頁～３４頁）を参照してください。

5.3. 車イスの保管方法

⚠ 警　告

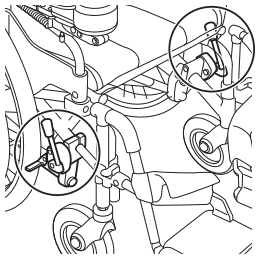


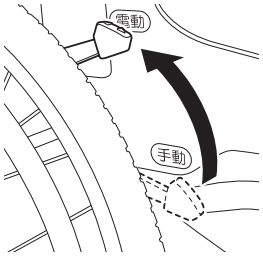
● 幼児や操作方法を知らない方が操作するのはたいへん危険です。使用しないときには、必ずバッテリーを外しておいてください。



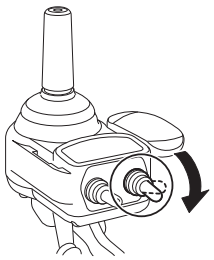
● 取り外したバッテリーには必ず保護キャップを装着して保管してください。接点部が露出しているとショートすることがあります。

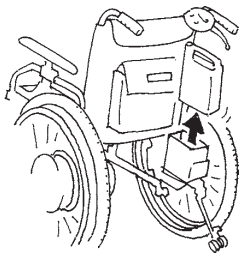
■ 駐車ブレーキをかけクラッチレバーを電動側に入れてください。





■ 電源を切りバッテリーを必ず外してください。

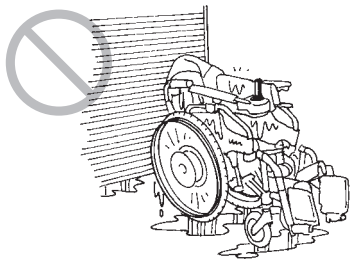
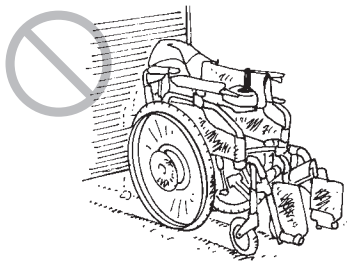
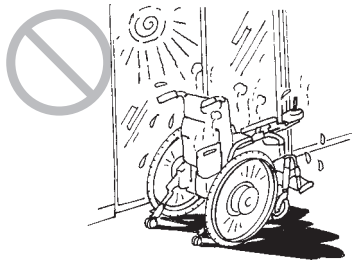




バッテリーを長期保存する場合は、下記頁を参照し注意事項を守って保管してください。

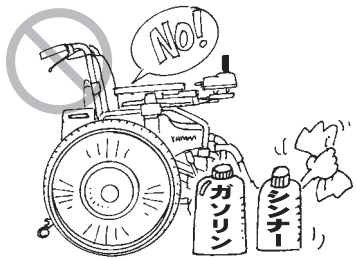
- ニッケル水素バッテリーについては　３６頁～３９頁
- リチウムイオンバッテリーについては　４６頁～５１頁

■ 屋内の湿気が少ない場所に保管してください。

注　意	
	● 雨に濡れたり、湿気の高いところには保管しないでください。
	● 長時間濡れたままであったり汚れが付着したままで保管しないでください。故障の原因となります。
	● 直射日光が当たったり、高温になるところを避けて保管してください。

■ お手入れについて

泥や汚れを落とすときは、強くしぼったタオルなどで拭いてください。

注　意	
	● ホースで直接水をかけて洗わないでください。 電子機器を損傷し故障の原因となります。
	● ガソリン、シンナー等の溶剤で拭かないでください。化成品を傷めるおそれがあります。

6. 海外渡航について

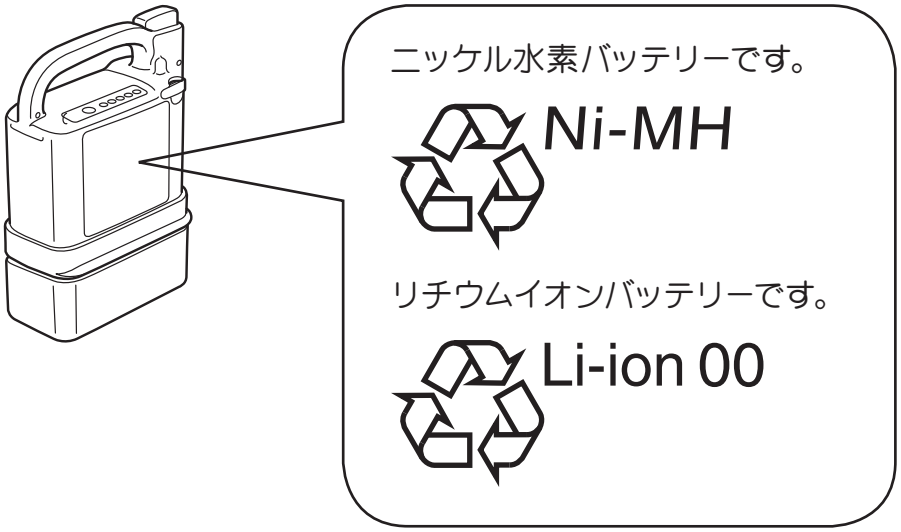
6.1. 航空機搭乗時

フライトチケット予約時に車イス使用の旨を航空会社に連絡し指示に従ってください。
チケット予約時や搭乗手続きの際に、航空会社から車イスの特徴を知るため質問をされます。

航空会社からの質問例

Q: 使用するバッテリーは、湿式（ウェット）ですか？ 乾式（ドライ）ですか？
A: 乾式（ドライ）です。
　貨物室で液漏れの心配があるかどうかを航空会社が判断します。

Q: 使用する電池の種類は？
A: バッテリーのラベルを確認してください。



6

リチウムイオンバッテリーについて

IATA危険物規則およびICAO−TIによりヤマハ電動車イス用リチウムイオンバッテリーは危険物扱いとなります。
可否判断の権限は航空会社にありますので、ご利用の際には、事前に航空会社へお問い合わせください。

6.2. 海外滞在時

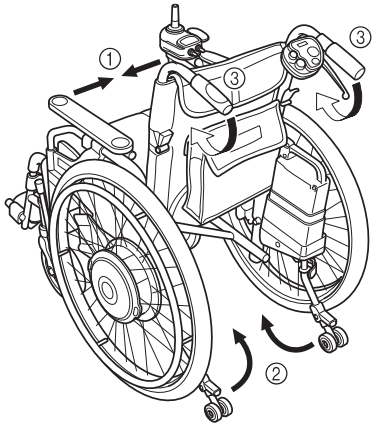
(1) 充電器は、１００V ～２４０Vまで対応できますので変圧器の必要はありません。
滞在先のコンセントに合うプラグ変換アダプターを電気店で購入して、充電器プラグに装着してご使用ください。
(2) 海外でのサービスサポートは、応じかねます。

7. より快適にご使用されるために

7.1. 乗降や収納等に便利な機能

7

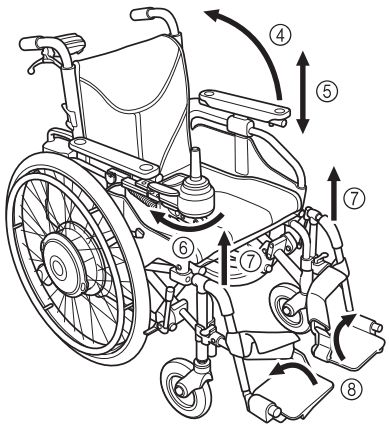
JWアクティブでは、乗降や収納等に便利な機能がついていますのでご活用ください。
JWX-1ユニットを装着した車イスについてはご使用のフレームによってフレーム側各機能に相違がございます。詳細は各フレームメーカーにご確認ください。



① フレームを折りたたむ
→詳細は６６頁を参照

② 転倒防止バーを格納する
→詳細は６７頁を参照

③ 手押しハンドルを折りたたむ
→詳細は６８頁を参照



④ アームサポートを跳ね上げる
→詳細は６８、６９頁を参照

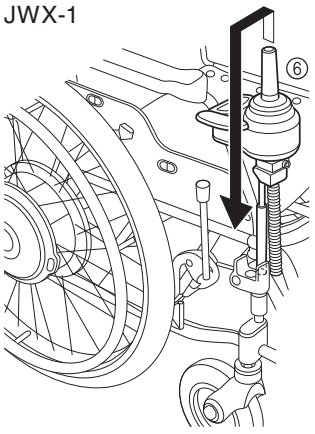
⑤ アームサポートを高さ調整する
→詳細は６９頁を参照

⑥ 自走用操作部を格納する
→詳細は７０、７１頁を参照

⑦ フットレッグサポートを取り外す
→詳細は７１頁を参照

⑧ フットサポートを跳ね上げる
→詳細は７２頁を参照

JWX-1



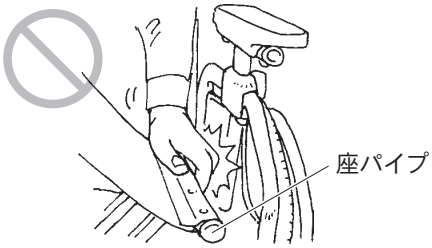
②⑥は、JWX-1ユニットも共通の機能です。

※ JWアクティブSタイプのみ背もたれの張りを調整することができます。
詳細は、７３頁を参照してください。

① フレームを折りたたむ

JWX-1ユニットを装着した車イスについては使用フレームのメーカーにご確認ください。

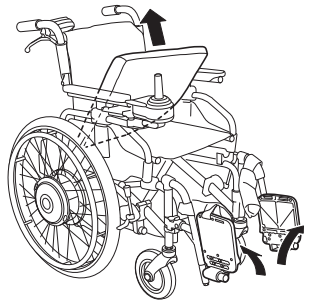
⚠ 警　告



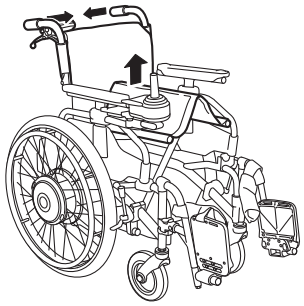
● 座パイプの横や下へ手や指を入れないでください。指をはさむおそれがあります。

配線などをはさまないように、下図の順で車イスを折りたたみます。
JWアクティブPタイプ・Sタイプとも同様の手順です。

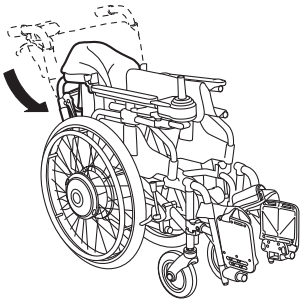
フットサポートを矢印方向に跳ね上げクッションを外します。



シートを持ち上げると折りたためます。



必要に応じて手押しハンドルを折りたたみます。



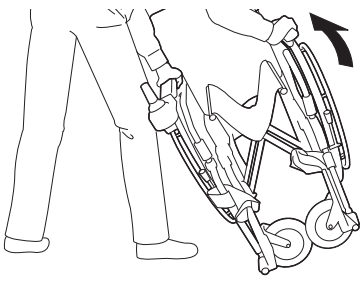
図はJWアクティブPタイプです

元に戻すには、上図の逆手順を行ってください。

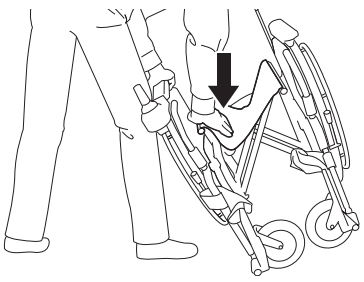
- フットサポートの跳ね上げについては詳細が　７２頁に記載されています。
- 手押しハンドルの折りたたみについては詳細が　６８頁に記載されています。

簡単に戻すコツ

片側の車輪を浮かせます。



浮かせたままの状態で座パイプを押します。



② 転倒防止バーを格納する

介助走行時での大きな段差の乗り越しにご利用ください。また昇降後はすぐに転倒防止バーを戻してください。

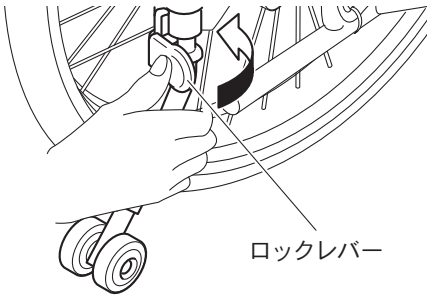
7

⚠ 警　告

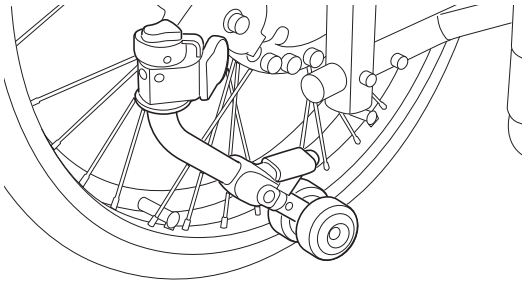
● 走行中は必ず転倒防止バーを出した状態でご使用ください。
転倒防止バーを出さずに走行されますと転倒するおそれがあります。

■ 格納の仕方

ロックレバーを押しながら転倒防止バーを内側に回します。

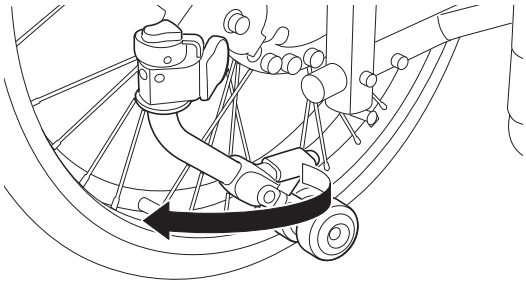


転倒防止バーが格納されます。

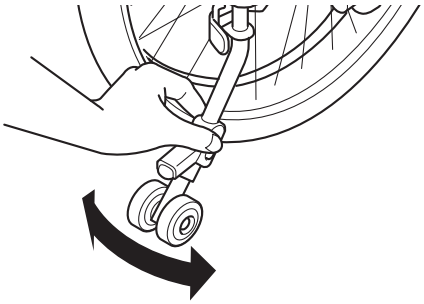


■ 出し方

ロックレバーをさわらず転倒防止バーを“カチッ”というまで外側に回します。



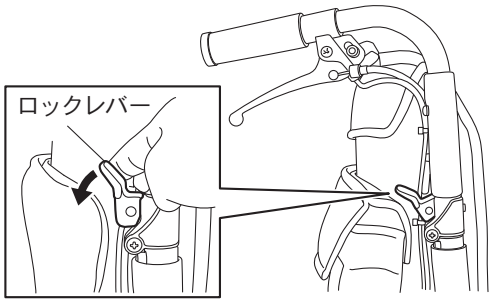
転倒防止バーがロックされていることを確認します。



③ 手押しハンドルを折りたたむ

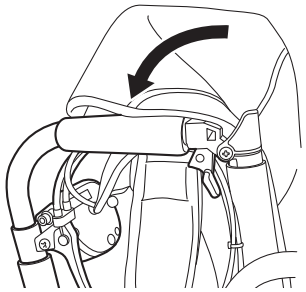
JWX-1ユニットを装着した車イスについては使用フレームのメーカーにご確認ください。
JWアクティブPタイプ・Sタイプとも同様の手順です。

ロックレバーを矢印方向に解除してください。



図はJWアクティブPタイプです

ロックレバーを解除した状態で手押しハンドルを倒してください。



元に戻すには、上図の逆手順を行ってください。
元に戻した後ロックが効いて手押しハンドルが倒れない状態であるかを確認してください。

④ アームサポートを跳ね上げる

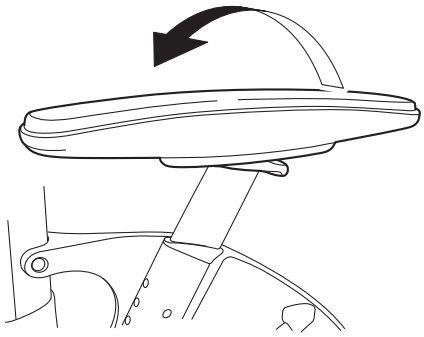
JWX-1ユニットを装着した車イスについては使用フレームのメーカーにご確認ください。

⚠ 警　告

- **跳ね上げ式のアームサポートがついた車イス（JWアクティブ等）では持ち上げるときに絶対にアームサポートを持たないでください。不意にアームサポートが外れ、けがや機器の損傷の原因となります。**

■ JWアクティブSタイプの場合

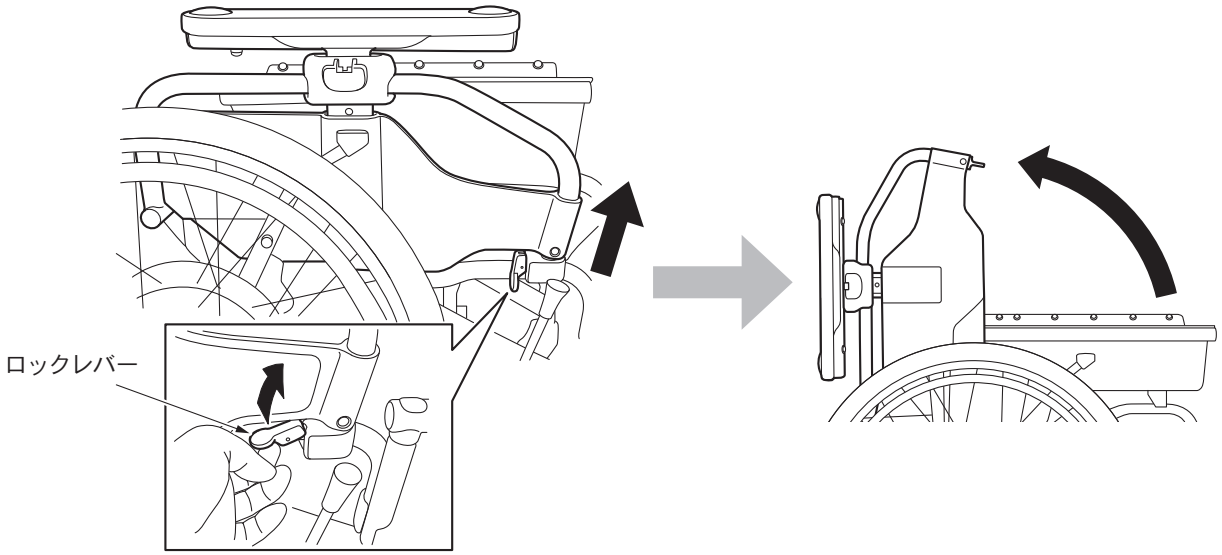
そのままアームサポートを跳ね上げてください。
ロック機能はついていません。



元に戻すには、上図の逆手順を行ってください。

■ JWアクティブPタイプの場合

ロックレバーを上に押し上げロックを解除した状態でアームサポートを跳ね上げます。



元に戻すには、上図の逆順序を行ってください。
アームサポートを倒した後、再度ロックしてください。
必ずロックが効いているかを確認してください。

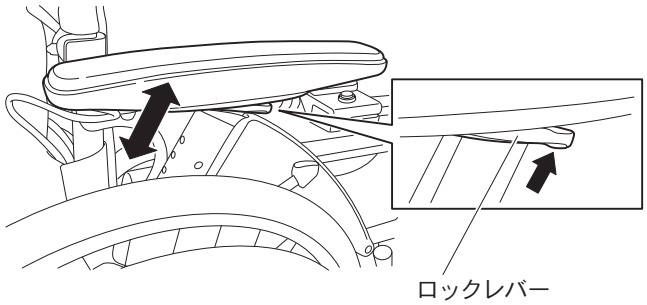
⑤ アームサポートを高さ調節する

JWX-1ユニットを装着した車イスについては使用フレームのメーカーにご確認ください。

⚠ 警　告

- **高さ調整ができるアームサポートがついた車イス（JWアクティブ等）では持ち上げるときに絶対にアームサポートを持たないでください。不意にアームサポートが外れ、けがや機器の損傷の原因となります。**

■ JWアクティブSタイプの場合

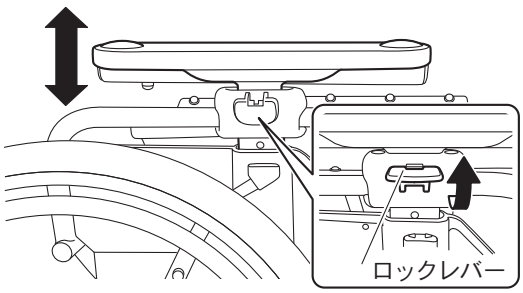


高さを5段階調整することができます。
ロックレバーを上に押し上げながらアームサポートを引き上げ、お好みの高さに合わせたところでロックレバーを放しロックします。

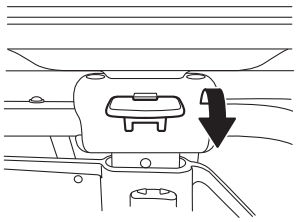
元に戻すには、上図の逆順序を行ってください。
必ずロックが効いているかを確認してください。

■ JWアクティブPタイプの場合

高さを4段階調整することができます。
ロックレバーを上に押し上げロックを解除し、お好みの高さに合わせます。



ロックレバーを下に降ろしロックします。
しっかりロックされているかを確認してください。

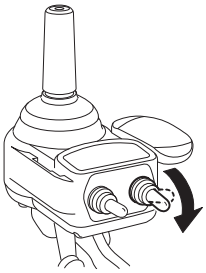


元に戻すには、上図の逆順序を行ってください。
必ずロックが効いているかを確認してください。

⑥ 自走用操作部を格納する

テーブルや机に近づく際にご利用ください。

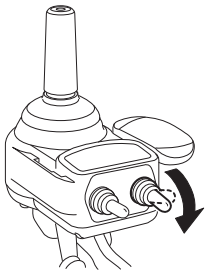
警　告



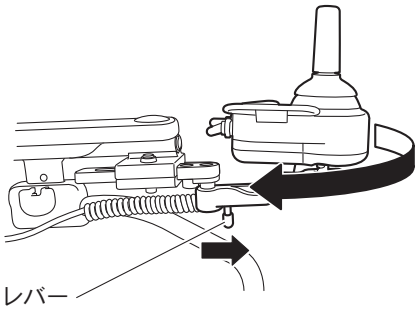
● 自走用操作部を格納する際は、必ず電源をオフにした後に行ってください。電源をオンにしたまま格納しますと、不意に動き出しご自身や周囲の人がけがをするおそれがあります。

■ JWアクティブの場合

電源スイッチをオフにします。



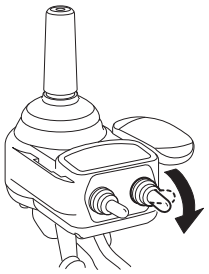
ロックレバーを前に押しながら自走用操作部を回転させます。



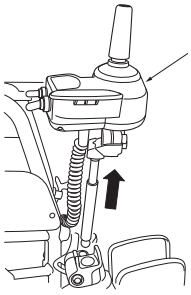
元に戻すには、上図の逆順序を行ってください。
必ずロックが効いているかを確認してください。

■ JWX-1の場合

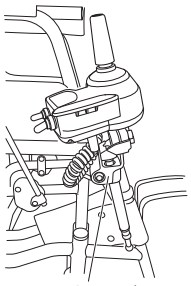
電源スイッチをオフにします。



自走用操作部を上に引き抜きます。



外側にある黒色のホルダーに自走用操作部を挿入します。



元に戻すには、上図の逆順序を行ってください。

⑦ フットレッグサポートを取り外す

JWX-1ユニットを装着した車イスについては使用フレームのメーカーにご確認ください。

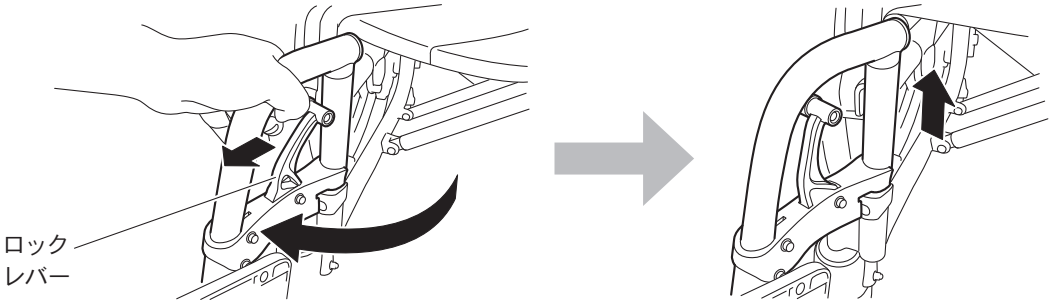
⚠ 警　告

● フットレッグサポートの取り外しができる車イス（JWアクティブ等）では持ち上げるときに絶対にフットレッグサポートを持たないでください。
不意にフットレッグサポートが外れ、けがや機器の損傷の原因となります。

■ JWアクティブSタイプの場合

ロックレバーを矢印方向に引き、ロックを解除した状態でフットレッグサポートを外側に回します。

フットレッグサポートを矢印方向に引き抜きます。

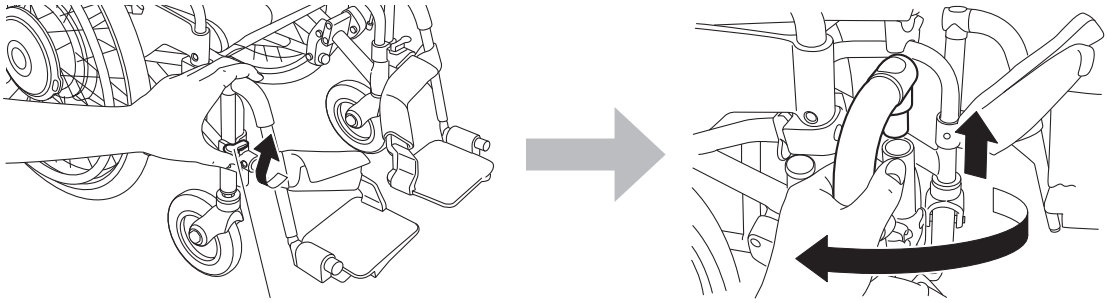


元に戻すには、上図の逆順序を行ってください。
必ずロックが効いているかを確認してください。

■ JWアクティブPタイプの場合

ロックレバーを矢印方向に押し上げロックを解除します。

フットレッグサポートを外側に回し矢印方向に引抜きます。

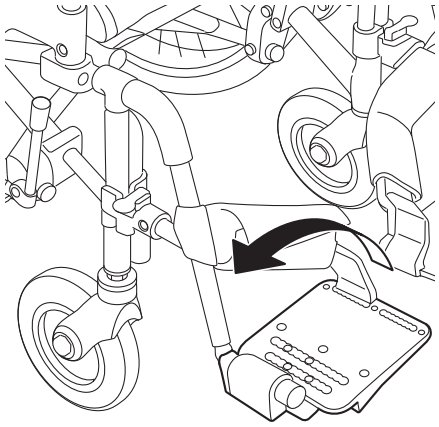


元に戻すには、上図の逆順序を行ってください。
必ずロックが効いているかを確認してください。

⑧ フットサポートを跳ね上げる

JWX-1ユニットを装着した車イスについては使用フレームのメーカーにご確認ください。
JWアクティブ（Pタイプ・Sタイプ）とも同様の手順です。

フットサポートをそのまま跳ね上げてください。



図はJWアクティブPタイプです

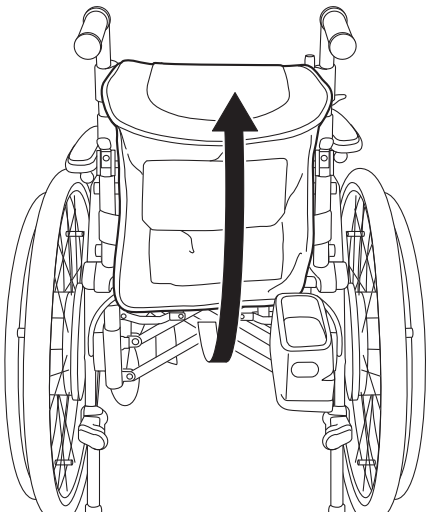
元に戻すには、上図の逆順序を行ってください。

背もたれの張りの調整（JWアクティブSタイプのみ）

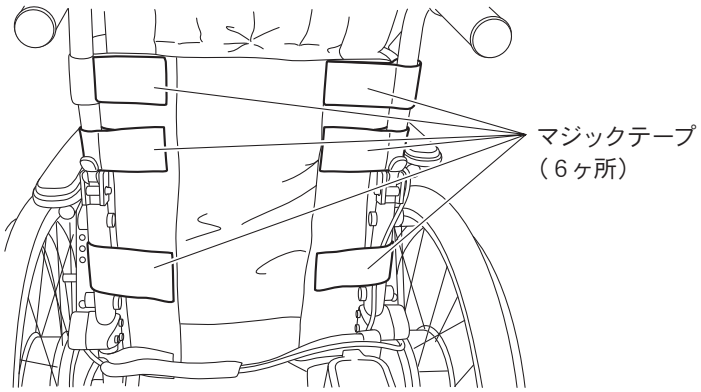
背もたれの張りを調整することができます。
JWX-1ユニットを装着した車イスについては使用フレームのメーカーにご確認ください。

7

背もたれシートを下から持ち上げてはがします。



マジックテープ（6ヶ所）をはがし、背もたれの張りを調整して、マジックテープを貼り直してください。



図はJWアクティブSタイプです

張りの調整後上図の逆順序に従ってシートを元に戻してください。

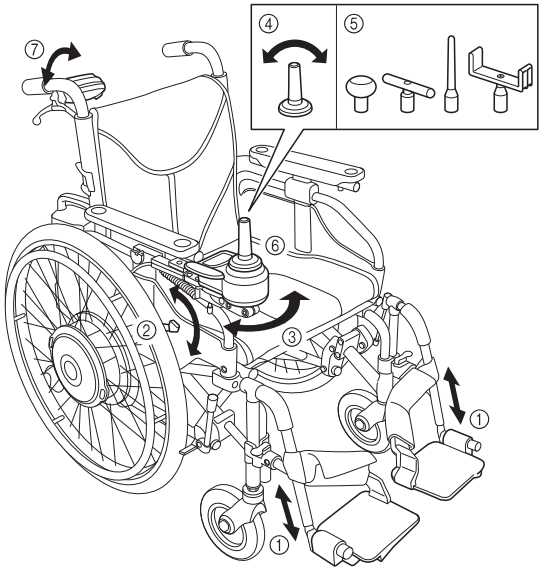
7.2. 操作性や乗り心地を更に高める機能

JWアクティブ JWX-1では、自走操作部や介助操作部の取付位置や操作レバーの操作荷重更に走行での速度や加速感を、お客様の好みに合わせて調整することができます。
調整作業については、販売店で行ってください。

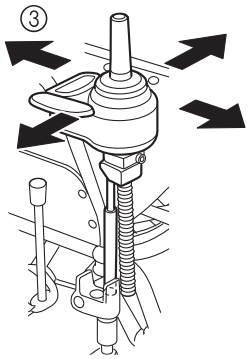
⚠ 警　告

● 車イスの調整や走行に係わる条件の設定は販売店で行ってください。
お客様で実施しますと故障や事故の原因となりご自身や周囲の人がけがをするおそれがあります。

快適な操作性や乗り心地のための7つの機能
（図はJWアクティブPタイプです。）



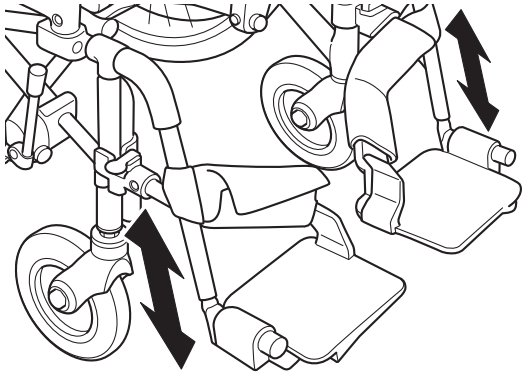
JWX-1



① フットサポートの高さ調整
　　→詳細は７５頁を参照
② クラッチレバーの取付け角度や位置調整
　　→詳細は７５頁を参照
③ 自走用操作部の取付け位置調整
　　→詳細は７６頁を参照
④ 自走用操作部を操作する力の調整
　　→詳細は７６頁を参照
⑤ 操作レバーを使い易い形状のものに交換（別売りの操作レバー４種類から選択）
　　→詳細は７７頁を参照
⑥ 最高速度の変更や乗り心地の調整（パラメータ変更）
　　→詳細は７７頁を参照
⑦ 介助用操作部（別売）の角度調整
　　→詳細は７８頁を参照

①のみJWアクティブの機能です

① フットサポートの高さ調整



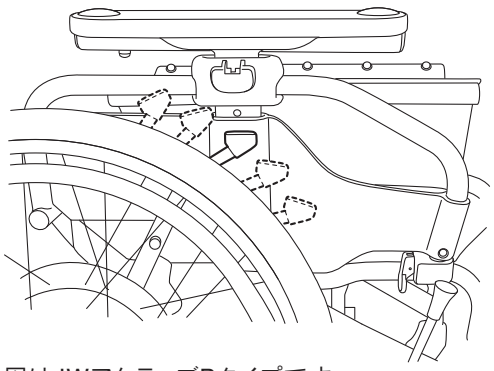
図はJWアクティブPタイプです

JWアクティブ（Pタイプ・Sタイプ）はフットサポートの高さ調整ができます。
販売店に相談してください。

JWX-1ユニットを装着した車イスについては使用フレームのメーカーにご確認ください。

② クラッチレバーの取付け角度や位置調整

クラッチレバーの取付け角度の調整の変更ができます。
取付け位置の変更や取付け角度の調整は、販売店に相談してください。



図はJWアクティブPタイプです

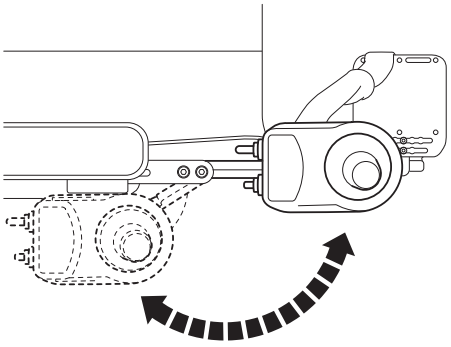
クラッチレバーの取付け角度を調整できます。

③ 自走用操作部の取付け位置調整

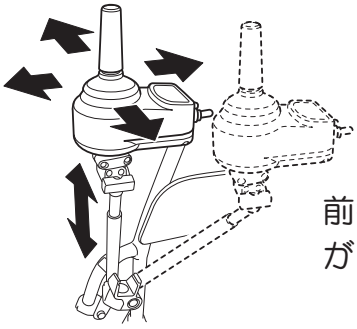
JWアクティブ JWX-1は自走用操作部の取付け位置を調整することができます。
調整については、販売店に相談してください。

■ 位置の調整

（JWアクティブの場合）

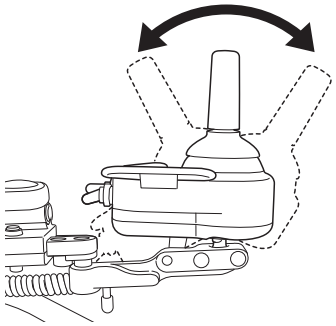


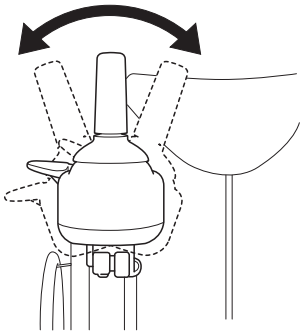
（JWX-1の場合）

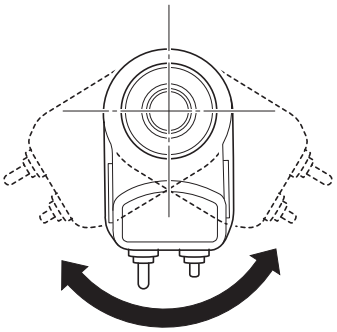


前後 左右 高さの調整
ができます。

■ 角度の調整





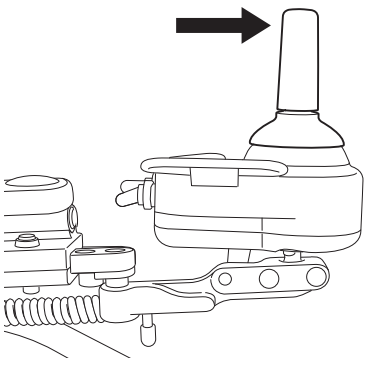


図はJWアクティブPタイプです

④ 自走用操作部を操作する力の調整

JWアクティブ JWX-1は、操作レバーを動かす力を調整できます。
（工場出荷時は、最も軽い設定です。）
調整については、販売店に相談してください。

調整範囲：1.4N (0.14kg) ~ 2.4N (0.24kg)

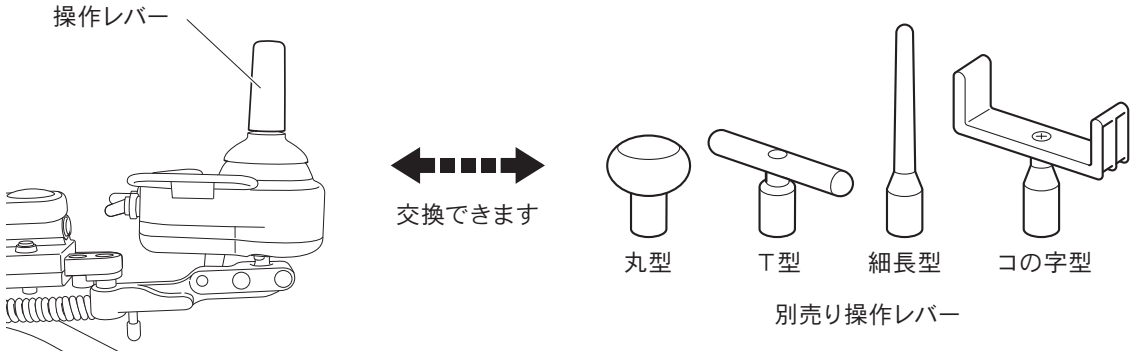


別売りのスペーサを取付けること
により3.2N (0.32kg)まで荷重を
重くすることができます。

図はJWアクティブです

⑤ 操作レバーを使い易い形状のものに交換

４種類の別売り操作レバーに交換することができます。販売店に相談してください。



図はJWアクティブです

⑥ パラメータ設定

オートパワーオフ機能、警告音および操作フィーリングの設定変更ができます。

パラメータ …… 使い勝手を決める条件や走行条件をさします。
オートパワーオフ …… 操作レバーを一定時間操作しない場合はバッテリー節約のために電源が切れる機能です。

⚠ 警　告

● パラメータ設定変更の必要性や変更内容の決定は理学療法士や作業療法士等専門家の指導に基づいて取扱店で行ってください。

■ 設定変更できるパラメータの紹介

代表的な設定変更できるパラメータを紹介します。

- オートパワーオフ機能
  初期設定 ……操作レバーを１０分間操作しないと電源が切れる
  設定１ ……操作レバーを６０分間操作しないと電源が切れる
  設定２ ……自動的に電源が切れません
- ブザー音
  電源を入れる時のブザー音を鳴らないようにする事ができます
  初期設定 ……ブザー音が鳴る
  設定１ ……ブザー音が鳴らない
  ※　エラー音については、クラッチを手動側に入れた状態で電源を入れ、操作レバーを動かした時に鳴る音（クラッチ抜け）以外は鳴ります。
  ※　ホーン（警笛）音を鳴らないようにすることはできません。
- 操作フィーリング（前進・後進・旋回速度など）

プリセットモード

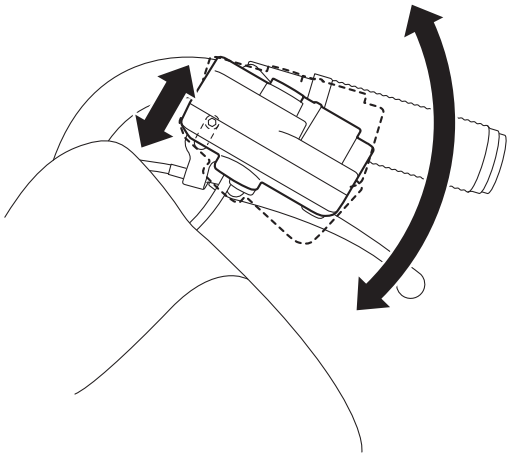
下記3モードがあります。
初期設定 ……標準モード
設定１ ……ソフトモード
設定２ ……スポーツモード

フリーモード

プリセットモードでお客さまに合わなかった場合更に細かい設定変更ができます。

⑦ 介助用操作部（別売）の角度調整

JWアクティブ JWX-1 は介助用操作部の角度を調整することができます。
調整については、販売店に相談してください。



３段階調整
矢印の方向に角度調整できます。

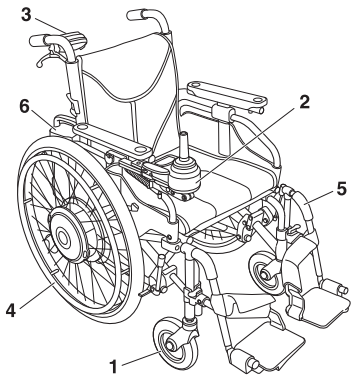
8. 定期点検のおすすめ

⚠ 警　告

● 車イス本体や車輪に異常がある状態で使用し続けると、走行中に車イスが破損し、転倒、転落のおそれがあります。

定期的に販売店で点検されることをおすすめします。（有料）

点検箇所



図はJWアクティブPタイプです

いつまでも車イスを大切にお使いいただくために使用開始後6 ヶ月以降は半年ごとに定期点検されることをおすすめします。

点検項目		点検箇所	
1	キャスター		空気圧 (空気入りの場合)
			摩耗・亀裂
			緩み・ガタ・異音
			バルブねじれ・キャップ (空気入りの場合)
2	自走用操作部		破損・変形・緩み
			メインスイッチ・速度スイッチ作動
			ゴムキャップ破損
			ジョイスティックの操作具合
			ワイヤーリードの通し・損傷
3	介助操作部		破損・緩み
			メインスイッチ・速度スイッチ作動
			ゴムキャップ破損
			ブレーキレバーの遊び・効き具合・鳴き
			ブレーキワイヤー・ワイヤーリードの通し・損傷
4	ユニット部		異音・異物噛み込み
			タイヤ空気圧・摩耗・亀裂・バルブの緩み・キャップ (450kpa・4.5kg/cm^2)
			ハンドリム緩み・損傷
			スポーク緩み・リムの振れ・変形
			車軸締付け・トルク止め締付け
			転倒防止バーの緩み・変形・破損
			バッテリーカバーのビス緩み
			クラッチの操作具合・クラッチワイヤーの損傷
			配線接続部の緩み・損傷
5	フレーム		変形・損傷・ボルト類の緩み
			折り畳み機能
			キシミ音
			フットレスト緩み
			駐車ブレーキの効き具合・摩耗
6	バッテリー・充電器		損傷・使用状況・充電頻度・リフレッシュ状況

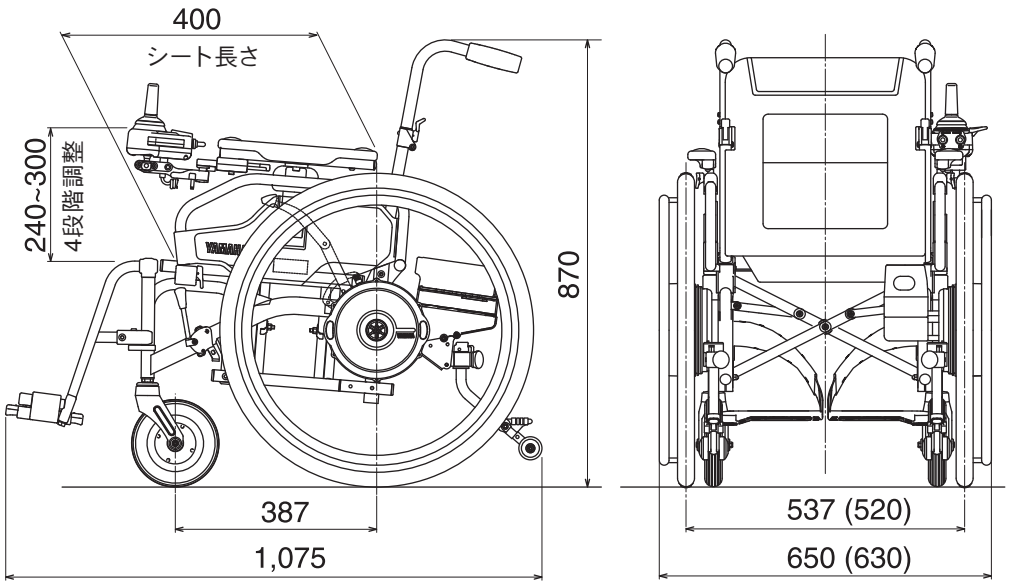
9. 寸法・仕様諸元

9.1. 外観図

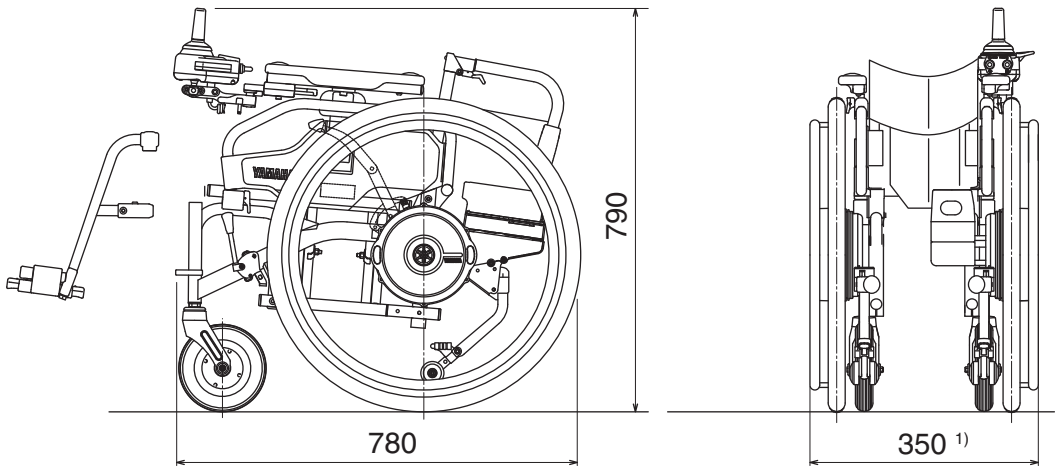
寸法は24インチ仕様車を表記しています。
22インチ仕様車は（　）寸法のみ異なります。
※　タイヤサイズはタイヤの側面に明示してあります

JWアクティブ（Pタイプ）

座幅	前座高	後座高
410（390）	440	410



■ 最小パッケージ寸法

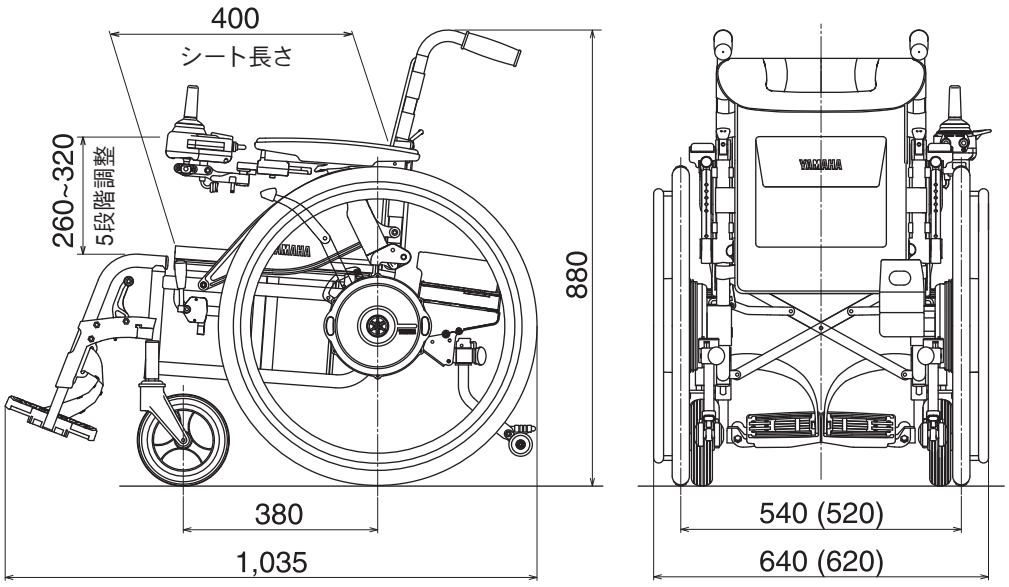


1）介助用操作部がない場合の寸法です。介助用操作部付の場合は、380mmとなります。

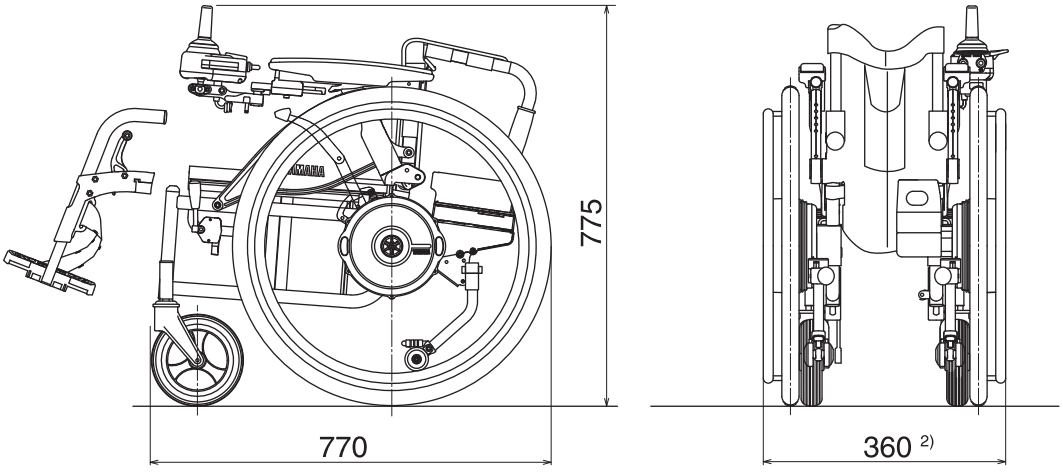
※　最小パッケージ寸法とは車イス本体や手押しハンドルを折りたたみ、転倒防止バーを格納しフットレストを取外した状態です。

JWアクティブ（Sタイプ）

座幅	前座高	後座高
400（380）	440	410



■ 最小パッケージ寸法



2） 介助用操作部がない場合の寸法です。介助用操作部付の場合は、370mmとなります。

※ 最小パッケージ寸法とは車イス本体や手押しハンドルを折りたたみ、転倒防止バーを格納しフットレストを取外した状態です。

9.2. 仕様諸元

（型式; X0C1）4.5km ／ h 仕様

機種				自操用簡易型電動車イス						
				完成車				電動ユニット		
				JWアクティブPタイプ		JWアクティブSタイプ		JWX–1		
全長 × 全幅 × 全高				1075×630 ×870mm	1075×650 ×870mm	1035×620 ×880mm	1035×640 ×880mm	–	–	–
シート構造および寸法 （シート幅 × シート奥行 × バックサポート高） ※注1				クッション式 （取外可） 390×400 ×410mm	クッション式 （取外可） 410×400 ×410mm	クッション式 （取外可） 380×400 ×410mm	クッション式 （取外可） 400×400 ×410mm	–	–	–
重量	バッテリー含む	ニッケル水素搭載時		31kg		30kg		17.5kg		
		リチウムイオン搭載時		31.5kg		30.5kg		18kg		
	バッテリー含まない			28kg		27kg		14.5kg		
タイヤ	後輪			22 インチ	24 インチ	22 インチ	24 インチ	20 インチ	22 インチ	24 インチ
		タイヤサイズ		37-501 （22×1 3/8）	37-540 （24×1 3/8）	37-501 （22×1 3/8）	37-540 （24×1 3/8）	37-451 （20×1 3/8）	37-501 （22×1 3/8）	37-540 （24×1 3/8）
	前輪			7 インチ	7 インチ	7 インチ	7 インチ	–	–	–
バッテリー （マイコン内蔵型）	ニッケル水素			JWB2（24V 6.7Ah） ×1個（5時間率）						
	リチウムイオン			ESB1（25V 11.2Ah） ×1個（5時間率）						
充電器	ニッケル水素用			JWC-2 <定格出力 29V・2.6A（充電時）> マイコン制御による自動充電						
	リチウムイオン用			ESC1もしくはESC2 <定格出力 29.4V・4.5A（充電時）> マイコン制御による自動充電						
駆動モーター（ACサーボモーター）				24V 120W×2（30分定格出力）						
駆動方式				後輪直接駆動						
制動方式				電磁ブレーキ＋モーター回生制動						
操舵方式				ジョイスティック操舵						
制御方式				マイクロコンピュータ制御						
実用登降坂角度				6°（勾配 約10%）						
走行距離	連続走行距離 ※注2	ニッケル水素使用時		15km						
		リチウムイオン使用時		30km						
	連続走行距離 ※注3	ニッケル水素使用時		15km						
		リチウムイオン使用時		29km						
最小回転半径				760mm		720mm		装着する車イスによって異なります		
段差乗越高さ				25mm 注3				装着する車イスによって異なります		
溝乗越幅				100mm 注3				装着する車イスによって異なります		
最高速度	自走操作	前進	第1速	1.7km/h						
			第2速	2.4km/h						
			第3速	3.1km/h						
			第4速	3.8km/h						
			第5速	4.5km/h						
		後退	第1速	0.9km/h						
			第2速	1.2km/h						
			第3速	1.6km/h						
			第4速	1.9km/h						
			第5速	2.3km/h						
	介助操作	前進		1.0km/h ～ 4.9km/h						
		後退		0.4km/h ～ 1.9km/h						
使用者最大体重(積載物も含む)				100kg				100kg 装着する車イスによって異なります		

● 仕様、外観、および上記諸元は改良のため、予告なく変更することがあります。

注1；JIS T9203（2006）指定寸法

注2；ヤマハパターン走行：24インチ、新品充電済みバッテリー、気温25℃、直線平坦路連続走行

注3；JIS T9203（2006）による測定方法

※ JWX-1ユニットの耐過重は125kg（乗員、荷物、フレーム重量を含む）ですが詳細はフレーム強度も含め車イスメーカーにご確認ください。

（型式; X0C2）6km ／ h 仕様

<table>
<tr><td colspan="5" rowspan="3">機種</td><td colspan="6">自操用簡易型電動車イス</td></tr>
<tr><td colspan="4">完成車</td><td colspan="2" rowspan="2">電動ユニット</td></tr>
<tr><td colspan="2">JWアクティブPタイプ</td><td colspan="2">JWアクティブSタイプ</td></tr>
<tr><td colspan="5"></td><td colspan="2">JWX-1</td></tr>
<tr><td colspan="5">全長 × 全幅 × 全高</td><td>1075×630
×870mm</td><td>1075×650
×870mm</td><td>1035×620
×880mm</td><td>1035×640
×880mm</td><td>–</td><td>–</td></tr>
<tr><td colspan="5">シート構造および寸法
（シート幅 × シート奥行 × バックサポート高）
※注1</td><td>クッション式
（取外可）
390×400
×410mm</td><td>クッション式
（取外可）
410×400
×410mm</td><td>クッション式
（取外可）
380×400
×410mm</td><td>クッション式
（取外可）
400×400
×410mm</td><td>–</td><td>–</td></tr>
<tr><td rowspan="3">重量</td><td colspan="2" rowspan="2">バッテリー含む</td><td>ニッケル水素搭載時</td><td colspan="2">31kg</td><td colspan="2">30kg</td><td colspan="2">17.5kg</td></tr>
<tr><td>リチウムイオン搭載時</td><td colspan="2">31.5kg</td><td colspan="2">30.5kg</td><td colspan="2">18kg</td></tr>
<tr><td colspan="2">バッテリー含まない</td><td colspan="2">28kg</td><td colspan="2">27kg</td><td colspan="2">14.5kg</td></tr>
<tr><td rowspan="3">タイヤ</td><td colspan="2">後輪</td><td>22 インチ</td><td>24 インチ</td><td>22 インチ</td><td>24 インチ</td><td>22 インチ</td><td>24 インチ</td></tr>
<tr><td colspan="2">タイヤサイズ</td><td>37-501
（22×1³/₈）</td><td>37-540
（24×1³/₈）</td><td>37-501
（22×1³/₈）</td><td>37-540
（24×1³/₈）</td><td>37-501
（22×1³/₈）</td><td>37-540
（24×1³/₈）</td></tr>
<tr><td colspan="2">前輪</td><td>7 インチ</td><td>7 インチ</td><td>7 インチ</td><td>7 インチ</td><td>–</td><td>–</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">バッテリー
（マイコン内蔵型）</td><td>ニッケル水素</td><td colspan="6">JWB2（24V 6.7Ah）×1個（5時間率）</td></tr>
<tr><td>リチウムイオン</td><td colspan="6">ESB1（25V 11.2Ah）×1個（5時間率）</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">充電器</td><td>ニッケル水素用</td><td colspan="6">JWC-2 <定格出力 29V・2.6A（充電時）> マイコン制御による自動充電</td></tr>
<tr><td>リチウムイオン用</td><td colspan="6">ESC1もしくはESC2 <定格出力 29.4V・4.5A（充電時）> マイコン制御による自動充電</td></tr>
<tr><td colspan="3">駆動モーター（ACサーボモーター）</td><td colspan="6">24V 120W×2（30分定格出力）</td></tr>
<tr><td colspan="3">駆動方式</td><td colspan="6">後輪直接駆動</td></tr>
<tr><td colspan="3">制動方式</td><td colspan="6">電磁ブレーキ+モーター回生制動</td></tr>
<tr><td colspan="3">操舵方式</td><td colspan="6">ジョイスティック操舵</td></tr>
<tr><td colspan="3">制御方式</td><td colspan="6">マイクロコンピュータ制御</td></tr>
<tr><td colspan="3">実用登降坂角度</td><td colspan="6">6°（勾配　約10%）</td></tr>
<tr><td rowspan="4">走行距離</td><td rowspan="2">連続走行距離
※注2</td><td>ニッケル水素使用時</td><td colspan="6">16km</td></tr>
<tr><td>リチウムイオン使用時</td><td colspan="6">32km</td></tr>
<tr><td rowspan="2">連続走行距離
※注3</td><td>ニッケル水素使用時</td><td colspan="6">15km</td></tr>
<tr><td>リチウムイオン使用時</td><td colspan="6">29km</td></tr>
<tr><td colspan="3">最小回転半径</td><td colspan="3">760mm</td><td colspan="2">720mm</td><td colspan="2">装着する車イスによって異なります</td></tr>
<tr><td colspan="3">段差乗越高さ</td><td colspan="4">25mm　注3</td><td colspan="2">装着する車イスによって異なります</td></tr>
<tr><td colspan="3">溝乗越幅</td><td colspan="4">100mm　注3</td><td colspan="2">装着する車イスによって異なります</td></tr>
<tr><td rowspan="12">最高速度</td><td rowspan="10">自走操作</td><td rowspan="5">前進</td><td>第1速</td><td colspan="6">1.7km/h</td></tr>
<tr><td>第2速</td><td colspan="6">2.7km/h</td></tr>
<tr><td>第3速</td><td colspan="6">3.7km/h</td></tr>
<tr><td>第4速</td><td colspan="6">4.7km/h</td></tr>
<tr><td>第5速</td><td colspan="6">5.7km/h</td></tr>
<tr><td rowspan="5">後退</td><td>第1速</td><td colspan="6">0.9km/h</td></tr>
<tr><td>第2速</td><td colspan="6">1.4km/h</td></tr>
<tr><td>第3速</td><td colspan="6">1.8km/h</td></tr>
<tr><td>第4速</td><td colspan="6">2.3km/h</td></tr>
<tr><td>第5速</td><td colspan="6">2.8km/h</td></tr>
<tr><td rowspan="2">介助操作</td><td colspan="2">前進</td><td colspan="6">1.0km/h ～ 4.9km/h</td></tr>
<tr><td colspan="2">後退</td><td colspan="6">0.4km/h ～ 1.9km/h</td></tr>
<tr><td colspan="4">使用者最大体重(積載物も含む)</td><td colspan="4">100kg</td><td colspan="2">100kg
装着する車イスによって異なります</td></tr>
</table>

● 仕様、外観、および上記諸元は改良のため、予告なく変更することがあります。
注1；JIS T9203（2006）指定寸法
注2；ヤマハパターン走行：24インチ、新品充電済みバッテリー、気温25℃、直線平坦路連続走行
注3；JIS T9203（2006）による測定方法
※　JWX-1ユニットの耐過重は125kg（乗員、荷物、フレーム重量を含む）ですが詳細はフレーム強度も含め車イスメーカーにご確認ください。

10. もしもこんな時は・・・

10.1. 修理を依頼する前に

以下の項目を今一度確認してください。

走行時

こんなとき	LED表示	ブザー	ここを確認	こうしてください
走行中に止まってしまう、走り出さない	緑点滅	ピピッ (4回)	クラッチが手動側になっていませんか。	クラッチを電動側に入れてください。
	赤点灯	ピーッ	バッテリーが切れていませんか。	バッテリーを充電してください。 バッテリーに問題が無ければ取扱店に連絡してください。
			リチウムイオンバッテリーを使っていて外気温が氷点下の時や夏の炎天下で走行していませんか。また外気温が氷点下になる場所や車内など高温になる場所で保管していませんか。	手動走行に切り替えてください。
			バッテリーが正しく差し込まれていますか。	バッテリーを正しく差し込んでください。
	緑点滅		自走のときに介助操作部の電源が入っていませんか。	いったん両方の電源をオフにして自走用操作部の電源をオンにします。
	緑点滅		介助のときに自走用操作部の電源が入っていませんか。	いったん両方の電源をオフにして介助用操作部の電源をオンにします。
	緑点滅	ピーッ	操作レバーを倒したまま電源をオンにしていませんか。	操作レバーを中立にして電源操作をやり直してください。直らない場合は取扱店に連絡してください。
			オートパワーオフで自動的に電源が切れたままになっていませんか。	電源をオフにしてから入れ直します。
	赤点滅	ピーッ	無理な走行をした後でモーターがオーバーヒートしていませんか。	電源を切ってしばらく休んでから走行してください。
操縦できない			車椅子のブレーキが掛かっていませんか。	ブレーキを解除してください。
	赤点灯	ピーッ	操作部が作動していますか。	取扱店に連絡してください。
パワー不足	緑点滅	ピーッの繰り返し	大きな負荷が掛かっていませんか。	負荷が低くなると音は出なくなります。
	緑点滅 赤点滅	ピッの 繰り返し	大きな負荷が掛かり、オーバーヒートしていませんか。	負荷が低くなるようにしてオーバーヒートしないようにしてください。
			外気温が下がっていませんか。	温度が下がるとバッテリーのパワーは弱くなります。
			バッテリーが劣化していませんか。	新しいバッテリーに交換してください。ニッケル水素バッテリーなら、まずリフレッシュ充電をしてください。
走行距離が短い、スピードが出ない			バッテリーが充分に充電されていますか。	新しいバッテリーに交換してください。ニッケル水素バッテリーなら、まずリフレッシュ充電をしてください。
			外気温が下がっていませんか。	温度が下がるとバッテリーのパワーは弱くなります。
			重たい荷物を載せていたり、坂道を走行していませんか。	負荷が大きくなると走行距離も短くなります。
			速度パラメータが標準設定されていますか。	取扱店へ連絡してください。
			スピード設定が低速側になっていませんか。	高速側に調整してください。

こんなとき	LED表示	ブザー	ここを確認	こうしてください
手動操作が重い			タイヤの空気圧が低くありませんか。	タイヤの空気を入れてください。
			車椅子のブレーキが掛かっていませんか。	ブレーキを解除してください。
介助側のブレーキが効かない。			ブレーキレバーの遊びが多くありませんか。	取扱店へ連絡してください。
介助側のブレーキが片効きする。			左右のブレーキのバランスがとれていますか。	取扱店へ連絡してください。
ブレーキをかけると音が出る			ブレーキドラムに傷が付いていたり、ブレーキシューが減っていませんか。	取扱店へ連絡してください。
			長時間ブレーキをかけていませんか。	ブレーキはかけ具合によって音が出ますが異常ではありません。
異常な振動や異音が出る			車軸取付け部がゆるんでいませんか。	締め付けるか取扱店へ連絡してください。
			駆動部から異音がしませんか。	取扱店へ連絡してください。
			車椅子フレームやフロントキャスターにガタツキは出ていませんか。	取扱店へ連絡してください。

充電時（Ni-MH ニッケル水素バッテリー）

こんなとき	充電器 LED表示	バッテリー LED表示	ここを確認	こうしてください
充電しない	消灯	消灯	電源コードが接続されていますか。	接続してください。
	消灯	消灯	他のバッテリーで充電できますか。	充電できなければ、充電器を交換してください。
	緑と赤が交互に点滅	消灯	バッテリーのヒューズが切れていませんか。	取扱店に連絡してください。
	緑と赤が交互に点滅	消灯	他のバッテリーで充電できますか。	充電器を交換してください。
	消灯	消灯	他のバッテリーで充電できますか。	充電できれば充電器は正常です。 バッテリーを交換してください。
充電待機中が続く	緑の点滅	残量表示ランプが点灯	バッテリーの温度が適温ですか。	適温になるまで待ってください。
	緑の点滅	残量表示ランプが点灯	周囲温度が適温ですか。	充電適温場所で（夏は涼しい場所で、冬は暖かい場所で）充電してください。
充電が途中で終わる	消灯	残量表示ランプが途中まで点灯	バッテリーの温度が上がっていませんか。	バッテリー温度が下がってからもう一度充電してください。
充電時間が長い	橙の点灯	残量表示ランプが点灯、順次消灯	リフレッシュ充電をしていますか。	バッテリーの放電中です。リフレッシュ充電は3 ～ 13時間掛かる事があります。
充電が完了したがランプが全部つかない		残量表示ランプが途中まで点灯	使用回数や使用日数を確認してください。	バッテリーが劣化していませんか。 300回くらいの充放電で新品時の60%に劣化します。
充電器から音が出る	ランプは状態により点灯	残量表示ランプが点灯	冷却ファンが回る音がしていますか。	充電器を冷却しています。充電器の状態でファンが回ったり止まったりします。
充電器が異常に高温になる	ランプは状態により点灯	残量表示ランプが点灯	冷却ファンが回る音がしていますか。	充電器は50℃くらいになる場合がありますが冷却ファンが作動していれば正常です。冷却ファンが作動しない場合は取扱店へ連絡してください。
充電器から異臭がする	ランプは状態により点灯	残量表示ランプが点灯	使用開始直後ですか。	開始直後は臭う事が有りますが、徐々に臭わなくなります。 継続的に臭う場合は使用を中止してください。 充電器の故障が考えられます。 取扱店に連絡してください。

充電時（Li-ion 00 リチウムイオンバッテリー）

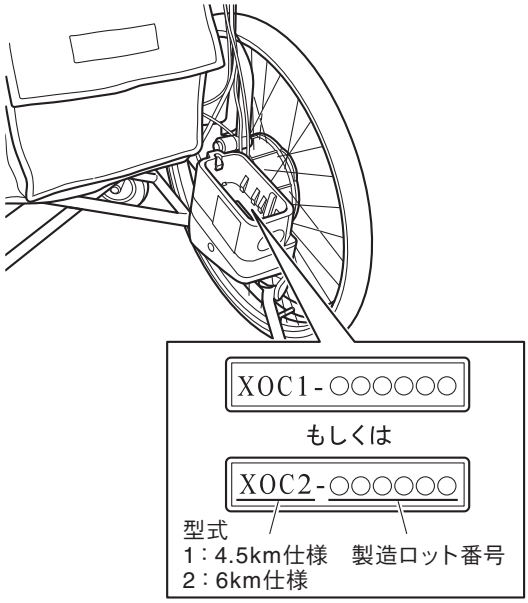
こんなとき	充電器 LED表示	バッテリー LED表示	ここを確認	こうしてください
充電しない	消灯	消灯	電源コードが接続されていますか。	接続してください。
	赤の点灯	消灯		バッテリーの故障が考えられます。 取扱店に連絡してください。
	赤の点滅	消灯	バッテリーと充電器を再接続後同じ現象が出ますか。	バッテリーと再接続後同じ現象が出る場合バッテリーの故障が考えられます。 取扱店に連絡してください。
充電待機中が続く	緑の点滅	残量表示ランプが点灯	バッテリーの温度が適温ですか。	適温になるまで待ってください。
	緑の点滅	残量表示ランプが点灯	周囲温度が適温ですか。	充電適温場所に移動して（夏は涼しい場所で、冬は暖かい場所で）充電してください。
充電器から音が出る	ランプは状態により点灯	残量表示ランプが点灯	冷却ファンが回る音がしていますか。	充電器を冷却しています。充電器の状態でファンが回ったり止まったりします。
充電器が異常に高温になる	ランプは状態により点灯	残量表示ランプが点灯	冷却ファンが回る音がしていますか。	充電器は50℃くらいになる場合がありますが冷却ファンが作動していれば正常です。冷却ファンが作動しない場合は取扱店へ連絡してください。
充電器から異臭がする	ランプは状態により点灯	残量表示ランプが点灯	使用開始直後ですか。	開始直後は臭う事が有りますが、徐々に臭わなくなります。 継続的に臭う場合は使用を中止してください。充電器の故障が考えられます。 取扱店に連絡してください。
バッテリーが異常に高温になる	ランプは状態により点灯	残量表示ランプが点灯		充電を直ぐに中止して取扱店へ連絡してください。

10.2.修理や点検のご用命は

お買い上げいただきました取扱店が、点検・修理をはじめサービスのご相談等をお受け致します。JWアクティブ JWX-1をお求めになった取扱店にお問い合わせください。なお、ご相談時に製造番号が必要になる場合がございますので、次項を参照してご確認の上、取扱店へお伝えください。

お買い求めの取扱店

10.3.製造番号 記載箇所



10.4.保証について

お買い上げいただきましたJWアクティブ JWX-1を構成する純正パーツに、材質または製造上による不都合が生じた場合は、消耗部品を除き保証書に示す条件に従い、その部品の交換または補修により無料で修理を行います。詳しくは保証書をご覧ください。

メモ

ヤマハ発動機株式会社 IM事業部
〒435-0054　浜松市中区早出町882番地
TEL: 053-460-6167

JWX-1 JWアクティブ 取扱説明書
2009年9月発行
不許複製
編集発行 ヤマハ発動機株式会社

X0C-28199-01

再生紙を使用しています。

200909-1.0×1 CR